P3XU-E261-04Z0

エンベデッドコンピュータ AR8200 シリーズ

取扱説明書

このページは空白です。

はじめに

このたびは、弊社のエンベデッドコンピュータ AR8200 シリーズ（スリムタワータイプ）をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。
本製品は、幅広い組込み用途に利用可能な組込み用コンピュータ（エンベデッドコンピュータ）です。
本書は、本製品の基本的な取り扱い方法について解説しています。
本書をご覧いただき、本製品を正しくお使いくださいますよう、お願いいたします。

2007 年 4 月

インテル、Intel、Celeron、Pentium および Intel SpeedStep は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
Red Hat および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。
その他の社名および商品名は各社の登録商標または商標です。

All Rights Reserved, Copyright © 1985-2007 Phoenix Technologies Ltd.
All Rights Reserved, Copyright © 1999-2007 Intel Corporation
All Rights Reserved, Copyright © 2003-2007 Adaptec, Inc.
All Rights Reserved, Copyright © PFU LIMITED 2004-2007

安全にお使いいただくために

本書には、本製品を安全にお使いいただくための重要な情報が記載されています。
弊社は、お客さまの生命、身体や財産に被害を及ぼすことなく安全にお使いいただくために、細心の注意を払っています。本製品をお使いの際は、本書をよくお読みになり、ご理解されたうえでご使用ください。

●警告表示について

本書では、使用者および周囲の方々や財産に損害を与えないための警告表示をしています。警告表示は、警告レベルの記号と警告文の組み合わせになっています。

⚠警告 正しく使用しない場合、死亡または重傷のおそれがあることを示します。

⚠注意 正しく使用しない場合、軽傷または中程度の傷害を負うおそれがあることを示します。
また、当該製品自体または他の使用者の財産に対して損害を与えるおそれがあることを示します。

⚠警告 本製品を安全にお使いいただくために、必ずお守りください。正しく使用しない場合、死亡または重傷のおそれがあることを示します。

作業区分	警　告　事　項
感電・火災について	本製品の分解・解体・改造・再生を行わないでください。
	直射日光のあたる場所や暖房機の近く、湿気、ほこりの多い場所には置かないでください。感電や火災のおそれがあります。
	装置内部が高温になるのを防ぐため、通気孔をふさがないでください。 火災のおそれがあります。
	電源ケーブルは弊社専用品を使用してください。感電・火災・故障の原因となります。
	万一、装置から発熱・発煙・異臭が発生したときは、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。 電源を切ったら購入元に連絡してください。そのまま使用すると、感電や火災のおそれがあります。なお、この場合、通信中のデータは保証されません。
	電源ケーブルやその他のケーブル類を傷つけたり、加工したりしないでください。 電源ケーブルやその他のケーブル類の上に物を載せたり、絡ませたり、足を引っかけたりしないようにしてください。 感電や火災のおそれがあります。
	本製品の電源ケーブルは、タコ足配線にしないでください。コンセントが過熱し、火災の原因となることがあります。
	電源プラグの金属部分およびその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布でよくふき取ってください。そのまま使用すると、火災の原因となります。
	電源ケーブルは、プラグ部分を持ってコンセントから抜いてください。 プラグが傷んで感電や火災のおそれがあります。
	電源プラグは、電源コンセントに確実に奥まで差し込んでください。 差し込みが不十分な場合、感電・発煙・火災の原因となります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。
	電源ケーブルや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるいときは、使用しないでください。 そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
	使用中の装置を布でおおったり、包んだりしないでください。熱がこもり、火災の原因となることがあります。

作業区分	警　告　事　項
感電・火災について	電源ケーブルを束ねて使用しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。
	雷が鳴りだしたら、ケーブル類に触れないでください。感電の原因となります。
	コーヒーなどの液体やクリップなどの金属片が、装置内部に入らないように気をつけてください。また、装置内部に異物が入るのを防ぐため、装置の上には物を置かないでください。感電や火災のおそれがあります。
	装置のすき間に、ドライバやペン先などを入れないでください（リセットスイッチを除く）。感電の原因となります。
破損・負傷について	振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。 落下したりして、けがの原因となることがあります。
	装置の上に物を置いたり、装置の上で作業したりしないでください。 装置が破損したり、作業者が負傷したりするおそれがあります。
	梱包に使用しているビニール袋は、お子様が口に入れたり、かぶって遊んだりしないようご注意ください。窒息の原因となります。
	本製品を廃棄するときは、他のゴミと一緒に捨てないでください。火中に投じると破裂するおそれがあります。

⚠ 注意　正しく使用しない場合、軽傷または中程度の傷害を負うおそれがあることを示します。また、当該製品自体または他の使用者の財産に対して損害を与えるおそれがあることを示します。

作業区分	注　意　事　項
故障について	振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。故障の原因となります。
	装置の上に物を置いたり、装置の上で作業したりしないでください。故障の原因となります。
	装置を高いところから落とさないでください。故障の原因となります。
	本製品は、屋内に設置してください。屋外で使用すると故障の原因となります。
	極端な高温、または低温状態や温度変化の激しい場所で使用しないでください。故障の原因となります。
	塩害地域では使用しないでください。故障の原因となります。
	衝撃や振動の加わる場所で使用しないでください。故障の原因となります。
	薬品の雰囲気中や、薬品に触れる場所で使用しないでください。故障の原因となります。
	電子レンジなど、強い磁界を発生する装置のそばで使用しないでください。故障の原因となります。
	内部に液体や金属類などの異物が入った状態で使用しないでください。故障の原因となります。
	本製品を移動するときは、必ず電源ケーブルを本体から抜いてください。故障の原因となります。
電波障害について	ラジオやテレビジョン受信機のそばで使用しないでください。 ラジオやテレビジョン受信機に雑音が入る場合があります。
感電について	保守時には必ず電源ケーブルを本体から抜いてください。

●使用上の注意

- 本製品として提供される取扱説明書、装置本体は、お客さまの責任でご使用ください。
- 本製品の使用によって発生する損失やデータの損失については、弊社では一切責任を負いかねます。また、本製品の障害の保証範囲はどんな場合も、本製品の代金としてお支払いいただいた金額を超えることはありません。あらかじめご了承ください。
- 本製品に含まれる、装置本体、専用オプション以外の他社のハードウェア、ソフトウェアに関するトラブルについては、弊社では一切責任を負いかねます。
- 本製品に改変や分解を行うことは、一切許可していません。

●拡張カードの装着に関する注意

⚠警告 取り付けや取り外しを行うときは、装置および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルを装置本体から取り外してください。感電の原因となります。

⚠注意 ●本体装置内部について

電源を切った直後は、装置内部が熱くなっています。内蔵オプションの取り付けや取り外しを行うときは、電源を切ったあと 10 分ほど待ってから、作業を始めてください。

また、ベースボード上に搭載されているヒートシンクなどは、絶対に触らないでください。

●拡張カード

- 内蔵オプションは、基板や半田づけした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、装置本体の金属部分に触れて、人体の静電気を放電してください。
- 基板表面や半田づけの部分に触れないように、金具の部分や基板の縁を持つようにしてください。
- 静電気の影響を受けやすいので、伝導パッドなどの上に置くか、取り扱う直前まで梱包袋に入れておいてください。
- 外部に電源が出力される拡張カード (VGA、USB、SCSI などのインターフェースに電源供給を行うもの）については、拡張カード内に安全規格の認定を得た 5A 以下の過電流保護素子を挿入してください。
- 拡張可能な PCI カードの総電力は 60W 以下です。

●バッテリの交換について

⚠ 注意　本製品では、BIOS 情報などの保持のため、バッテリ（CMOS RAM のバッテリ）を搭載しています。

- バッテリには触れないでください。また、バッテリの取り付けや取り外しは絶対に行わないでください。感電の原因となったり、人体に発生する静電気によって装置に損傷を与える場合があります。
- 電源投入時 "CMOS Battery Low" のメッセージが画面に表示される場合や、BIOS セットアップにより設定した内容が正しく保存されない場合は、バッテリが消耗していることが考えられます。
  この場合はバッテリを交換せずに、必ず弊社の担当営業までご連絡ください。

●電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

●高調波電流障害の防止について

高調波電流規格 JIS C-61000-3-2 適合品

●海外での使用について

当社のドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

●ハイセイフティについて

本製品は、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではございません。
お客さまは、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

●使用済み製品のリサイクルについて

- この製品の所有権が事業主の場合には、使用済み後に廃却される製品は産業廃棄物扱いとなり、廃棄する際にはマニフェスト伝票（廃棄物管理表）の発行が必要となります。
- 製品所有者が弊社に廃棄を依頼される場合には、弊社と連携している物流会社（産業廃棄物収集運搬許可業者）にて引き取りを行います。その際には、「PFU ライフビジネス株式会社　首都圏リサイクルセンター」（電話 0467-70-7290）へお問い合わせください。
- 弊社では、リサイクルシステムを構築し、リサイクルセンターで使用済み製品の解体、分別処理により、部品の再使用や材料へのリサイクルを行っています。

●使用済み電池の廃却について

- 本製品に使用している電池は、埋蔵量の少ない高価な希少資源を使用しています。リサイクルにご協力ください。
- 使用済み電池を廃棄する場合は、本製品のお客さまが事業主の場合は産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分業の許可を取得している会社に処分を委託してください。個人のお客さまは、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従って廃棄してください。

●グリーン製品について

弊社の厳しい環境評価基準をクリアした、地球に優しい、環境への負荷の少ない「グリーン製品」です。

主な特長

- 小型／省資源化
- 節電機能保有
- 再資源化率が高い

PFU ENVIRONMENTAL PROTECTION

本書の読み方

●本書の構成について

第 1 章　お使いになる前に

本製品の概要について説明します。

第 2 章　取り扱い方法

本製品の基本的な取り扱い方法について説明します。

第 3 章　拡張カードの取り付け／ 取り外し

拡張カードの取り付け／取り外し手順について説明します。

第 4 章　BIOS セットアップ

BIOS セットアップの概要、メニューの項目について説明します。

第 5 章　困ったときには

本製品を使用中に異常が起きた際の対処方法について説明します。

付録

仕様や留意事項について説明します。

●本書の表記について

本書で使用している記号とその意味を以下に示します。

重要	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。 必ずお読みください。
備考	操作に関する補足事項を記述しています。 必要に応じてお読みください。
参照	関連する情報が記載されているマニュアルを示したり、参照先を示しています。 必要に応じてお読みください。

●略称

本書では、以下の用語について省略して表記する場合がありますので、ご了承ください。

製品名称	略称
エンベデッドコンピュータ AR8200 シリーズ　モデル 200 エンベデッドコンピュータ AR8200 シリーズ　モデル 210 エンベデッドコンピュータ AR8200 シリーズ　モデル 200E	本製品
Microsoft® Windows® XP Professional operating system	Windows® XP Professional
Microsoft® Windows® XP Professional operating system、または Microsoft® Windows® XP Embedded operating system を区別しない場合	Windows® XP
Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system	Windows® 2000
Red Hat® Enterprise Linux® V3 / V4	Linux

● CD-ROM の表記について

ここでは、CD-ROM ドライブ、CD-RW および DVD-ROM ドライブを「CD-ROM ドライブ」と表記しています。特に断りのない限り、CD-ROM ドライブと記述している部分は、CD-RW/DVD-ROM ドライブを含みます。

また、CD-ROM、CD-RW および DVD-ROM を「CD-ROM」と表記しています。特に断りのない限り、CD-ROM と記述している部分は、CD-RW/DVD-ROM を含みます。

目次

はじめに i
安全にお使いいただくために ii
●警告表示について ii
●使用上の注意 iv
●拡張カードの装着に関する注意 iv
●バッテリの交換について v
●電波障害自主規制について v
●高調波電流障害の防止について v
●海外での使用について v
●ハイセイフティについて v
●使用済み製品のリサイクルについて vi
●使用済み電池の廃却について vi
●グリーン製品について vi
本書の読み方 vii
●本書の構成について vii
●本書の表記について viii
●略称 viii
● CD-ROM の表記について viii

目次 ix

第 1 章　お使いになる前に 1
1.1　機能と特長 1
1.2　作業の流れ 3
1.3　梱包物の確認 4
1.4　各部の名称と働き 5
（1） 本体前面 5
（2） 本体背面（モデル 200） 6
（3） 本体背面（モデル 210：LAN カードオプション、RS-232C ブラケットオプション搭載時） 7
（4） 本体背面（モデル 200E：LAN カードオプション、RS-232C ブラケットオプション搭載時） 9
1.5　装置ラベルについて 11
（1） 警告ラベル 11
（2） VCCI ラベル 11
（3） 注意ラベル 11

（4） ライセンスラベル（オプション）.....12
（5） 製造銘板.....12
1.6 本製品の設置.....13
（1） 設置条件.....13
（2） 足の取り付け.....17
（3） コネクタの接続.....19

第 2 章 取り扱い方法.....21
2.1 電源の入れ方／切り方.....21
（1） 電源を入れる.....21
（2） 電源を切る.....22
2.2 フロッピーディスクのセット／取り出し.....23
（1） 取り扱い上の注意.....23
（2） フロッピーディスクをセットする.....23
（3） フロッピーディスクの取り出し.....23
2.3 CD-ROM のセット／取り出し.....24
（1） 取り扱い上の注意.....24
（2） CD-ROM をセットする.....26
（3） CD-ROM を取り出す.....27
2.4 防塵フィルタの取り扱いについて.....28
（1） 防塵フィルタの点検.....28
（2） 防塵フィルタの清掃方法.....28
（3） フィルタの交換手順.....28
2.5 RAID カードの取り扱いについて.....29

第 3 章 拡張カードの取り付け／取り外し.....31
3.1 取り付ける前に.....31
（1） 拡張カードの搭載場所.....31
（2） 拡張カードスロットの仕様.....32
3.2 各カバーの取り外し／取り付け.....33
（1） 取り外し手順.....33
（2） 取り付け手順.....33
3.3 PCI カードの取り付け／取り外し.....34
（1） 取り付け手順.....34
（2） 取り外し手順.....35
3.4 AGP カードの取り付け／取り外し（モデル 200/210）.....36
（1） 取り付け手順（ディスプレイコネクタなしの場合）.....36
（2） 取り付け手順（ディスプレイコネクタありの場合）.....38
（3） 取り外し手順.....40

第 4 章 BIOS セットアップ.....41
4.1 BIOS セットアップについて.....41

4.2 BIOS セットアップの操作 42
（1） BIOS セットアップの起動 42
（2） BIOS セットアップで使用するキー 44
（3） BIOS セットアップによる設定の変更方法 44
（4） BIOS セットアップの終了 45
（5） Quiet ブート時の BIOS セットアップの起動 45
4.3 BIOS セットアップのメニュー（モデル 200） 46
（1） Main メニュー 47
（2） Main メニューのサブメニュー 49
（3） Advanced メニュー 57
（4） Advanced メニューのサブメニュー 60
（5） Power メニュー 71
（6） Boot メニュー 73
（7） Boot メニューのサブメニュー 74
（8） Exit メニュー 76
4.4 BIOS セットアップのメニュー（モデル 210） 77
（1） Main メニュー 78
（2） Main メニューのサブメニュー 79
（3） Advanced メニュー 81
（4） Advanced メニューのサブメニュー 84
（5） Security メニュー 93
（6） Power メニュー 94
（7） Power メニューのサブメニュー 96
（8） Boot メニュー 97
（9） Boot メニューのサブメニュー 99
（10） Exit メニュー 101
4.5 BIOS セットアップのメニュー（モデル 200E） 102
（1） Main メニュー 103
（2） Main メニューのサブメニュー 105
（3） Advanced メニュー 109
（4） Advanced メニューのサブメニュー 111
（5） Security メニュー 121
（6） Power メニュー 122
（7） Power メニューのサブメニュー 124
（8） Boot メニュー 125
（9） Boot メニューのサブメニュー 126
（10） Exit メニュー 128

第 5 章 困ったときには 129
5.1 起動時の動作に関するトラブル 129
（1） 電源が入らない 129
（2） 起動時にメッセージが表示される 129
5.2 営業員に連絡するときは 130
（1） 確認事項 130
（2） 修理対象期間 130

付録 A　仕様 131
A.1　製品仕様 131

付録 B　BIOS メッセージ 135

付録 C　BIOS 設定シート 137
C.1　モデル 200 137
C.2　モデル 210 141
C.3　モデル 200E 145

付録 D　アラーム LED の仕様について 149
D.1　アラーム LED 点灯条件 149
D.2　アラーム LED 消灯条件 149

付録 E　Ultra POST について（モデル 200/210） 150
E.1　Ultra POST とは 150
E.2　診断手順 150
E.3　画面の詳細説明 151
（1） 診断項目 151
（2） 総合診断結果 152
（3） 操作アイコン 152
E.4　診断項目の詳細説明 153

付録 F　他社製周辺機器をご利用の際の注意事項 155

付録 G　ハードディスクの連続長時間運用に関する注意事項 156
G.1　故障と運用時の注意事項 156
G.2　修理について 156

付録 H　カリフォルニア州法（過塩素酸塩の取り扱いに関する規制）について 157
H.1　規制対象 157
H.2　適用範囲 157
H.3　過塩素酸塩物質の管理実践要求事項の表示 157
H.4　必要な対応 157

索引 159

第 1 章　お使いになる前に

この章では、本製品の概要と操作の流れについて説明します。

1.1　機能と特長

本製品は、幅広い組込み用途に利用可能な、スリムタワー型のコンピュータです。

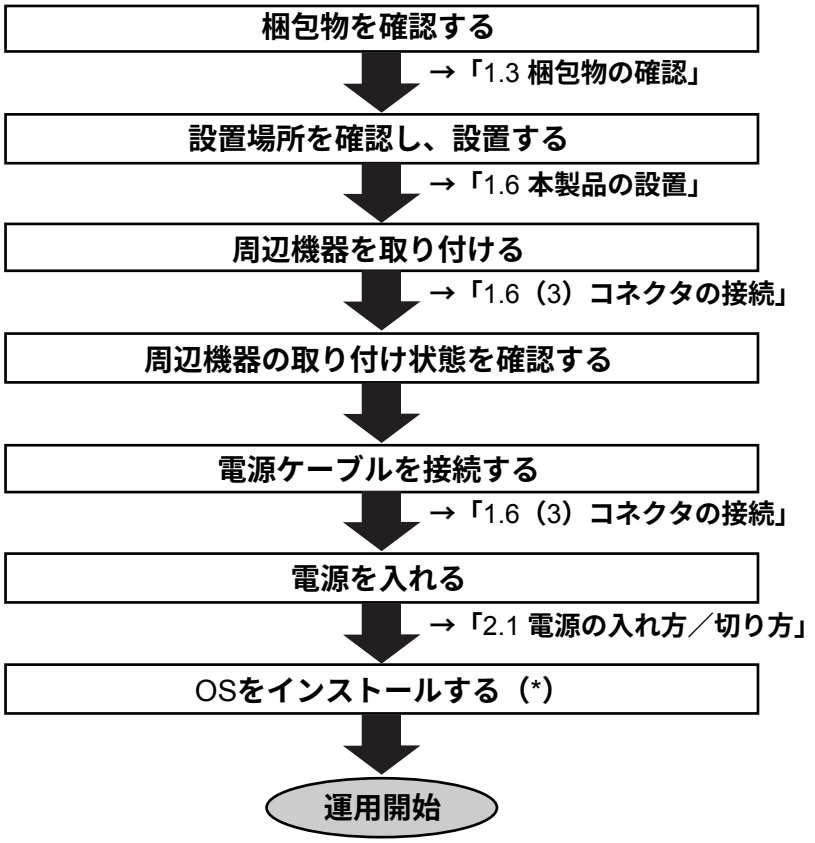
- モデル 200 は、インテル® Pentium® 4 または Celeron ® プロセッサを 1 個搭載できます。
- モデル 210/200E は、インテル® Pentium® M または Celeron ® M プロセッサを 1 個搭載できます。
- 各モデルのメモリ最大容量は、以下のとおりです。（弊社提供オプションをご利用ください。）
    - モデル 200：最大 1GB
    - モデル 210/210E：最大 2GB
- 3.5 インチのハードディスクを最大 2 台まで搭載できます。(弊社提供オプションをご利用ください。)
- USB（Universal Serial Bus）2.0 規格のコネクタを 6 ポート装備しています（前面× 2、背面× 4）。
- 背面に以下のコネクタを装備しています。
    - LAN コネクタ
      モデル 200：10/100BASE-TX × 1
      モデル 210：10/100BASE-TX × 2
      モデル 200E：10/100BASE-TX × 1、10/100/1000BASE-T × 1
    - シリアルポート
    - パラレルポート
    - オーディオコネクタ
    - ディスプレイコネクタ（モデル 210/200E）
- 機能拡張用オプションとして以下のものを用意しています。
    - LAN カードオプション
      10/100/1000BASE-T 対応、最大 2 枚まで搭載可能
    - RS-232C ブラケットオプション
      RS-232C コネクタを 1 個増設可能
    - CD-RW/DVD-ROM オプション
    - OS オプション（モデル 210/200E）
      Windows® XP Professional プレインストール
    - フロッピーディスクドライブオプション

- RAID オプション
  SATA RAID カードを使用して RAID1（ミラーリング）を構築します。
  本オプション搭載時に選択可能な HDD として、80GB、160GB の 2 種類を用意しています。

本製品には 3 つのモデルがあり、コネクタなどが異なります。
本書で使用する本体の図は、特に断りのない限り、モデル 200E の例です。

1.2 作業の流れ

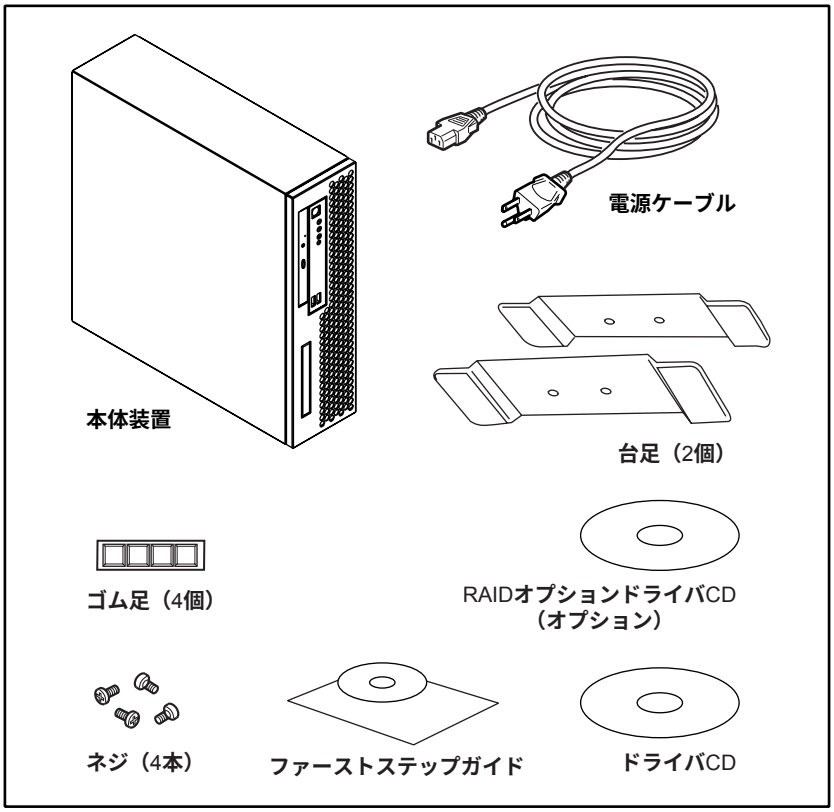
開梱から運用開始までの作業の流れを次に示します。



*）弊社提供の OS オプションを選択されている場合、本作業は不要です。

1.3 梱包物の確認

本製品をお使いになる前に、次のものがすべてそろっているか確認してください。
万一、不足しているものがある場合は、購入元に連絡してください。

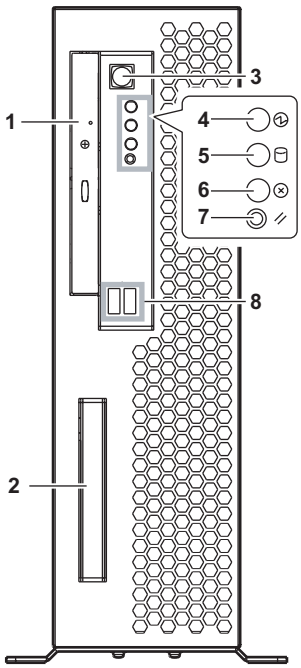


添付品の名称	内容
□装置本体	本製品の装置本体です。
□電源ケーブル	本体用の電源ケーブルです。
□ドライバ CD	本製品のデバイスドライバ類、監視プログラム（System Monitor）および『取扱説明書』（本書）を格納した CD-ROM です。
□ RAID オプションドライバ CD （オプション）	RAID オプションのドライバ類、プログラム類（Adaptec Storage Manager など）および取扱説明書類を格納した CD-ROM です。
□ネジ（4 本）	台足固定用です。
□台足（2 個）	本製品を縦置きにする場合に取り付けます。 →「1.6 本製品の設置」の「(2) 足の取り付け」（P.17）
□ゴム足（4 個）	本製品を横置きにする場合に取り付けます。 →「1.6 本製品の設置」の「(2) 足の取り付け」（P.17）
□ファーストステップガイド	Windows® XP Professional の説明書とリカバリ用 CD-ROM です。

1.4 各部の名称と働き

本製品の各部の名称とその働きは、以下のとおりです。

（1） 本体前面



1 CD-ROM ドライブ

2 フロッピーディスクドライブベイ
オプションのフロッピーディスクドライブを搭載します。

3 電源スイッチ ⏻
本製品の電源を入れたり切ったりする場合に使用します。5 秒以上押し続けると、強制的に電源を切ることができます。

4 電源ランプ ㊤
本製品に電源が入っているときに、緑色に点灯します。

5 ハードディスクアクセスランプ ⛁
ハードディスクにデータを書き込んだり、ハードディスクからデータを読み込んだりしているときに、緑色に点灯します。

6 アラームランプ ⊗
POST 動作中に異常が検出されたときオレンジ色に点灯します。
詳細は、「付録 D アラーム LED の仕様について」（→ P.149）を参照してください。

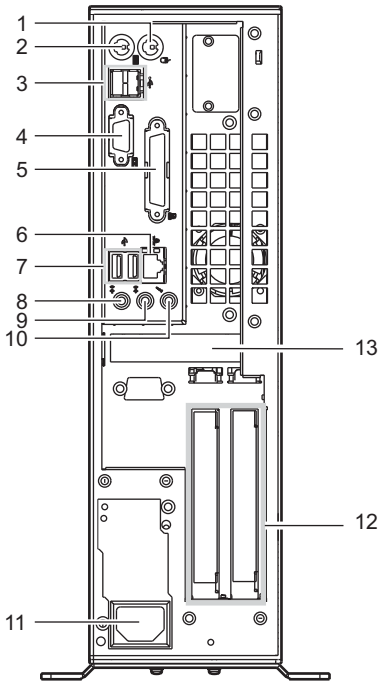
7 リセットスイッチ ⁄⁄
システムのリセットを行います。

8 USB コネクタ ⇽
USB2.0 規格のコネクタが 2 つ用意されています。

⚠ 注意

本コネクタを使用される際には、50cm 以上の長さの USB 延長ケーブルはご使用にならないでください。ご使用になった場合、接続した USB デバイスが正常に動作しない場合があります。
（ご使用になった場合の動作の保証は致しかねます。）

（2） 本体背面（モデル 200）



1 マウスコネクタ
6 ピン小型 DIN の PS/2 インタフェースに対応したマウスを接続します。

2 キーボードコネクタ
6 ピン小型 DIN の PS/2 インタフェースに対応したキーボードを接続します。

3 USB コネクタ
USB（Universal Serial Bus）2.0 規格のコネクタが 2 つ用意されています。

4 シリアルポート
RS-232C 規格の装置のケーブルを接続します。

5 パラレルポート
プリンタ装置（ESC/P シーケンス）のケーブルを接続します。

6 LAN コネクタ
10/100BASE-TX 仕様準拠の LAN コネクタです。

7 USB コネクタ
USB（Universal Serial Bus）2.0 規格のコネクタが 2 つ用意されています。

8 ラインアウトコネクタ
オーディオケーブル（ライン出力用）を接続します。

9 ラインインコネクタ
オーディオケーブル（ライン入力用）を接続します。

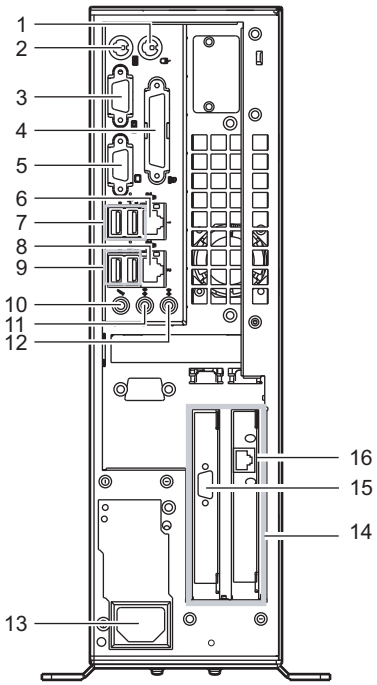
10 マイクインコネクタ
オーディオケーブル（マイク入力用）を接続します。

11 インレット
電源ケーブルを接続します。

12 PCI スロット
PCI カードを搭載します
左から、スロット 1、2 となります。

13 AGP スロット
AGP カードを搭載します。

（3） 本体背面（モデル 210：LAN カードオプション、RS-232C ブラケットオプション搭載時）



1 マウスコネクタ
6 ピン小型 DIN の PS/2 インタフェースに対応したマウスを接続します。

2 キーボードコネクタ
6 ピン小型 DIN の PS/2 インタフェースに対応したキーボードを接続します。

3 シリアルポート
RS-232C 規格の装置のケーブルを接続します。

4 パラレルポート
プリンタ装置（ESC/P シーケンス）のケーブルを接続します。

5 ディスプレイコネクタ
ディスプレイを接続します。

6 LAN コネクタ 1
10/100BASE-TX 仕様準拠の LAN コネクタです。

7 USB コネクタ
USB（Universal Serial Bus）2.0 規格のコネクタが 2 つ用意されています。

8 LAN コネクタ 2
10/100BASE-TX 仕様準拠の LAN コネクタです。

9 USB コネクタ
USB（Universal Serial Bus）2.0 規格のコネクタが 2 つ用意されています。

10 マイクインコネクタ
オーディオケーブル（マイク入力用）を接続します。

11 ラインアウトコネクタ
オーディオケーブル（ライン出力用）を接続します。

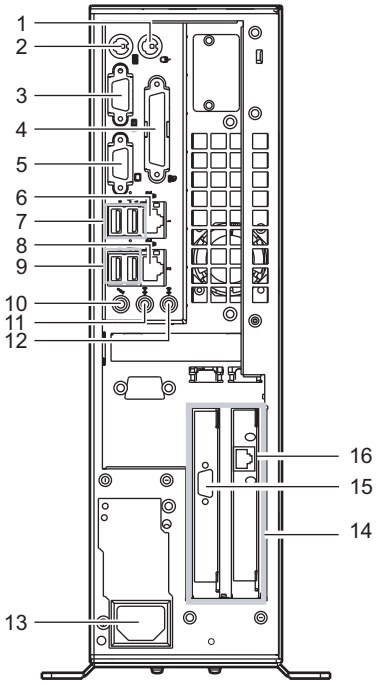
12 ラインインコネクタ
オーディオケーブル（ライン入力用）を接続します。

13 インレット
電源ケーブルを接続します。

14 PCI スロット
PCI カードを搭載します。
左から、スロット 1、2 となります。

15 シリアルポート 2（ブラケットオプション）
RS-232C 規格の装置のケーブルを接続します。
16 LAN コネクタ 3（オプション）
10/100/1000BASE-T 仕様準拠の LAN コネクタです。
17 AGP スロット
AGP カードを搭載します。

（4） 本体背面（モデル 200E：LAN カードオプション、RS-232C ブラケットオプション搭載時）



1 マウスコネクタ
6 ピン小型 DIN の PS/2 インタフェースに対応したマウスを接続します。

2 キーボードコネクタ
6 ピン小型 DIN の PS/2 インタフェースに対応したキーボードを接続します。

3 シリアルポート
RS-232C 規格の装置のケーブルを接続します。

4 パラレルポート
プリンタ装置（ESC/P シーケンス）のケーブルを接続します。

5 ディスプレイコネクタ
ディスプレイを接続します。

6 LAN コネクタ 1
10/100BASE-TX 仕様準拠の LAN コネクタです。

7 USB コネクタ
USB（Universal Serial Bus）2.0 規格のコネクタが 2 つ用意されています。

8 LAN コネクタ 2
10/100/1000BASE-T 仕様準拠の LAN コネクタです。

9 USB コネクタ
USB（Universal Serial Bus）2.0 規格のコネクタが 2 つ用意されています。

10 マイクインコネクタ
オーディオケーブル（マイク入力用）を接続します。

11 ラインアウトコネクタ
オーディオケーブル（ライン出力用）を接続します。

12 ラインインコネクタ
オーディオケーブル（ライン入力用）を接続します。

13 インレット
電源ケーブルを接続します。

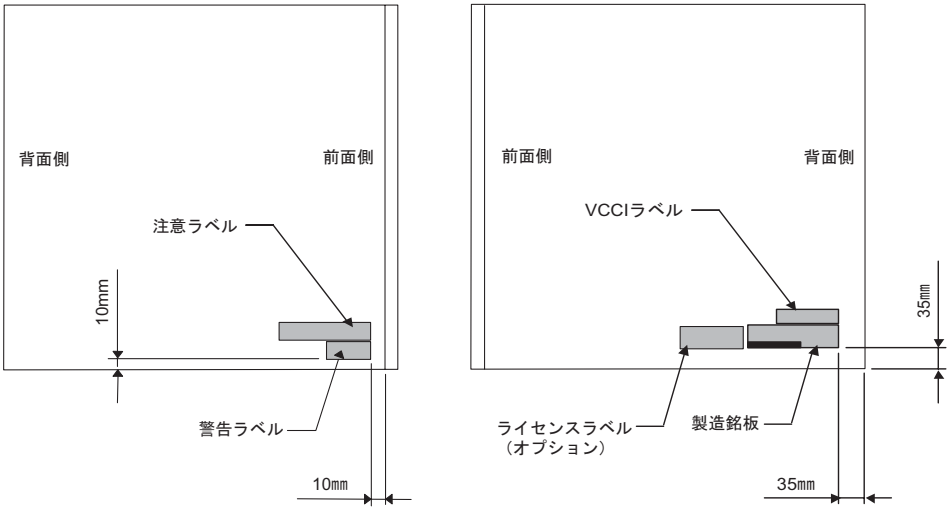
14 PCI スロット
PCI カードを搭載します。
左から、スロット 1、2 となります。

15 シリアルポート 2（ブラケットオプション）
RS-232C 規格の装置のケーブルを接続します。
16 LAN コネクタ 3（オプション）
10/100/1000BASE-T 仕様準拠の LAN コネクタです。

⚠ 注意 モデル 200E に RS-232C ブラケットオプションを搭載する場合、HDD を増設することはできません。

1.5 装置ラベルについて

本製品に貼付されているラベルについて説明します。



（1） 警告ラベル

本製品には、以下のような警告ラベルが貼ってあります。
警告ラベルは、絶対にはがしたり汚したりしないでください。

⚠注意　感電

装置内部構成品の取り付け等で分解する場合は、感電する恐れがありますので、本体および接続している周辺装置の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。

（2） VCCI ラベル

VCCI の基準に関するラベルです。

この装置は、クラスＡ情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。　VCCI－A

（3） 注意ラベル

本製品には、以下のような注意ラベルが貼ってあります。
注意ラベルは、絶対にはがしたり汚したりしないでください。

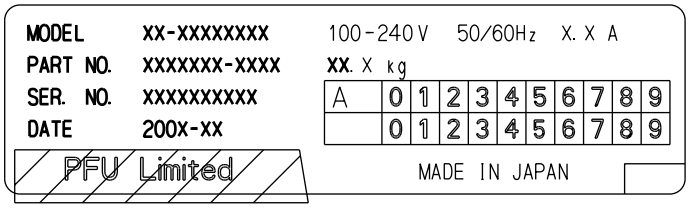
注意
本装置を持つときは、フロントカバー部を持たないでください。

（4） ライセンスラベル（オプション）

Microsoft 社の COA（Certificate of Authenticity）ラベルです。

（5） 製造銘板

型名、型番、製造年月、製造番号などが、以下のように記載されています。


MODEL XX-XXXXXXXX
PART NO. XXXXXXX-XXXX
SER. NO. XXXXXXXXXX
DATE 200X-XX
100-240V 50/60Hz X.X A
XX.X kg
A 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
PFU Limited
MADE IN JAPAN

1.6　本製品の設置

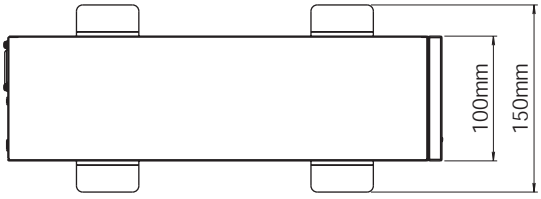
本製品の設置条件や設置手順について説明します。

（1）　設置条件

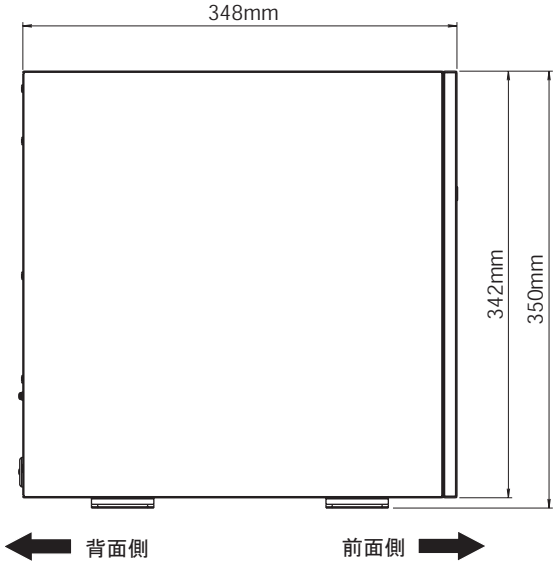
●外形寸法の詳細について

外形寸法の詳細について次に示します。

［本体上面］



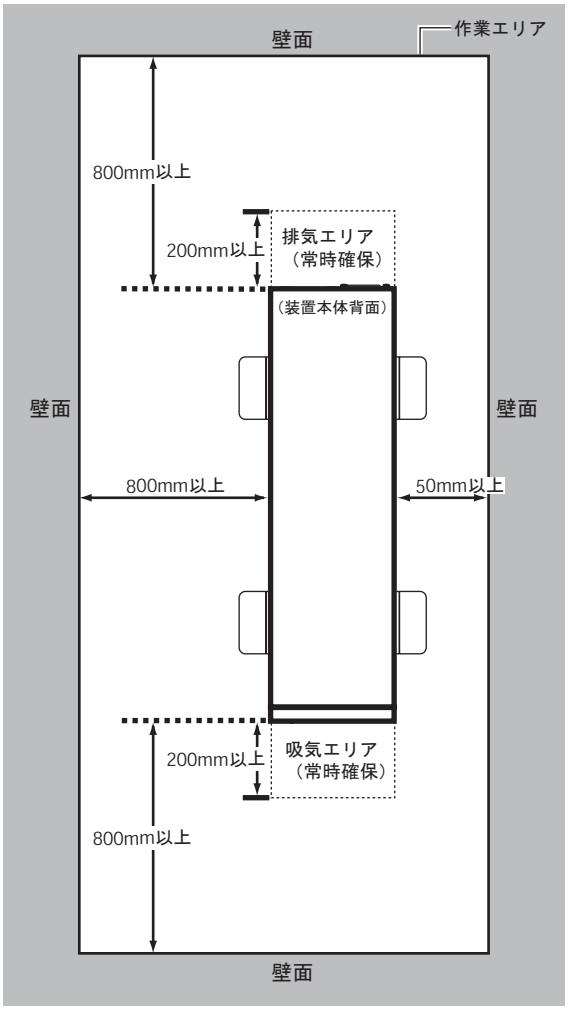
［本体右側面］



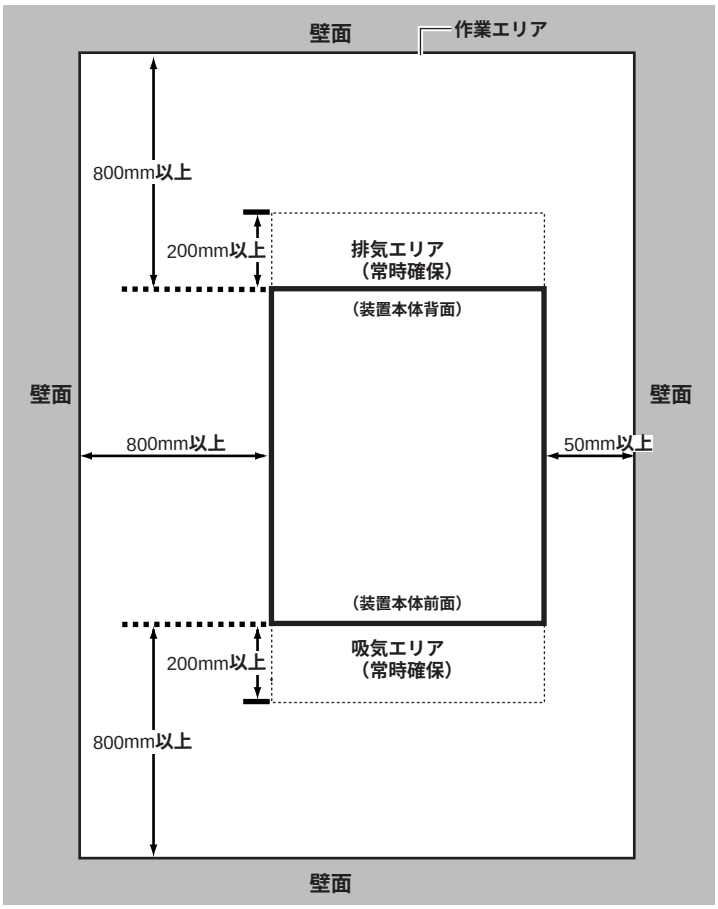
●設置スペース

設置する際は、以下のスペースを確保してください。

- 縦置きの場合



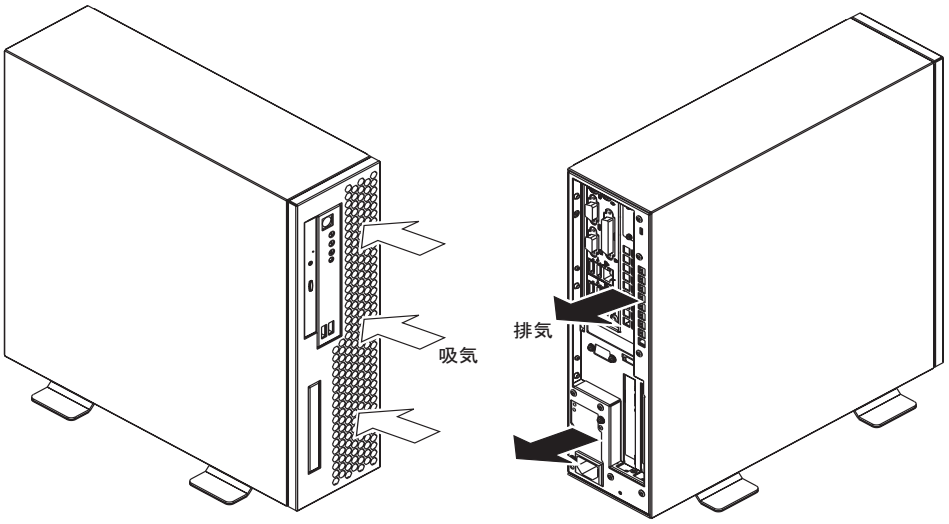
- 横置きの場合


壁面
作業エリア
800mm以上
200mm以上
排気エリア
（常時確保）
（装置本体背面）
壁面
壁面
800mm以上
50mm以上
（装置本体前面）
吸気エリア
（常時確保）
200mm以上
800mm以上
壁面

●吸排気について

本製品は、空冷方式で本体内部を冷却しています。したがって、本体の空気吸入口および排気口の周辺は、十分な空間を確保する必要があります。吸排気のための十分な空間がない場合、本体内の温度が非常に高くなり、装置が故障することがあるため、吸排気には十分にご注意ください。

本製品の空気吸入口と排気口を、以下に示します。



［本体前面］　［本体背面］

●設置環境

以下に本製品の設置条件を示します。

項目	条件
温度	動作時 5 ～ 40 ℃、休止時 0 ～ 50 ℃
湿度	動作時 20 ～ 80%RH、休止時 8 ～ 80%RH （結露しないこと）
温度勾配	15 ℃ /Hr 以下（結露しないこと）
湿度勾配	30%/Day 以下
騒音	45dB 以下
振動	動作時 0.2G、休止時 0.4G

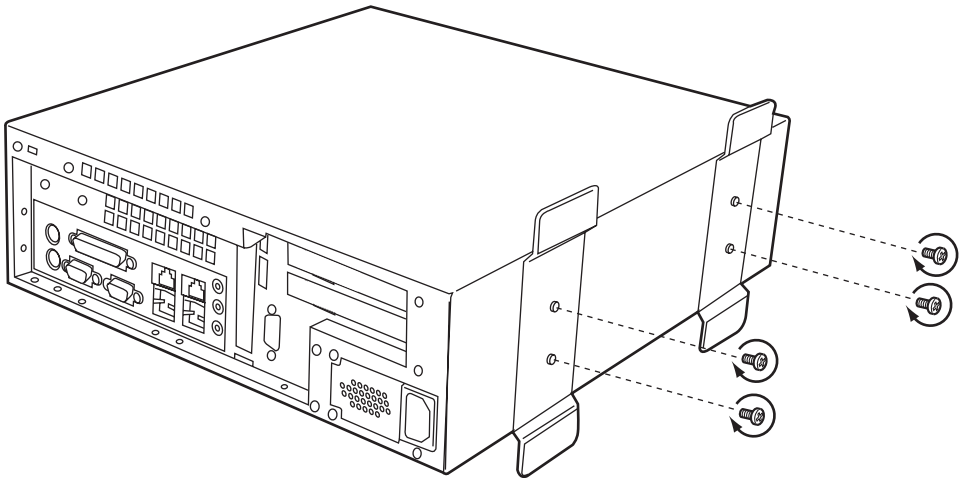
（2） 足の取り付け

本製品を縦置きで使用する場合は台足を、横置きで使用する場合はゴム足を取り付けます。

●台足の取り付け

本製品を縦置きで使用する場合は、以下の手順で添付の台足を取り付けます。

1 装置本体に周辺機器が接続されていないこと、および装置本体の電源が切れていることを確認します。
2 装置本体を、底面にする面を横にして置き、台足を取り付けます。



⚠注意 本製品に付属のネジを使用してください。

●ゴム足の取り付け

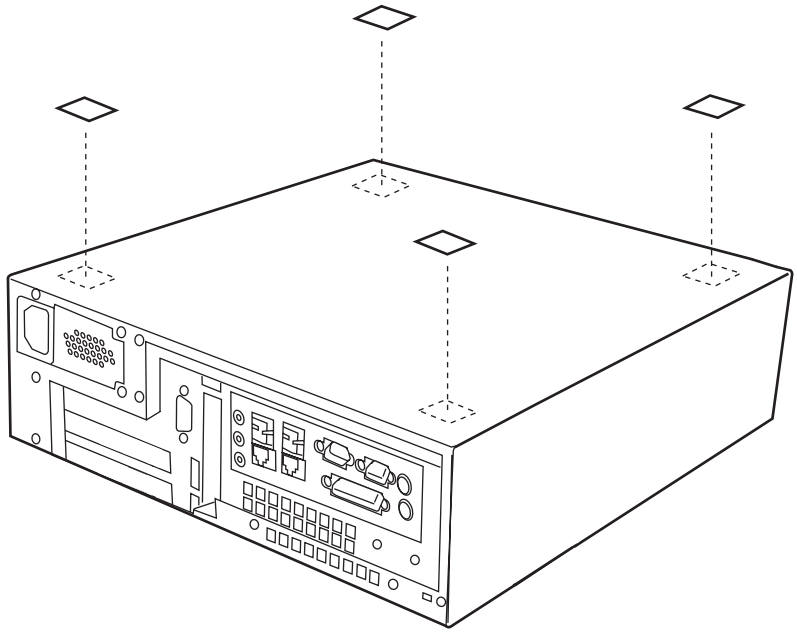
本製品を横置きで使用する場合、以下の手順で添付のゴム足を取り付けます。

1 装置本体に周辺機器が接続されていないこと、および装置本体の電源が切れていることを確認します。

2 装置本体を左側面を上にして横に置きます。

⚠ 注意
- 装置本体を置くとき、手をはさまないように注意してください。
- 装置本体を落としたり、衝撃や振動を与えたりしないでください。

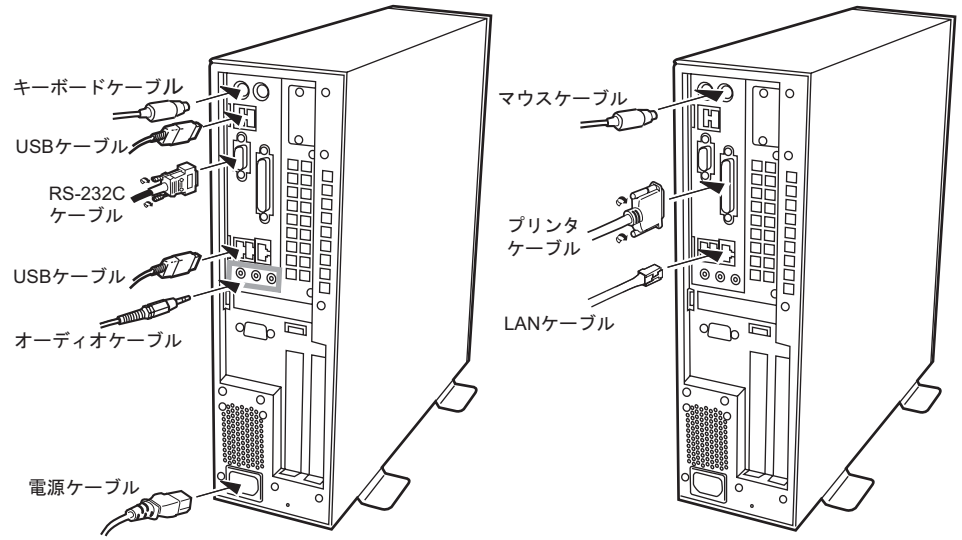
3 ゴム足を取り付けます。
本体の枠に合わせて、図に示す 4 箇所にゴム足を貼ります。



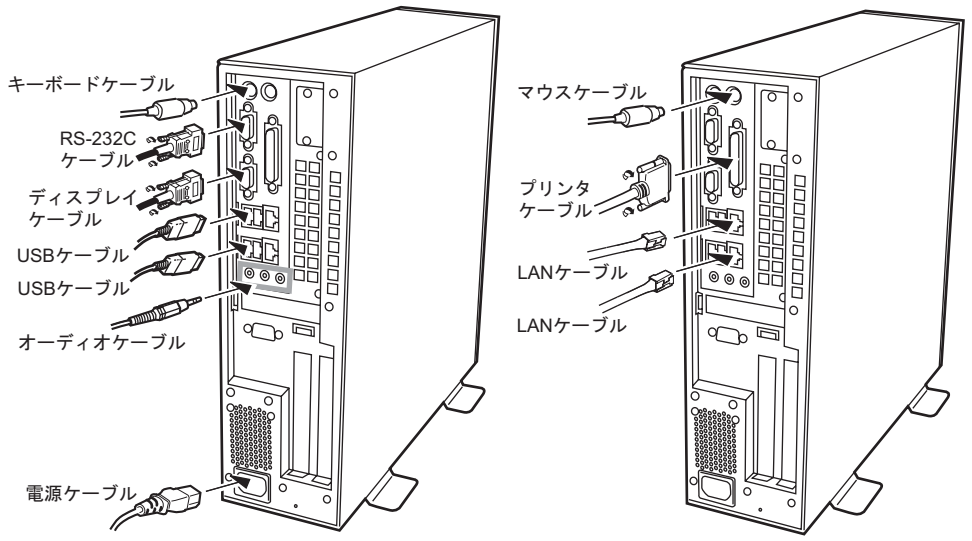
(3) コネクタの接続

本製品に周辺機器を接続します。
各ケーブルは、次のように装置本体に接続してください。

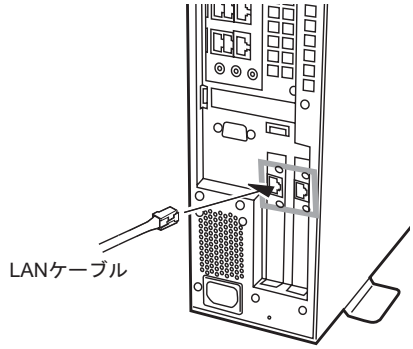
［モデル200］



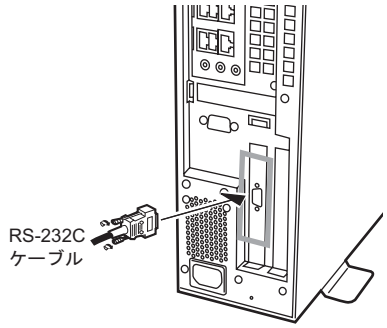
［モデル210/200E］



LAN カード（オプション）搭載時



RS-232C ブラケット（オプション）搭載時



⚠注意・ 接続するときは、装置本体および周辺機器の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください（→「2.1 電源の入れ方／切り方」（P.21））。感電の原因となります。

- 濡れた手でプラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると、電源ケーブルを傷め、火災・感電の原因になります。
- 電源ケーブルやプラグが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは、使用しないでください。そのまま使用すると、火災の原因になります。
- 電源プラグの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。そのまま使用すると、火災の原因になります。
- 本製品に添付の電源コードは、定格電圧 AC125V まで対応しています。本製品を定格電圧 125V を超えて使用する場合は、弊社の担当営業に連絡してください。

第 2 章 取り扱い方法

この章では、電源の入れ方など、本製品の基本的な取り扱い方法について説明します。

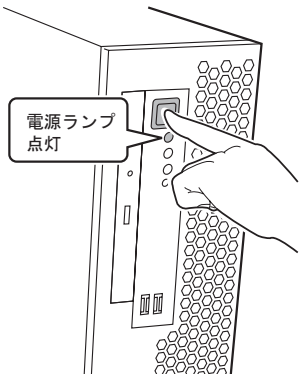
2.1 電源の入れ方／切り方

本製品の電源を入れたり切ったりする方法について、説明します。

⚠注意
- 電源を入れたまま、持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。本製品内部のハードディスクを損傷し、データを消失する原因となります。
- 本製品が結露している場合は、結露がなくなってから電源を入れてください。故障、感電の原因となります。
- この章で示す操作手順で、電源を入れたり切ったりしてください。操作手順に反すると、データが破壊されるおそれがあります。

(1) 電源を入れる

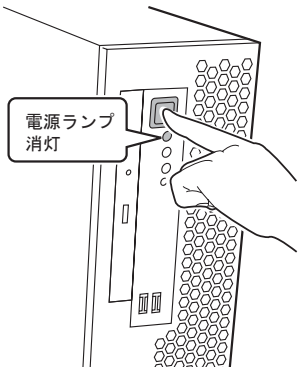
1. フロッピーディスクドライブおよび CD-ROM ドライブなどに、媒体がセットされていないことを確認します。
2. ディスプレイや周辺機器の電源を入れます。
3. 装置前面の電源スイッチを押します。
   電源が入ると、電源ランプが緑色に点灯し、本装置は「POST（Power On Self Test: パワーオンセルフテスト)」を行います。POST の結果、異常があればエラーメッセージが表示されます（→「付録 B BIOS メッセージ」（P.135)。



(2) 電源を切る

1 フロッピーディスクドライブおよびCD-ROMドライブなどに、媒体がセットされていないことを確認します。
媒体が入っている場合は、取り出してください。

2 OSを終了します。
OSの終了後、装置本体の電源が自動的に切れます。
OSを終了しても電源が切れない場合は、装置本体前面の電源スイッチを5秒以上押し続けます。



3 ディスプレイや周辺機器の電源を切ります。

2.2 フロッピーディスクのセット／取り出し

本製品では、オプションとしてフロッピーディスクドライブを用意しています。

(1) 取り扱い上の注意

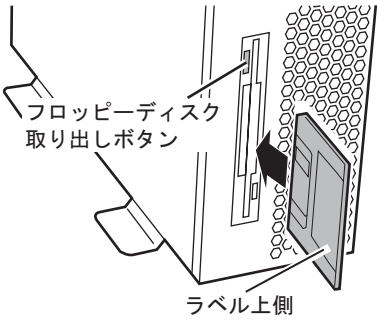
フロッピーディスクを取り扱うときは、次の点にご注意ください。

- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- シャッタを開いて中のディスクに触らないでください。
- 曲げたり、重い物をのせたりしないでください。
- 磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。
- 固い床などに落とさないでください。
- 高温／低温の場所に保管しないでください。
- ラベルを何枚も重ねて貼らないでください。
- 結露、または水滴がつかないようにしてください。

(2) フロッピーディスクをセットする

シャッタのある側から、フロッピーディスクドライブに差し込みます。

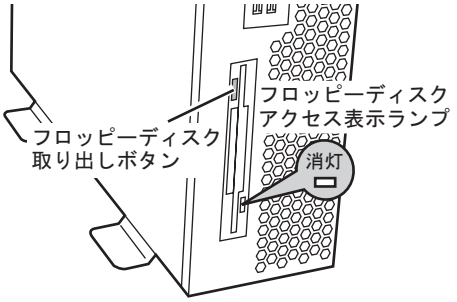
カシャッと音がし、フロッピーディスク取り出しボタンが出てきます。



(3) フロッピーディスクの取り出し

フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認して、取り出しボタンを押します。

フロッピーディスクが出てきます。



⚠注意・ フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中にフロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスク内部のデータが破壊されるおそれがあります。

2.3 CD-ROM のセット／取り出し

（1） 取り扱い上の注意

故障などを防ぐため、CD-ROM ドライブや CD-ROM を取り扱うときは、以下の点にご注意ください。

● CD-ROM ドライブ

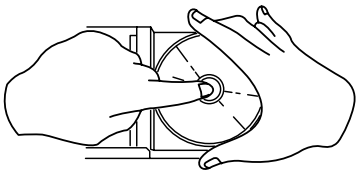
⚠ 注意

- 湿気やほこりなど、浮遊物の少ないところで使用してください。また、内部に水などの液体やクリップなどの金属類が入ると、感電や故障の原因となります。
- 衝撃や振動の加わる場所では使用しないでください。
- CD-ROM トレイには規定の CD-ROM 以外のディスクおよびディスク以外の物をセットしないでください。
- CD-ROM トレイは、力を入れて引き出したり、強く押しつけたりしないでください。
- CD-ROM ドライブユニットは絶対に分解しないでください。
- CD-ROM トレイは使用前にきれいにしておいてください。清掃時は乾いた柔らかい布をご使用ください。
- 長期間ご使用にならないときは、万一の事故を防ぐために CD-ROM ドライブユニットから CD-ROM を取り出しておいてください。また、CD-ROM ドライブユニットにほこりやゴミが入りこまないように、CD-ROM トレイを閉じた状態（ロード状態）にしておいてください。

● CD-ROM

⚠ 注意

- ケースから取り出すときは、下図のように、ケースのセンターホルダを押さえながら持ち上げてください。

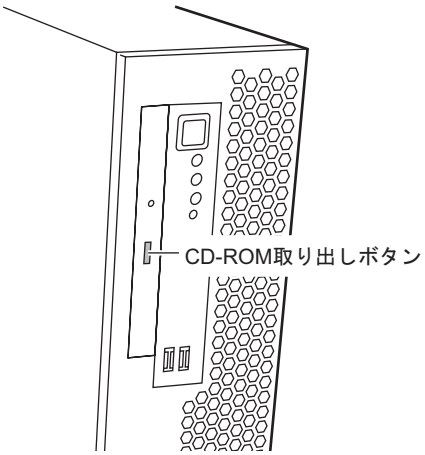


- CD-ROM の縁を持つようにして、表面に触れないように扱ってください。
- CD-ROM の表面に指紋、油、ゴミなどをつけないでください。汚れた場合には、乾いた柔らかい布で CD-ROM の内側から外側へ向けて拭いてください。ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。
- CD-ROM の表面に傷をつけないように十分注意してください。
- 熱を加えないでください。
- 曲げたり、重い物を載せたりしないでください。

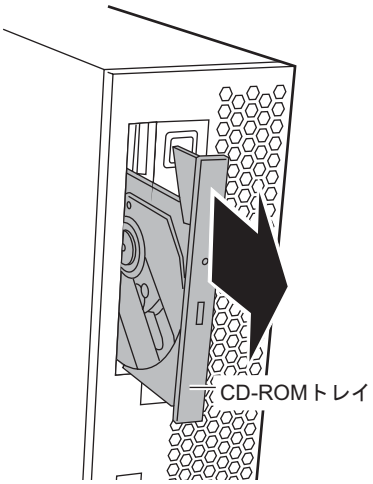
- レーベル面（印刷側）にボールペンや鉛筆などで文字を書かないでください。
- レーベル面にラベルなどを貼り付けないでください。偏芯によって、異常振動が発生する場合があります。
- 屋外などの寒い場所から急に暖かい場所に移すと、表面に水滴がついて、CD-ROM ドライブがデータを読み込めないことがあります。この場合は、乾いた柔らかい布で水滴を拭いてから、自然乾燥させてください。ヘアドライヤーなどで乾燥させないでください。
- ほこり、傷、変形などを避けるため、使用しないときはケースに入れて保管してください。
- 直射日光が長時間あたるところや暖房器具などの熱があたるところなど、高温になる場所での保管は避けてください。

（2） CD-ROM をセットする

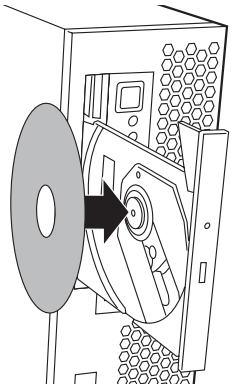
1 装置本体の電源が入っていることを確認して、CD-ROM 取り出しボタンを押します。
CD-ROM トレイが少し出ます。



2 出てきたCD-ROMトレイを引き出します。

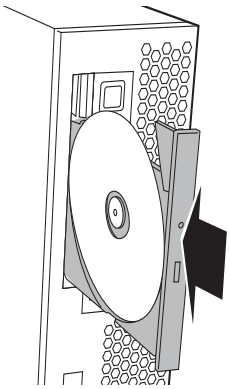


3 CD-ROM のレーベル面を左側にして、CD-ROM トレイ中央にセットします。
CD-ROM トレイの裏側を手で支えて、CD-ROM を、カチッという音がするまではめ込みます。



⚠注意・ CD-ROM のセットが不十分なまま CD-ROM トレイを閉めると、CD-ROM ドライブや CD-ROM が破損するおそれがあります。ご注意ください。
- CD-ROM セット時には、レンズに触れないよう注意してください。

4 CD-ROM トレイを戻します。
CD-ROM トレイを、カチッと音がするまで静かに押し込みます。



(3) CD-ROM を取り出す

取り出しも、「(2) CD-ROM をセットする」(→ P.26) の手順 1 ～ 2 のように CD-ROM 取り出しボタンを押して行います。

備考 本製品の内蔵 CD-ROM ドライブでは、下図のマークが付いた CD-ROM を使用できます。

⚠注意・ DVD-ROM は、CD-RW/DVD-ROM ドライブ搭載時のみ使用できます。

2.4 防塵フィルタの取り扱いについて

（1） 防塵フィルタの点検

防塵フィルタは定期的に点検し、汚れがひどい場合は清掃または交換をしてください。
また、その場合本体装置の電源を切ったあとに行ってください。
※点検・清掃は 3ヶ月に 1 回程度の割合で行ってください。
　特に汚れがひどい場所では上記周期を短縮して点検・清掃を行ってください。

（2） 防塵フィルタの清掃方法

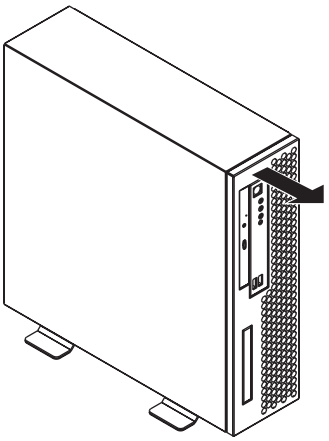
ほこりを掃除機などで取り除きます。
※黒いほこりは汚れが目立ちません。光にすかしてみて、その光が見えない場合は、
　汚れていると判断して清掃してください。

⚠ 警告・ フィルタが目詰まりしたまま使用を継続しないでください。装置内部の温度が異常上昇し、装置の破損や火災を引き起こす原因となります。

装置から異常な音や臭気がしたり、装置が異常に熱くなるなどの危険信号を発見したら、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電や火災の原因となります。

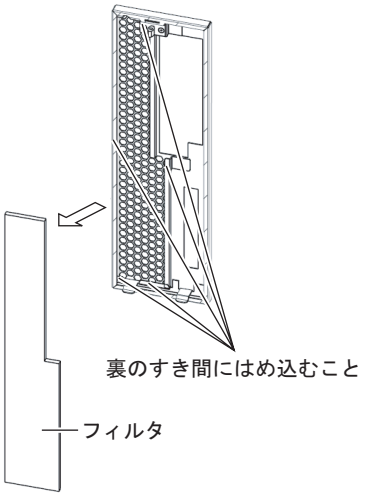
（3） フィルタの交換手順

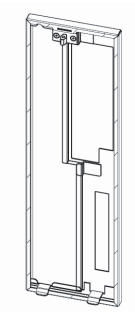
1 フロントカバーを取り外します。
　下側を支点にして上部を手前に引いて簡易ロックを外して取り外します。



2 フィルタを交換します。
　フロントカバーからフィルタを取り外します。
　交換用フィルタをフロントカバーの上下左右にある突部にはめ込みます。

3 フロントカバーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。





フィルタ取り付け完成状態

2.5 RAID カードの取り扱いについて

RAID カードの取り扱いについては、本製品に添付されている「Bootable RAID Installation CD Version 2i」に格納されている「インストールおよびユーザーズガイド」を参照してください。

このページは空白です。

第 3 章　拡張カードの取り付け／取り外し

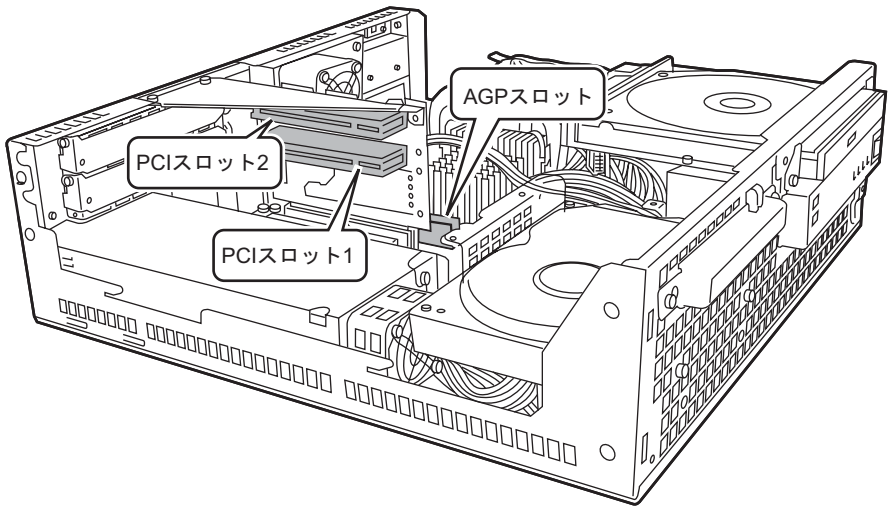
この章では、拡張カードの取り付け／取り外し方法について説明します。

3.1　取り付ける前に

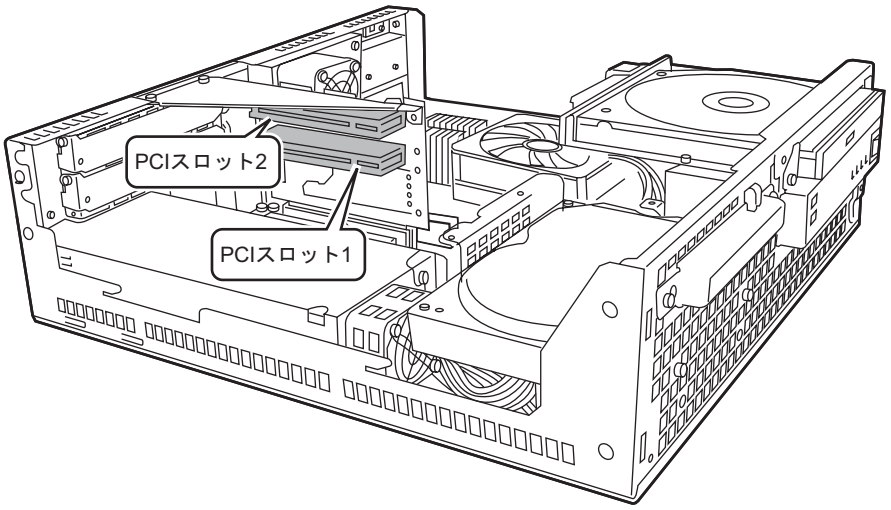
(1)　拡張カードの搭載場所

拡張カードは、ライザーカード上の PCI スロット、または AGP スロットに取り付けます。
モデル 200/210 は、PCI スロットを 2 スロット、AGP スロットを 1 スロット備えています。
モデル 200E は、PCI スロットを 2 スロット備えています。

［モデル 200/210］



［モデル 200E］



（2） 拡張カードスロットの仕様

以下に、拡張カードスロットの仕様を示します。

拡張スロット	仕様
PCI スロット 1	33MHz / 32 ビット、5V、120 ピン SHORT CARD サイズ以下（174 ㎜以下）
PCI スロット 2	33MHz / 32 ビット、5V、120 ピン LONG CARD サイズ以下 （ただし、リテナーは取り外してください。）
AGP スロット （モデル 200/210）	AGP 2x/4x、124 ピン

⚠ 注意 FPD オプション選択時、もしくは HDD を増設される場合、PCI スロット 2 にロングカードは搭載できなくなります。

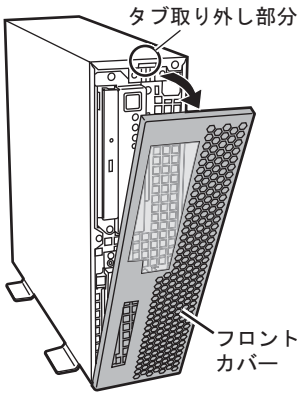
3.2 各カバーの取り外し／取り付け

本体のフロントカバーおよびサイドカバーの取り外し手順を説明します。

(1) 取り外し手順

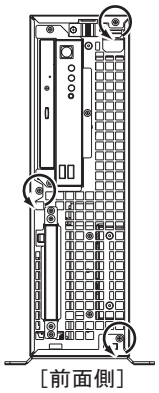
1 本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外します。
→「2.1 電源の入れ方／切り方」(P.21)

2 フロントカバーを取り外します。
上部のタブを外して取り外します。

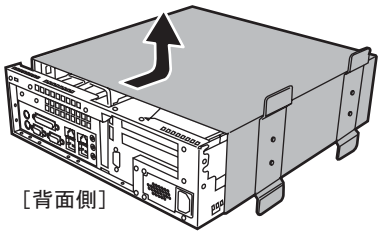


3 本体の右側面を下にして寝かせ、サイドカバーを取り外します。

1 前面のネジを取り外します。



2 前面側にスライドさせて取り外します。



(2) 取り付け手順

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

3.3 PCI カードの取り付け／取り外し

⚠ 警告・ PCI カードを取り付けるときは、本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。感電の原因となります（→「2.1 電源の入れ方／切り方」（P.21））。

⚠ 注意・ PCI カードは、基板や半田づけした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、本体の金属部分に触れて、人体の静電気を放電してください。

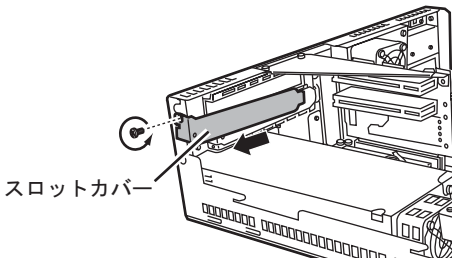
- 基板表面や半田づけの部分に触れないように、金具の部分や基板の縁を持つようにしてください。
- PCI カードは静電気の影響を受けやすいので、伝導パッドなどの上に置くか、取り扱う直前まで梱包袋に入れておいてください。
- FPD オプション選択時、もしくは HDD を増設される場合、PCI スロット 2 にロングカードは搭載できなくなります。

（1） 取り付け手順

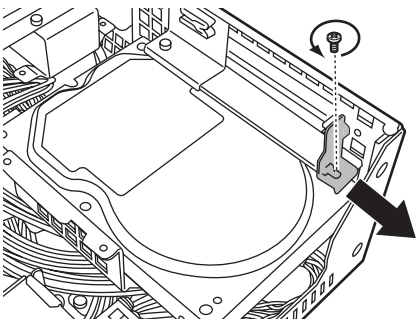
1 本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外します。
→「2.1 電源の入れ方／切り方」（P.21）

2 フロントカバーとサイドカバーを取り外します。
→「3.2 各カバーの取り外し／取り付け」（P.33）

3 PCI カードを取り付けるスロットのスロットカバーの固定ネジ（1 本）を外し、スロットカバーを取り外します。
取り外したスロットカバーは大切に保管してください。

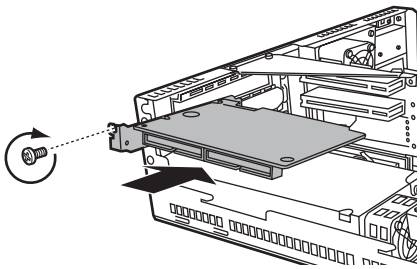


4 スロット 2 にカードを取り付ける場合は、カード固定金具を取り外します。

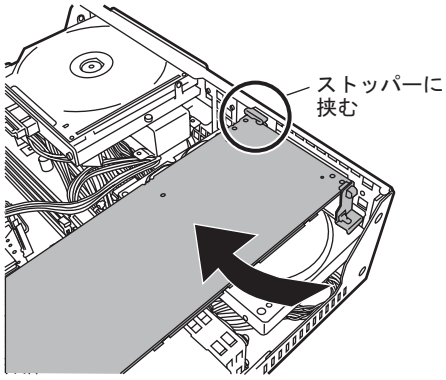


5 PCI カードをスロットに取り付けます。

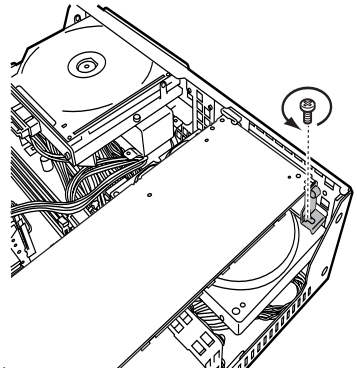
1 スロット 1 に取り付ける場合
PCI カードをスロット 1 にしっかりと差し込みます。PCI カードは実装面を下にして取り付け、手順 3 で取り外したネジで固定します。



2 スロット 2 に取り付ける場合
PCI カードをスロット 2 にしっかりと差し込みます。PCI カードは、実装面を下にして取り付け、スロット 1 のときと同様にネジで固定します。



6 スロット 2 にカードを取り付ける場合は、固定金具で固定します。



7 サイドカバーとフロントカバーを取り付けます。
→「3.2 各カバーの取り外し／取り付け」（P.33）

（2） 取り外し手順

PCI カードの取り外しは、取り付けと逆の手順で行います。

3.4 AGP カードの取り付け／取り外し（モデル 200/210）

⚠ 警告・ AGP カードを取り付けるときは、本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。感電の原因となります（→「2.1 電源の入れ方／切り方」（P.21））。

⚠ 注意・ AGP カードは、基板や半田づけした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、本体の金属部分に触れて、人体の静電気を放電してください。

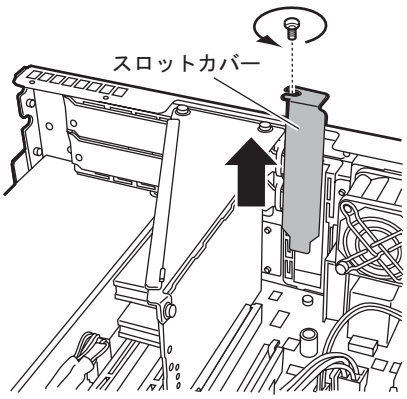
- 基板表面や半田づけの部分に触れないように、金具の部分や基板の縁を持つようにしてください。
- AGP カードは静電気の影響を受けやすいので、伝導パッドなどの上に置くか、取り扱う直前まで梱包袋に入れておいてください。

（1） 取り付け手順（ディスプレイコネクタなしの場合）

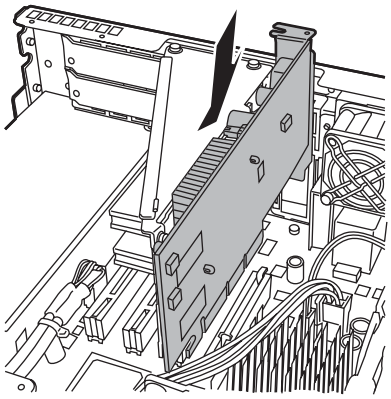
1 本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外します。
→「2.1 電源の入れ方／切り方」（P.21）

2 フロントカバーとサイドカバーを取り外します。
→「3.2 各カバーの取り外し／取り付け」（P.33）

3 AGP カードを取り付けるスロットのスロットカバーの固定ネジ（1 本）を外し、スロットカバーを取り外します。
取り外したスロットカバーは大切に保管してください。



4 AGP カードをスロットに取り付けます。
AGP カードをスロットにしっかりと差し込み、手順 3 で取り外したネジで固定します。



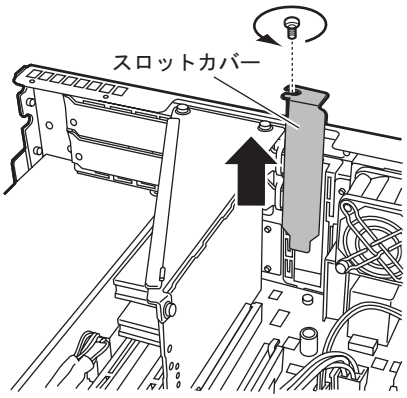
5 サイドカバーとフロントカバーを取り付けます。
→「3.2 各カバーの取り外し／取り付け」（P.33）

（2） 取り付け手順（ディスプレイコネクタありの場合）

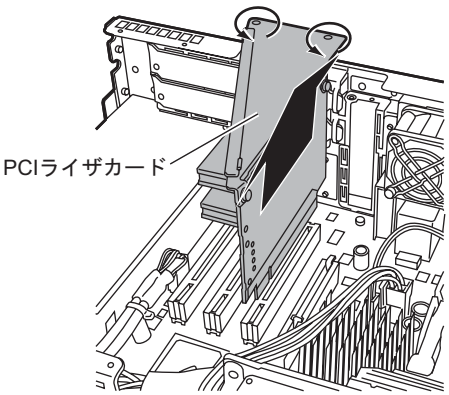
1 本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外します。
→「2.1 電源の入れ方／切り方」（P.21）

2 フロントカバーとサイドカバーを取り外します。
→「3.2 各カバーの取り外し／取り付け」（P.33）

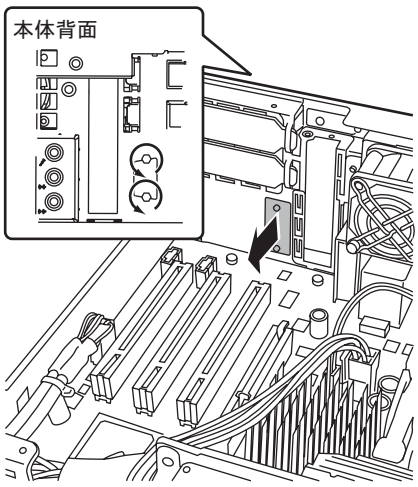
3 AGP カードを取り付けるスロットのスロットカバーの固定ネジ（1 本）を外し、スロットカバーを取り外します。
取り外したスロットカバーは大切に保管してください。



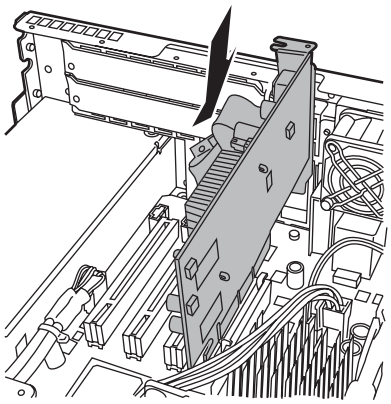
4 PCI ライザカードを外します。
PCI カードが取り付けられている場合は、先に PCI カードを取り外してください（→「3.3 PCI カードの取り付け／取り外し」（P.34））。
PCI ライザカードは、固定ネジ（2 本）を外して取り外します。



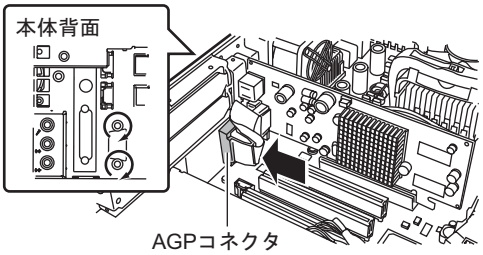
5 AGP スロットの隣にあるスロットカバーの固定ネジを外し、スロットカバーを取り外します。
取り外したスロットカバーは大切に保管してください。



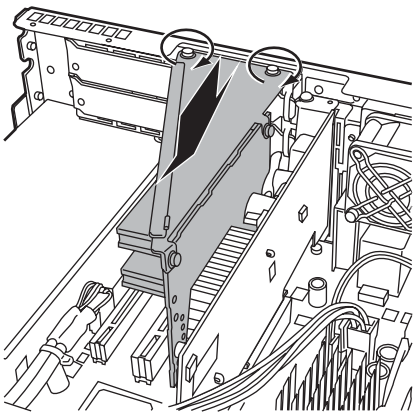
6 AGP カードをスロットに取り付けます。
AGP カードをスロットにしっかりと差し込み、手順 3 で取り外したネジで固定します。



7 AGPカードから出ているディスプレイコネクタ付きケーブルを手順6のスロットに取り付けます。
その際コネクタについているネジでフレームに固定してください。



8 PCI ライザカードを取り付けます。
ディスプレイコネクタのケーブルを引っ掛けないよう十分注意して取り付けてください。



9 サイドカバーとフロントカバーを取り付けます。
→「3.2 各カバーの取り外し／取り付け」（P.33）

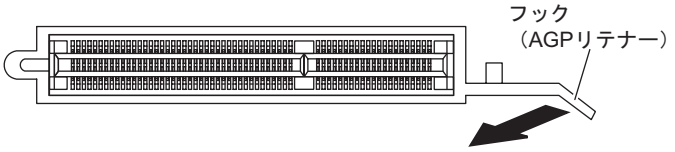
（3） 取り外し手順

AGP カードの取り外しは、取り付けと逆の手順で行います。

備考 AGP カードを取り外す際、AGP スロットのフック（AGP リテナー）を、AGP カードの切り欠けから外すように引っ張ってください。

⚠ 注意・ AGP スロットのフック（AGP リテナー）を強く引っ張ると、折れるおそれがあります。強く引っ張りすぎないようにしてください。

［上側から見た図］



第 4 章 BIOS セットアップ

この章では、BIOS セットアップの概要、およびメニューの項目について説明します。

4.1 BIOS セットアップについて

BIOS セットアップについて説明します。

BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、ハードウェア環境を設定するためのプログラムです。
通常は、BIOS セットアップで環境を変更する必要はありません。

BIOS セットアップが必要な場合

BIOS セットアップが必要な場合の一例を、以下に示します。

- 起動ドライブの優先順位を変更する場合
- POST（Power On Self Test）で BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合

備考 BIOS セットアップで設定した内容は、本製品内の CMOS RAM に記憶されます。この CMOS RAM は、本製品に実装されたバックアップ用バッテリによって記憶した内容を保存しています。

BIOS セットアップの設定

本製品には 3 つのモデルがあり、BIOS セットアップの設定方法が異なります。ご購入のモデルに合わせて正しく設定してください。

- モデル 200
  →「4.2 BIOS セットアップの操作」の「●モデル 200 の場合」（P.42）
  →「4.3 BIOS セットアップのメニュー（モデル 200）」（P.46）
- モデル 210
  →「4.2 BIOS セットアップの操作」の「●モデル 210 の場合」（P.42）
  →「4.4 BIOS セットアップのメニュー（モデル 210）」（P.77）
- モデル 200E
  →「4.2 BIOS セットアップの操作」の「●モデル 200E の場合」（P.43）
  →「4.5 BIOS セットアップのメニュー （モデル 200E）」（P.102）

4.2　BIOS セットアップの操作

BIOS セットアップの起動、終了および設定変更の方法を、以下に説明します。

（1） BIOS セットアップの起動

●モデル 200 の場合

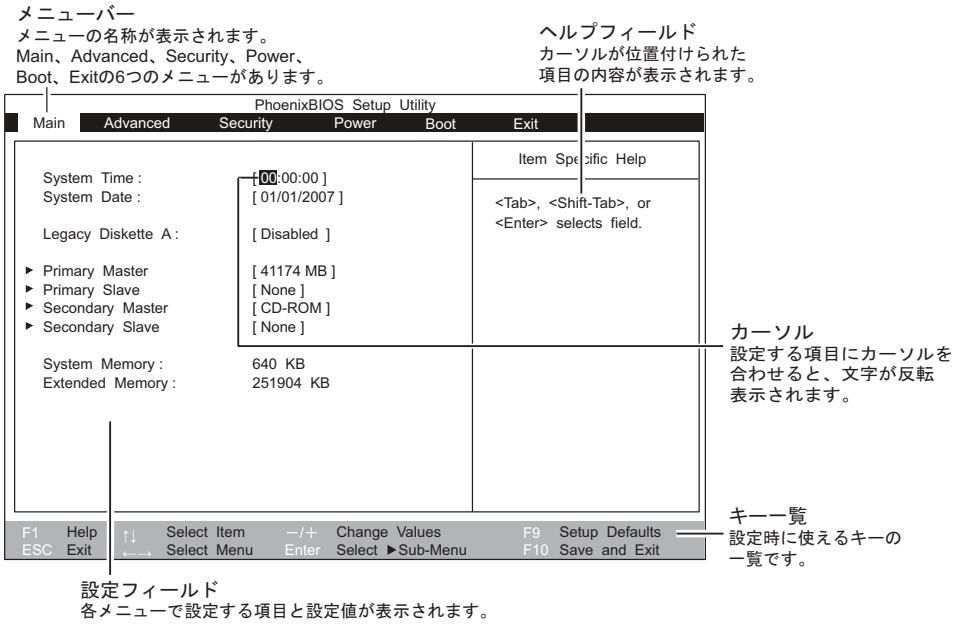
BIOS セットアップは、POST 中に画面左下に「Press F2 for System Utilities」と表示されている間に <F2> キーを押すと起動されます。

次に、BIOS セットアップ画面を示します。

●モデル 210 の場合

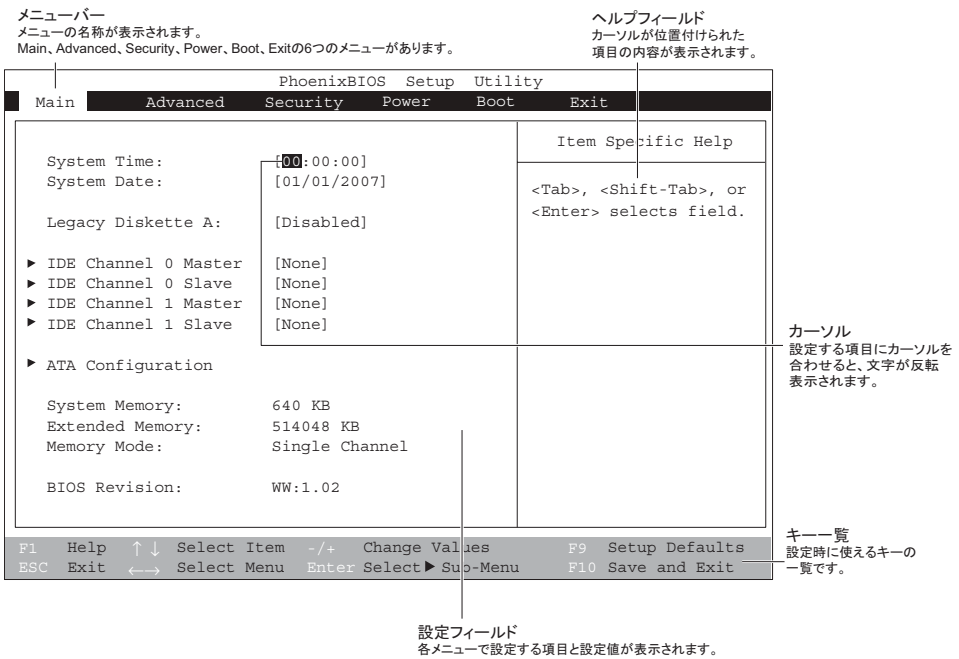
BIOS セットアップは、POST 中に画面左下に「Press <F2> to enter SETUP」または「Press F2 for System Utilities.」と表示されている間に <F2> キーを押すと、起動されます。

次に、BIOS セットアップ画面を示します。



●モデル 200E の場合

BIOS セットアップは、POST 中に画面左下に「Press <F2> to enter SETUP」または「Press F2 for System Utilities.」と表示されている間に <F2> キーを押すと、起動されます。
次に、BIOS セットアップ画面を示します。



（2） BIOS セットアップで使用するキー

BIOS セットアップの実行時は、使用できるキーが画面下に一覧表示されます。使用できるキーと意味について、以下に示します。なお、表示されるキーは、画面によって異なります。

使用するキー	意味
← →	メニューを切り替えます。
↑ ↓	設定する項目にカーソルを移動します。
− / ＋	項目の設定値を変更します。
<F1>	BIOS セットアップに関する全体のヘルプが表示されます。
<F9>	すべてのメニューの設定値を標準設定に戻します。
<F10>	設定内容を CMOS RAM に保存して、BIOS セットアップを終了します。
<ESC>	Exit メニューに移動します。ただし、サブメニューを表示している場合は、メニューに戻ります。
<Enter>	設定項目を設定します。 ▶ が付いている項目で <Enter> キーを押すと、サブメニューが表示されます。

（3） BIOS セットアップによる設定の変更方法

BIOS セットアップの操作は、すべてキーボードから行います。操作手順を以下に示します。

●すべての設定内容を一度に標準設定に戻すには

1 Exit メニューで「Load Setup Defaults」を選択し、<Enter> キーを押します。
または、メニューおよびサブメニュー画面で <F9> キーを押します。
「Load default configuration now?［Yes］［No］」と表示されます。

2 ［Yes］を選択し、<Enter> キーを押します。
すべての設定内容が標準設定に戻ります。

●すべての設定内容を一度に変更前の内容に戻すには

1 Exit メニューで「Discard Changes」を選択し、<Enter> キーを押します。
「Load previous configuration now?［Yes］［No］」と表示されます。

2 ［Yes］を選択し、<Enter> キーを押します。
すべての設定内容が変更前の内容に戻ります。

Exit メニューの「Save Changes」で変更内容を保存した場合は、変更前の状態には戻すことができません。
各モデルの Exit メニューは、以下を参照してください。

- モデル 200 :「（8） Exit メニュー」（→ P.76）
- モデル 210 :「（10） Exit メニュー」（→ P.101）
- モデル 200E :「（10） Exit メニュー」（→ P.128）

●設定した内容をいったん CMOS RAM に保存するには

1 Exit メニューで「Save Changes」を選択し、<Enter> キーを押します。
「Save configuration changes now?［Yes］［No］」と表示されます。

2 ［Yes］を選択し、<Enter> キーを押します。
設定内容が CMOS RAM に保存されます。この場合 BIOS セットアップは終了しないので、続けて設定内容を変更することができます。

（4） BIOS セットアップの終了

BIOS セットアップを終了する場合の手順を、以下に示します。

●変更した設定内容を保存して終了するとき

1 Exit メニューで「Exit Saving Changes」を選択し、<Enter> キーを押します。
「Save configuration changes and exit now?［Yes］［No］」と表示されます。

2 ［Yes］を選択し、<Enter> キーを押します。

備考 各メニュー画面から <F10> キーを押すと、BIOS セットアップを直接終了させることができます。この場合、上記の手順 1 のメッセージが表示されるので、［OK］を選択し、<Enter> キーを押します。

●変更した設定内容を保存しないで終了するとき

1 Exit メニューで「Exit Discarding Changes」を選択し、<Enter> キーを押します。
「Configuration has not been saved! Save before exiting［Yes］［No］」と表示されます。

2 <→> キーを押して［No］を選択し、<Enter> キーを押します。
このとき［Yes］を選択した場合は、設定内容が CMOS RAM に保存されます。

（5） Quiet ブート時の BIOS セットアップの起動

Quiet ブートは、BIOS セットアップの以下のメニューで設定します。

- モデル 200 :「（3）Advanced メニュー」（→ P.57）
- モデル 210 :「（8）Boot メニュー」（→ P.97）
- モデル 200E :「（8）Boot メニュー」（→ P.125）

ここで「Boot-time Diagnostic Screen」を「Disabled」に設定すると、POST の診断メッセージが表示されずに Quiet ブート画面が表示されます。

Quiet ブートを設定した場合の画面の状態を、以下に示します。

- POST 中に <Esc> キーを押すと、Quiet ブートを中止して POST 画面を表示できます。また、<Esc> キーの代わりに <F2> キーを押すと、BIOS セットアップが起動されます。
- POST 中にエラーが発生した場合は、「Press <F1> to resume, <F2> to SETUP」というメッセージが表示され、キー入力を待ちます（モデル 200E 除く）。
- 拡張 ROM-BIOS でキー入力の要求を促すような設定をしている場合、Quiet ブートは中止され、通常の POST 画面に戻り、設定された情報が表示されます。

4.3 BIOS セットアップのメニュー（モデル 200）

BIOS セットアップメニューは、次の 5 つに分かれています。メニューによっては、より詳細な設定を行うためのサブメニューが用意されています。

メニュー名	内　容	参照ページ
Main	日時やドライブの設定など、基本的なシステム構成に関する設定を行います。	47
Advanced	内蔵機器のポートアドレスに関する高度な設定を行います。	57
Power	電源のオン／オフに関する設定を行います。	71
Boot	システムの起動に関する設定を行います。	73
Exit	BIOS セットアップの終了、設定値の変更および保存を行います。	76

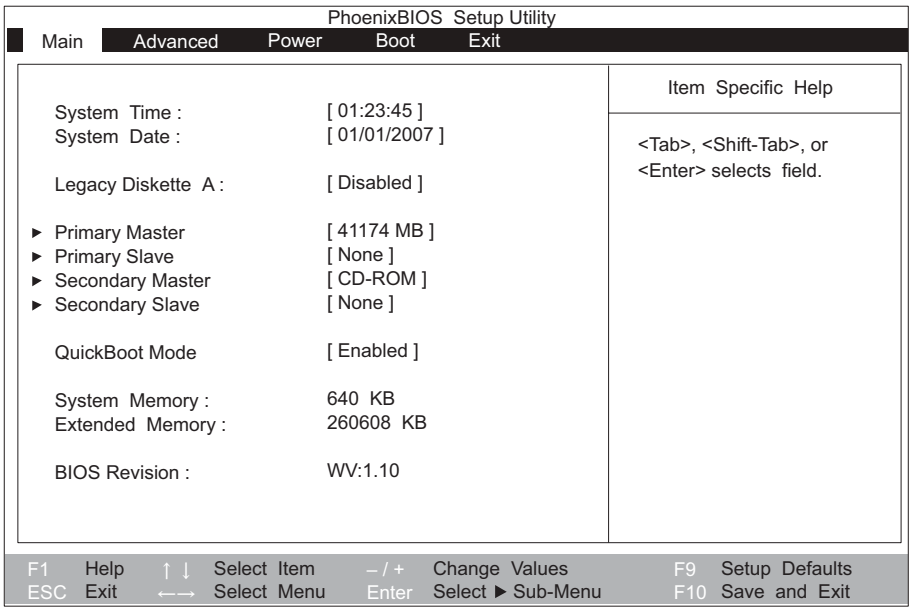
以降、各メニューの項目の詳細について説明します。

参照 操作方法については、「4.2 BIOS セットアップの操作」の「●モデル 200 の場合」（→ P.42）を参照してください。

（1） Main メニュー

Main メニューでは、基本的なシステム構成について設定／表示を行います。

< ↑ > ／ < ↓ > キーで項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを設定します。


PhoenixBIOS Setup Utility
Main
Advanced
Power
Boot
Exit
Item Specific Help
System Time : [01:23:45]
System Date : [01/01/2007]
Legacy Diskette A : [Disabled]
Primary Master [41174 MB]
Primary Slave [None]
Secondary Master [CD-ROM]
Secondary Slave [None]
QuickBoot Mode [Enabled]
System Memory : 640 KB
Extended Memory : 260608 KB
BIOS Revision : WV:1.10
<Tab>, <Shift-Tab>, or <Enter> selects field.
F1 Help ↑ ↓ Select Item – / + Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

System Time　時：分：秒を設定します。
<Tab> キーまたは <Enter> キーで次のフィールドにカーソルを移動して、数値を入力します。

System Date　月／日／年（西暦）を設定します。
<Tab> キーまたは <Enter> キーで次のフィールドにカーソルを移動して、数値を入力します。

Legacy Diskette A　フロッピーディスクドライブの使用について、設定します。
- **■ Disabled**　フロッピーディスクドライブを使用しません。
- **□ 1.44MB 3 1/2"** 3.5 インチ 1.44MB ドライブを使用します。

Primary Master
Primary Slave
Secondary Master
Secondary Slave　各 IDE ドライブのタイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。

参照 「（2）Main メニューのサブメニュー」（→ P.49）

QuickBoot Mode Quick ブート（POST 処理を短縮した起動）について、設定します。

- ■ **Enabled** メモリチェックなどを簡素化し、POST 処理を短縮します。
- □ **Disabled** 通常の POST 処理を行います。

System Memory 基本メモリ容量が表示されます。この項目の値は、POST 時に自動的に検出されます。変更はできません。

Extended Memory 拡張メモリ容量が表示されます。この項目の値は、POST 時に自動的に検出されます。変更はできません。

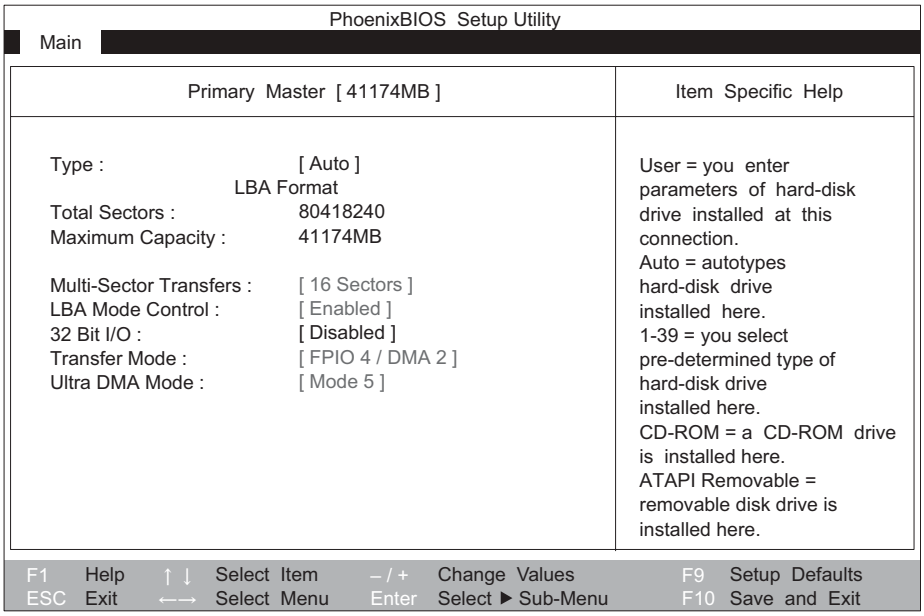
BIOS Revision BIOS のバージョンが表示されます。この項目の値は、POST 時に自動的に検出されます。変更はできません。

（2）Main メニューのサブメニュー

ここでは、Main メニューのサブメニューについて説明します。

● Primary Master

Primary Master では、プライマリマスタードライブのハードディスクタイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

Type　ハードディスクの接続の有無や各パラメタを設定します。

- **■ Auto**　自動的にハードディスクの接続の有無やタイプを設定します。接続されている場合、各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数、プリコンプ値）は、ハードディスクの情報に従って自動的に設定されます。
- **□ None**　ハードディスクを未接続とします。
- **□ CD-ROM**　CD-ROM ドライブ（IDE）を接続します。
- **□ Other ATAPI**　そのほかの ATAPI デバイスを接続します。
- **□ User**　各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数、プリコンプ値）を直接指定します。

Multi-Sector Transfers

複数のセクタのデータを一括して転送するかどうかを設定します。「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定できます。

- ☐ **Disabled** 1 セクタずつ転送します。
- ☐ **2 Sectors ～ 16 Sectors（■ 16 Sectors）** 一括して転送するセクタ数を選択します。数値が大きくなるほどデータの転送速度は上がりますが、一括転送の効果が現れるセクタ数は、ドライブのキャッシュ容量に左右されます。

LBA Mode Control

LBA（論理ブロックアドレッシング）モードの使用について、設定します。「Type」に「None」以外を指定した場合に設定可能できます。

- ☐ **Disabled** LBA モードを使用しません。
- ■ **Enabled** LBA モードを使用します。「Enabled」に設定する場合は、LBA モードに対応したドライブが必要です。

32 Bit I/O

内蔵 IDE コントローラと CPU の間で 32 ビット転送を行うかどうかを設定します。「Type」に「Auto」、「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定できます。

- ■ **Disabled** 32 ビット転送をしません。
- ☐ **Enabled** 32 ビット転送をします。

Transfer Mode

データの転送モードを設定します。「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定できます。

各モードの設定では、数字が大きくなるほど転送速度が上がりますが、設定した各モードに対応したドライブが必要です。

- ☐ **Standard** PIO Mode 0 に設定します。
- ☐ **Fast PIO 1 ～ Fast PIO 4** Fast PIO 1 ～ Fast PIO 4 のいずれかを選択します。
- ☐ **FPIO 3/DMA 1** Fast PIO Mode 3 または DMA Mode 1 を使用します。
- ■ **FPIO 4/DMA 2** Fast PIO Mode 4 または DMA Mode 2 を使用します。

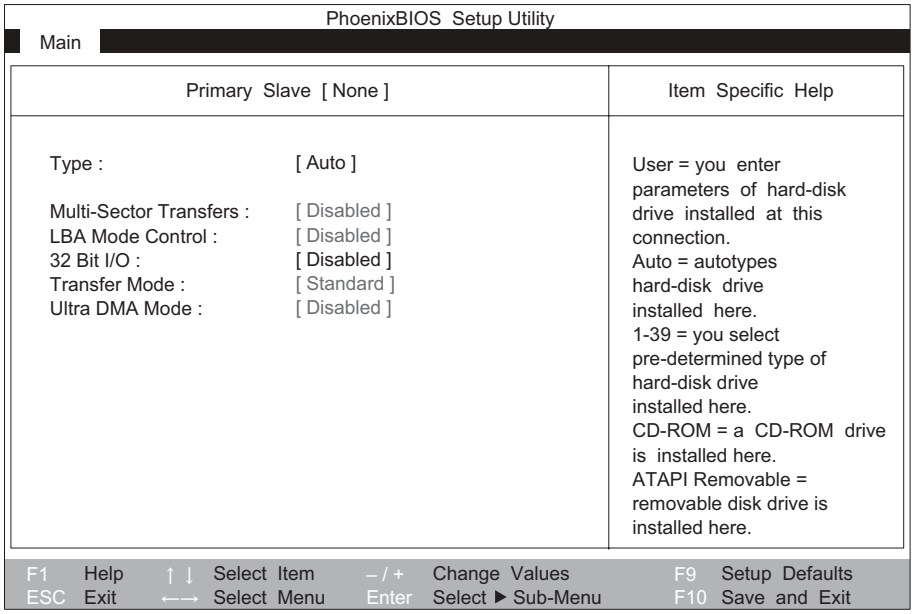
Ultra DMA Mode

Ultra DMA モードの使用について設定します。「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定できます。

- ☐ **Disabled** Ultra DMA モードを使用しません。
- ☐ **Mode 0 ～ Mode 5（■ Mode 5）** Ultra DMA の転送モードを選択します。Ultra DMA モードを設定する場合は、Ultra DMA モードに対応したドライブが必要です。

● Primary Slave

プライマリスレーブドライブのハードディスクタイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

Type　ハードディスクの接続の有無や各パラメタを設定します。

- ■ **Auto**　自動的にハードディスクの接続の有無やタイプを設定します。接続されている場合、各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数、プリコンプ値）は、ハードディスクの情報に従って自動的に設定されます。
- □ **None**　ハードディスクを未接続とします。
- □ **CD-ROM**　CD-ROM ドライブ（IDE）を接続します。
- □ **Other ATAPI**　そのほかの ATAPI デバイスを接続します。
- □ **User**　各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数、プリコンプ値）を直接指定します。

Multi-Sector Transfers　複数のセクタのデータを一括して転送するかどうかを設定します。「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定できます。

- ■ **Disabled**　1 セクタずつ転送します。
- □ **2 Sectors ～ 16 Sectors**　一括して転送するセクタ数を選択します。数値　が大きくなるほどデータの転送速度は上がりますが、一括転送の効果が現れるセクタ数は、ドライブのキャッシュ容量に左右されます。

LBA Mode Control

LBA（論理ブロックアドレッシング）モードの使用について、設定します。

「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定できます。

■ **Disabled**　LBA モードを使用しません。

□ **Enabled**　LBA モードを使用します。「Enabled」に設定する場合は、LBA モードに対応したドライブが必要です。

32 Bit I/O

内蔵 IDE コントローラと CPU の間で 32 ビット転送を行うかどうかを設定します。

「Type」に「None」以外を指定した場合に設定できます。

■ **Disabled**　32 ビット転送を行いません。

□ **Enabled**　32 ビット転送を行います。

Transfer Mode

データの転送モードを設定します。

「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定できます。

各モードの設定では、数字が大きくなるほど転送速度が上がりますが、設定した各モードに対応したドライブが必要です。

■ **Standard**　PIO Mode 0 に設定します。

□ **Fast PIO 1 ～ Fast PIO 4**

Fast PIO 1 ～ Fast PIO 4 のいずれかを選択します。

□ **FPIO 3/DMA 1**

Fast PIO Mode 3 または DMA Mode 1 を使用します。

□ **FPIO 4/DMA 2**

Fast PIO Mode 4 または DMA Mode 2 を使用します。

Ultra DMA Mode

Ultra DMA モードの使用について設定します。

「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定できます。

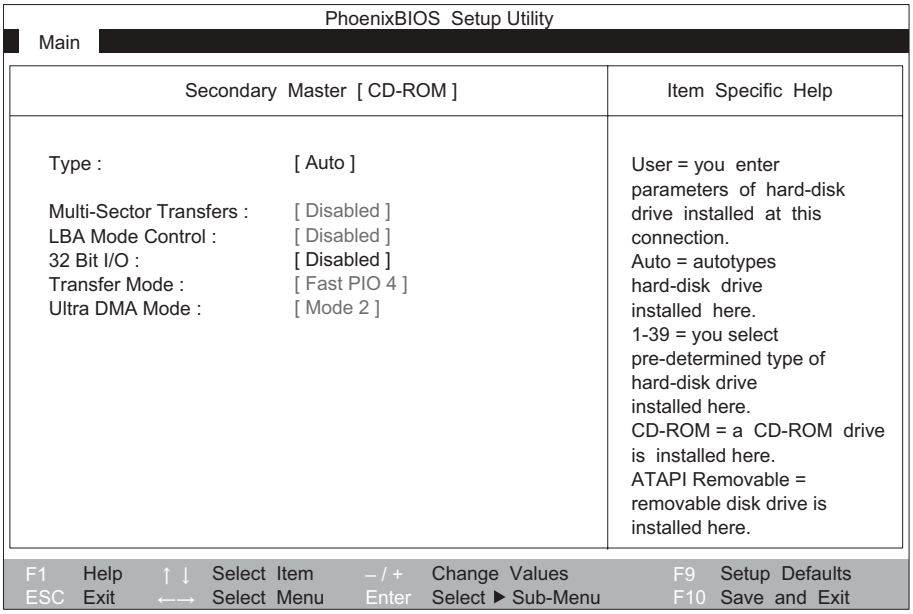
■ **Disabled**　Ultra DMA モードを使用しません。

□ **Mode 0 ～ Mode 5**

Ultra DMA の転送モードを選択します。Ultra DMA モードを設定する場合は、Ultra DMA モードに対応したドライブが必要です。

● Secondary Master

セカンダリマスタードライブのハードディスクタイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

Type　ハードディスクの接続の有無や各パラメタを設定します。

- **■ Auto**　自動的にハードディスクの接続の有無やタイプを設定します。接続されている場合、各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数、プリコンプ値）は、ハードディスクの情報に従って自動的に設定されます。
- **□ None**　ハードディスクを未接続とします。
- **□ CD-ROM**　CD-ROM ドライブ（IDE）を接続します。
- **□ Other ATAPI**　そのほかの ATAPI デバイスを接続します。
- **□ User**　各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数、プリコンプ値）を直接指定します。

Multi-Sector Transfers　複数のセクタのデータを一括して転送するかどうかを設定します。「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定できます。

- **■ Disabled**　1 セクタずつ転送します。
- **□ 2 Sectors ～ 16 Sectors**　一括して転送するセクタ数を選択します。数値が大きくなるほどデータの転送速度は上がりますが、一括転送の効果が現れるセクタ数は、ドライブのキャッシュ容量に左右されます。

LBA Mode Control

LBA（論理ブロックアドレッシング）モードの使用について、設定します。

「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定できます。

- **■ Disabled** LBA モードを使用しません。
- **□ Enabled** LBA モードを使用します。「Enabled」に設定する場合は、LBA モードに対応したドライブが必要です。

32 Bit I/O

内蔵 IDE コントローラと CPU の間で 32 ビット転送を行うかどうかを設定します。「Type」に「None」以外を指定した場合に設定できます。

- **■ Disabled** 32 ビット転送を行いません。
- **□ Enabled** 32 ビット転送を行います。

Transfer Mode

データの転送モードを設定します。

「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定できます。

各モードの設定では、数字が大きくなるほど転送速度が上がりますが、設定した各モードに対応したドライブが必要です。

- **□ Standard** PIO Mode 0 に設定します。
- **□ Fast PIO 1 ～ Fast PIO 4（■ Fast PIO 4）** Fast PIO 1 ～ Fast PIO 4 のいずれかを選択します。
- **□ FPIO 3/DMA 1** Fast PIO Mode 3 または DMA Mode 1 を使用します。
- **□ FPIO 4/DMA 2** Fast PIO Mode 4 または DMA Mode 2 を使用します。

Ultra DMA Mode

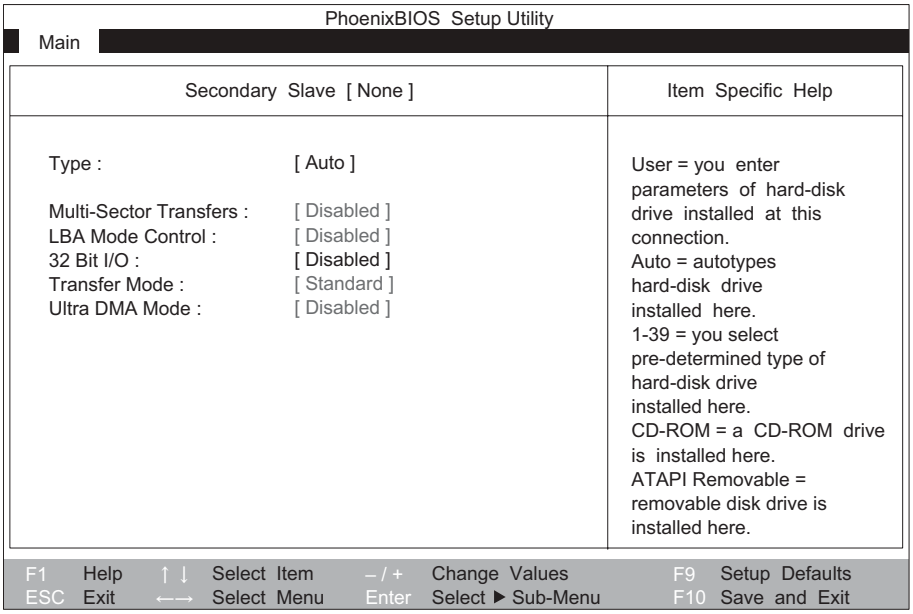
Ultra DMA モードの使用について設定します。

「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定できます。

- **□ Disabled** Ultra DMA モードを使用しません。
- **□ Mode 0 ～ Mode 5（■ Mode 2）** Ultra DMA の転送モードを選択します。Ultra DMA モードを設定する場合は、Ultra DMA モードに対応したドライブが必要です。

● Secondary Slave

セカンダリスレーブドライブのハードディスクタイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

Type　ハードディスクの接続の有無や各パラメタを設定します。

- **■ Auto**　自動的にハードディスクの接続の有無やタイプを設定します。接続されている場合、各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数、プリコンプ値）は、ハードディスクの情報に従って自動的に設定されます。
- **□ None**　ハードディスクを未接続とします。
- **□ CD-ROM**　CD-ROM ドライブ（IDE）を接続します。
- **□ Other ATAPI**　そのほかの ATAPI デバイスを接続します。
- **□ User**　各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数、プリコンプ値）を直接指定します。

Multi-Sector Transfers　複数のセクタのデータを一括して転送するかどうかを設定します。「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定できます。

- **■ Disabled**　1 セクタずつ転送します。
- **□ 2 Sectors ～ 16Sectors**　一括して転送するセクタ数を選択します。数値が大きくなるほどデータの転送速度は上がりますが、一括転送の効果が現れるセクタ数は、ドライブのキャッシュ容量に左右されます。

LBA Mode Control

LBA（論理ブロックアドレッシング）モードの使用について、設定します。

「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定できます。

- ■ **Disabled** LBA モードを使用しません。
- □ **Enabled** LBA モードを使用します。「Enabled」に設定する場合は、LBA モードに対応したドライブが必要です。

32 Bit I/O

内蔵 IDE コントローラと CPU の間で 32 ビット転送を行うかどうかを設定します。

「Type」に「None」以外を指定した場合に設定できます。

- ■ **Disabled** 32 ビット転送をしません。
- □ **Enabled** 32 ビット転送をします。

Transfer Mode

データの転送モードを設定します。

「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定できます。

各モードの設定では数字が大きくなるほど転送速度が上がりますが、設定した各モードに対応したドライブが必要です。

- ■ **Standard** PIO Mode 0 に設定します。
- □ **Fast PIO 1 ～ Fast PIO 4** Fast PIO 1 ～ Fast PIO 4 のいずれかを選択します。
- □ **FPIO 3/DMA 1** Fast PIO Mode 3 または DMA Mode 1 を使用します。
- □ **FPIO 4/DMA 2** Fast PIO Mode 4 または DMA Mode 2 を使用します。

Ultra DMA Mode

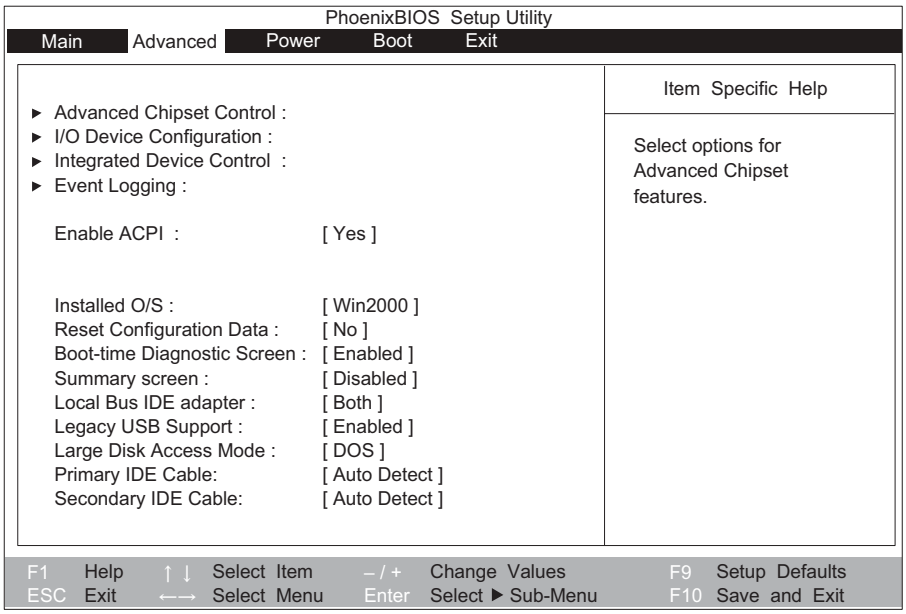
Ultra DMA モードの使用について設定します。

「Type」に「CD-ROM」、「Other ATAPI」、または「User」を指定した場合に設定できます。

- ■ **Disabled** Ultra DMA モードを使用しません。
- □ **Mode 0 ～ Mode 5** Ultra DMA の転送モードを選択します。Ultra DMA モードを設定する場合は、Ultra DMA モードに対応したドライブが必要です。

（3） Advanced メニュー

Advanced メニューでは、本製品に搭載されたデバイスについて詳細な設定を行います。
＜↑＞／＜↓＞キーで項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを開きます。


PhoenixBIOS Setup Utility
Main
Advanced
Power
Boot
Exit
Item Specific Help
▶ Advanced Chipset Control :
▶ I/O Device Configuration :
▶ Integrated Device Control :
▶ Event Logging :
Enable ACPI : [Yes]
Installed O/S : [Win2000]
Reset Configuration Data : [No]
Boot-time Diagnostic Screen : [Enabled]
Summary screen : [Disabled]
Local Bus IDE adapter : [Both]
Legacy USB Support : [Enabled]
Large Disk Access Mode : [DOS]
Primary IDE Cable: [Auto Detect]
Secondary IDE Cable: [Auto Detect]
Select options for Advanced Chipset features.
F1 Help ↑ ↓ Select Item – / + Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Advanced Chipset Control　チップセット関連の設定をします。

参照 「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● Advanced Chipset Control」（→ P.60）

I/O Device Configuration　内蔵機器の I/O ポートアドレスや割り込みレベルの設定などを行います。

参照 「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● I/O Device Configuration」（→ P.61）

Integrated Device Control　内蔵デバイスを使用するかどうかを設定します。

参照 「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● Integrated Device Control」（→ P.63）

Event Logging イベントログ機能に関する設定などを行います。

参照 「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● Event Logging」(→ P.65)

Enable ACPI パワーマネジメントインタフェースとして ACPI を使用するかどうかを指定します。

- ■ **Yes** ACPI を使用します。
- □ **No** ACPI を使用しません。

Installed O/S 使用する OS を指定します。

- ■ **Win2000** Windows® 2000 などの PnP OS 向けの設定
- □ **Other** 他の OS 向けの設定

Reset Configuration Data Extended System Configuration Data (ESCD) 領域のデータ初期化を指定します。「Yes」に変更後、再起動すると、データが初期化されます。

重要 本項目の設定値は、データ初期化を実行後、自動的に「No」へ戻ります。

Boot-time Diagnostic Screen POST 時の診断画面やメッセージの表示について、設定します。

- ■ **Enabled** POST の診断画面やメッセージを表示します。
- □ **Disabled** POST の診断画面やメッセージを表示せずに、ロゴ (グラフィックイラスト) のみを表示します。

Summary screen 起動中のシステム構成情報 (Summary screen) の表示について、設定します。

- □ **Enabled** Summary screen を表示します。
- ■ **Disabled** Summary screen を表示しません。

Local Bus IDE adapter IDE アダプタ関連の設定をします。

- □ **Disabled** ローカルバスの IDE アダプタを使用しません。
- □ **Primary** プライマリドライブのみ使用します。
- □ **Secondary** セカンダリドライブのみ使用します。
- ■ **Both** プライマリ、セカンダリどちらも使用します。

Legacy USB Support USB をサポートしていない環境 (DOS など) で、USB キーボードや USB マウスを PS/2 キーボードやマウスとして使用するかどうかを指定します。

- ■ **Enabled** USB デバイスを従来のデバイスとして使用します。
- □ **Disabled** USB デバイスは使用しません。

Large Disk Access Mode

アクセスモードを設定します。

- □ **Other** — Linux などの OS を使用時に問題が発生した場合に、設定します。
- ■ **DOS** — 通常時の設定です。

Primary IDE Cable

Secondary IDE Cable

使用する IDE ケーブルタイプを指定します。

- ■ **Auto Detect** — ケーブルタイプを自動判別します。
- □ **80-Wire** — Ultra ATA/100 まで対応可能な IDE80 芯（40pin）ケーブルを使用します。
- □ **40-Wire** — Ultra ATA/33 まで対応可能な IDE40 芯（40pin）ケーブルを使用します。

重要

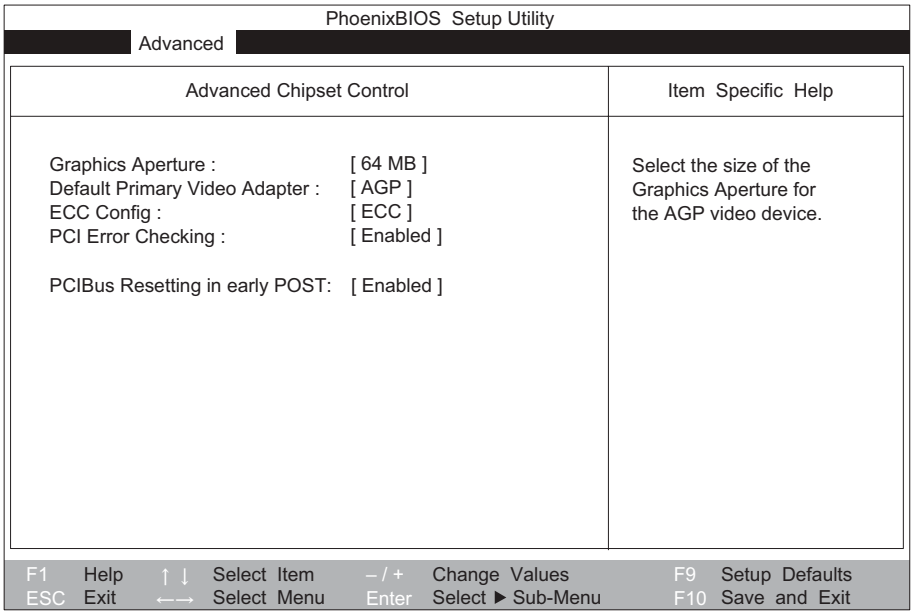
- IDE デバイス側の仕様により、IDE80 芯（40pin）ケーブルを使用していても、そのケーブルの自動判別ができない場合があります。
- Main メニューのサブメニューで、「Primary Master」および「Primary Slave」の「Type」が「Auto」であるときの「Ultra DMA Mode」が、そのデバイスで対応可能な最も高い転送モードであることを確認してください。
  もし最も高い転送モードになっていない場合、本項目を「80-Wire」に変更して再起動すると、転送モードが変更される場合があります。

（4） Advanced メニューのサブメニュー

ここでは、Advanced メニューのサブメニューについて説明します。

● Advanced Chipset Control

チップセット関連の設定をします。


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
Advanced Chipset Control
Item Specific Help
Graphics Aperture : [64 MB]
Default Primary Video Adapter : [AGP]
ECC Config : [ECC]
PCI Error Checking : [Enabled]
PCIBus Resetting in early POST: [Enabled]
Select the size of the Graphics Aperture for the AGP video device.
F1 Help ↑ ↓ Select Item – / + Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Graphics Aperture

AGP ビデオ装置のために、Graphics Aperture のサイズを以下から選択します。

□ 256MB、□ 128MB、■ 64MB、□ 32MB

Default Primary Video Adapter

AGP、PCI ビデオカードが混在している場合、プライマリとなるビデオカードを指定します。

- **□ PCI**　PCI ビデオカードを使用するときに指定します。
- **■ AGP**　AGP ビデオカードを使用するときに指定します。

ECC Config

メモリの ECC 機能の使用について設定します。

- **□ Disabled**　ECC 機能を使用しません。
- **■ ECC**　ECC 機能を使用します。

重要

- ECC 機能をサポートしたメモリを搭載している場合にのみ、設定できます。
- ECC 付き／ECC なしメモリの混在は禁止です。

PCI Error Checking

PCI バスエラーの検出について設定します。

- **■ Enabled**　PCI バスエラーを検出します。
- **□ Disabled**　PCI バスエラーを検出しません。

PCIBus Resetting in early POST

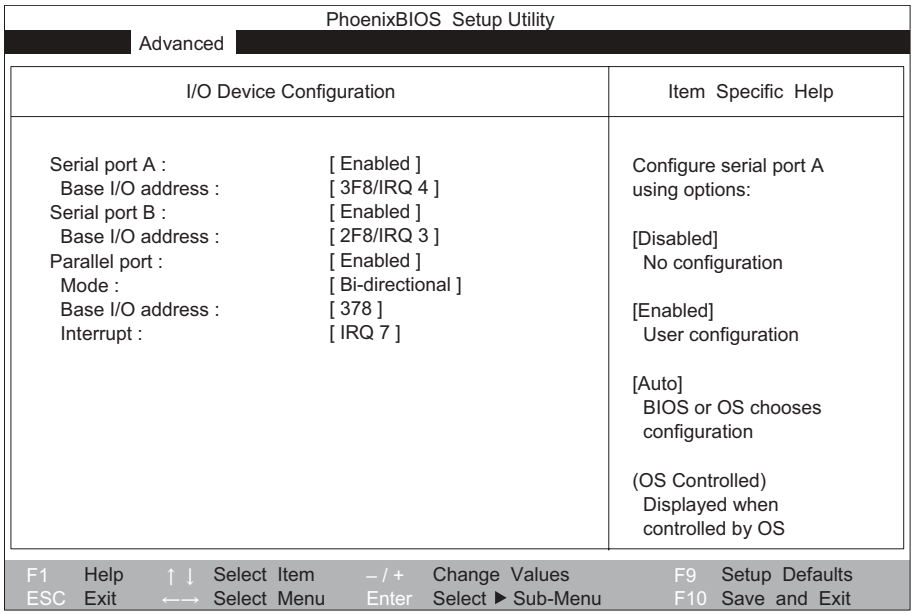
POST 時の PCI バスのリセットについて設定します。

■ **Enabled** POST 時に PCI バスをリセットします。

□ **Disabled** POST 時に PCI バスをリセットしません。

● I/O Device Configuration

内蔵機器の I/O ポートアドレスや IRQ（割り込みレベル）の設定などを行います。


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
I/O Device Configuration
Item Specific Help
Serial port A : [Enabled]
Base I/O address : [3F8/IRQ 4]
Serial port B : [Enabled]
Base I/O address : [2F8/IRQ 3]
Parallel port : [Enabled]
Mode : [Bi-directional]
Base I/O address : [378]
Interrupt : [IRQ 7]
Configure serial port A using options:
[Disabled] No configuration
[Enabled] User configuration
[Auto] BIOS or OS chooses configuration
(OS Controlled) Displayed when controlled by OS
F1 Help ↑ ↓ Select Item – / + Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Serial port A
Serial port B

シリアルポート A（COM1）やシリアルポート B（COM2）の I/O ポートアドレスおよび IRQ（割り込みレベル）を指定します。

■ **Enabled** 内蔵シリアルポートを使用します。本設定値を選択した場合は、以下の詳細設定項目が表示されます。

Base I/O address I/O ポートアドレスを以下の 4 種類から選択します。

- ■ **3F8/IRQ 4（Serial port A）**
- ■ **2F8/IRQ 3（Serial port B）**
- □ **3E8/IRQ 4**
- □ **2E8/IRQ 3**

□ **Auto** 内蔵シリアルポートを使用します。
I/O ポートアドレスおよび IRQ は、自動的に設定されます。

重要 「(3) Advanced メニュー」(→ P.57) の「Installed O/S」が「Win2000」に設定されている場合は、BIOS では I/O ポートアドレスおよび IRQ の設定は行いません。

□ **Disabled** 内蔵シリアルポートを使用しません。

Parallel port　パラレルポートの動作モード、I/O ポートアドレスおよび IRQ を指定します。

■ **Enabled**　内蔵シリアルポートを使用します。本設定値を選択した場合は、以下の詳細設定項目が表示されます。

Mode　内蔵パラレルポートの動作モードを指定します。

□ **Output only**
単方向モードで動作します。

■ **Bi-directional**
双方向モードで動作します。

□ **ECP**
ECP モードで動作します。

□ **EPP**
EPP モードで動作します。

Base I/O address　I/O ポートアドレスを、次の 2 種類から選択します。

■ **378、□ 278**

Interrupt　IRQ を、次の 2 種類から選択します。

□ **IRQ 5、■ IRQ 7**

DMA Channel　DMA チャネルを指定します。「Mode」に「ECP」を指定した場合にのみ設定可能です。

■ **DMA 1**
DMA チャネル 1 を使用します。

□ **DMA 3**
DMA チャネル 3 を使用します。

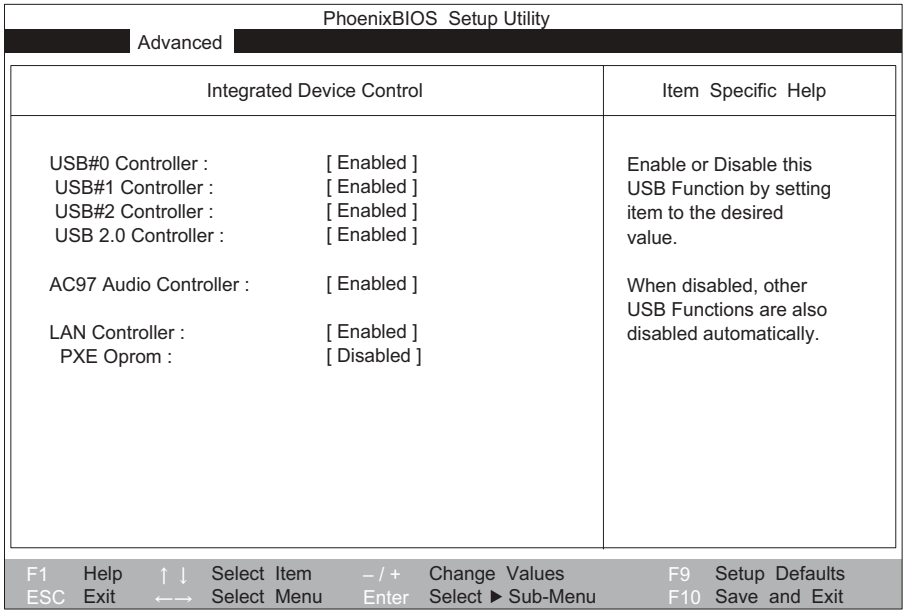
□ **Auto**　内蔵パラレルポートを使用し、動作モードのみを選択します。I/O ポートアドレスおよび IRQ は自動的に設定されます。

重要　「(3) Advanced メニュー」(→ P.57) の「Installed O/S」が「Win2000」に設定されている場合は、BIOS では I/O ポートアドレス、割り込みレベルおよび DMA チャネルの設定は行いません。

□ **Disabled**　内蔵パラレルポートを使用しません。

● Integrated Device Control

内蔵デバイスを使用するかどうかを設定します。


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
Integrated Device Control
Item Specific Help
USB#0 Controller : [Enabled]
USB#1 Controller : [Enabled]
USB#2 Controller : [Enabled]
USB 2.0 Controller : [Enabled]
AC97 Audio Controller : [Enabled]
LAN Controller : [Enabled]
PXE Oprom : [Disabled]
Enable or Disable this USB Function by setting item to the desired value.
When disabled, other USB Functions are also disabled automatically.
F1 Help ↑ ↓ Select Item – / + Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

USB#0 Controller　USB #0（ポート 0 ／ポート 2）の使用について設定します。

■ **Enabled**　USB #0 を使用します。

□ **Disabled**　USB #0 を使用しません。

重要　「USB#0 Controller」を「Disabled」にした場合、「USB#1 Controller」と「USB#2 Controller」は、自動的に「Disabled」となります。

USB#1 Controller　USB #1（ポート 1 ／ポート 4）の使用について設定します。

■ **Enabled**
USB #1 を使用します。

□ **Disabled**
USB #1 を使用しません。

USB#2 Controller　USB #2（ポート 3 ／ポート 5）の使用について設定します。

■ **Enabled**
USB #2 を使用します。

□ **Disabled**
USB #2 を使用しません。

USB2.0 Controller USB2.0 の使用について設定します。

■ **Enabled**
USB2.0 を使用します。

□ **Disabled**
USB2.0 を使用しません。

重要 USB 2.0 の機器でブートする際は、「Disabled」を選択してください。この場合、USB 1.1 でブートします。

AC97 Audio Controller 本装置内の AC97 オーディオコントローラの使用について、設定します。

■ **Enabled** AC97 オーディオコントローラを使用します。

□ **Disabled** AC97 オーディオコントローラを使用しません。

LAN Controller 本装置内の LAN コントローラの使用について、設定します。

■ **Enabled** LAN コントローラを使用します。

□ **Disabled** LAN コントローラを使用しません。

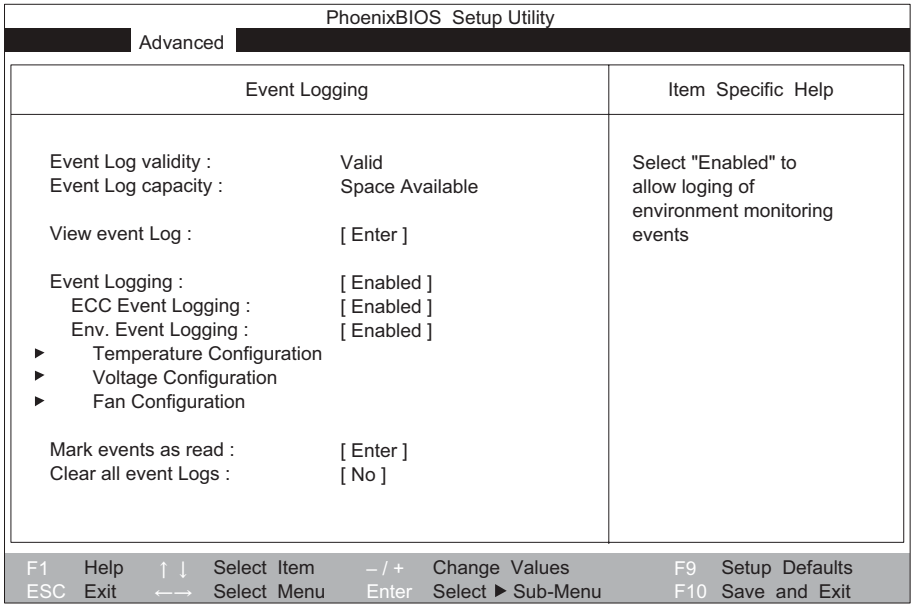
PXE Oprom 本装置内の PXE（Pre-boot eXecution Environment）の使用について、設定します。

□ **Enabled** PXE を使用します。

■ **Disabled** PXE を使用しません。

● Event Logging

イベントログ機能に関する設定などを行います。


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
Event Logging
Item Specific Help
Event Log validity : Valid
Event Log capacity : Space Available
View event Log : [Enter]
Event Logging : [Enabled]
ECC Event Logging : [Enabled]
Env. Event Logging : [Enabled]
Temperature Configuration
Voltage Configuration
Fan Configuration
Mark events as read : [Enter]
Clear all event Logs : [No]
Select "Enabled" to allow loging of environment monitoring events
F1 Help ↑ ↓ Select Item – / + Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Event Log Validity　現在のイベントログ領域の内容が有効かどうかを表示します。本設定は選択できません。

- ■ **Valid**　イベントログ領域の内容が有効です。
- □ **Not Valid**　イベントログ領域の内容が無効です。

Event Log Capacity　現在のイベントログ領域の状態を表示します。本設定は選択できません。

- ■ **Space Available**　イベントログ領域に保存可能です。
- □ **Full**　イベントログ領域に空きがないため、保存できません。

重要

- イベントログ領域の全体サイズは固定であり、保存可能なログ情報の数は最大 127 個です。
- 「Event Log Capacity」欄に 「Full」と表示された場合は、イベントログ領域に空きがないことを示しています。以後のイベントログを採取する場合は、本設定画面内の「Clear All Event Logs」の値を「Yes」に設定し、ログ情報を消去してください。

View Event Log　ログ情報の内容を表示します。この欄に「Enter」と表示されている場合は、<Enter> キーを押すと、採取されているログ情報が画面に表示されます。

Event Logging　イベントログの採取について設定します。

- ■ **Enabled**　イベントログを採取します。
- □ **Disabled**　イベントログを採取しません。

ECC Event Logging メモリ ECC 関連のイベントログの採取について、設定します。

■ **Enabled** ECC イベントログを採取します。

□ **Disabled** ECC イベントログを採取しません。

Env. Event Logging 環境監視関連（温度、電圧、FAN）のイベントログの採取について、設定します。

■ **Enabled** 環境監視イベントログを採取します。

□ **Disabled** 環境監視イベントログを採取しません。

Temperature Configuration 温度に関するイベントログの設定をします。

参照 「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● Temperature Configuration」（→ P.67）

Voltage Configuration 電圧に関するイベントログの設定をします。

参照 「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● Voltage Configuration」（→ P.68）

Fan Configuration ファンに関するイベントログの設定をします。

参照 「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● Fan Configuration」（→ P.70）

Mark events as read 未読のイベントログを既読にします。

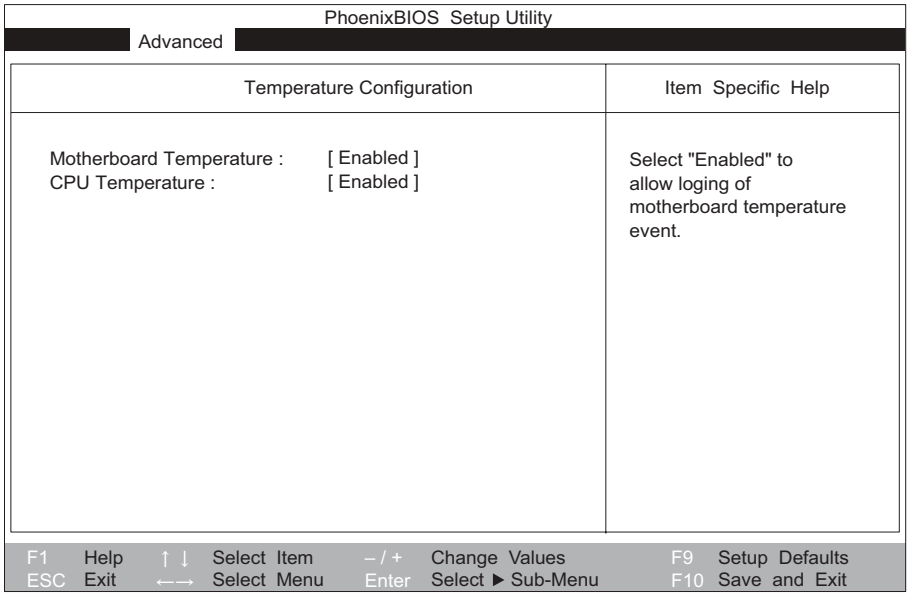
Clear all event Logs 記録されているイベントログの消去について、設定します。

■ **No** イベントログは消去されません。

□ **Yes** 記録されているイベントログをすべて消去します。

● Temperature Configuration

温度に関するイベントログの設定をします。


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
Temperature Configuration
Item Specific Help
Motherboard Temperature : [Enabled]
CPU Temperature : [Enabled]
Select "Enabled" to allow loging of motherboard temperature event.
F1 Help ↑ ↓ Select Item –/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Motherboard Temperature　マザーボード周辺温度に関するイベントログの採取について、設定します。

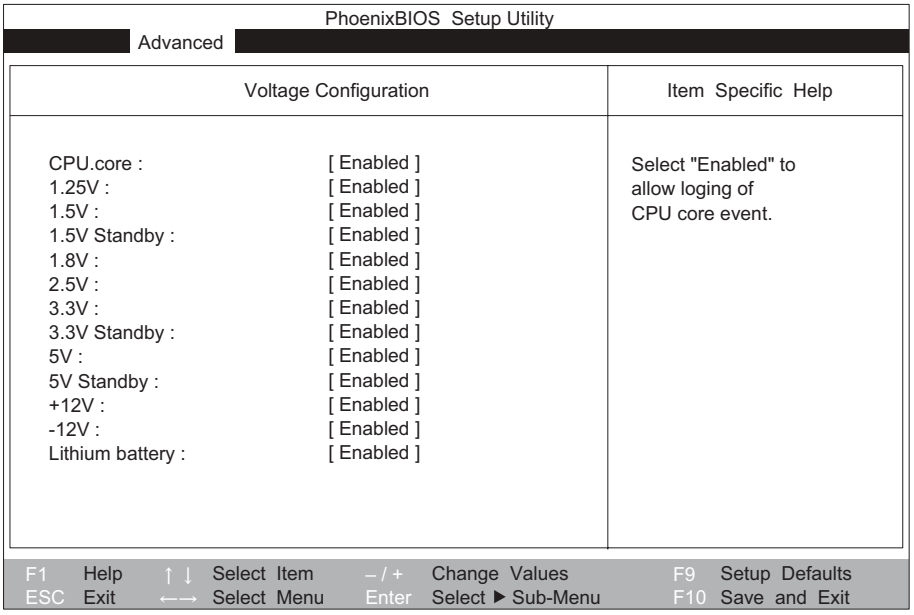
- ■ **Enabled**　イベントログを採取します。
- □ **Disabled**　イベントログを採取しません。

CPU Temperature　CPU 温度に関するイベントログの採取について、設定します。

- ■ **Enabled**　イベントログを採取します。
- □ **Disabled**　イベントログを採取しません。

● Voltage Configuration

電圧に関するイベントログの設定をします。


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
Voltage Configuration
Item Specific Help
CPU.core : [Enabled]
1.25V : [Enabled]
1.5V : [Enabled]
1.5V Standby : [Enabled]
1.8V : [Enabled]
2.5V : [Enabled]
3.3V : [Enabled]
3.3V Standby : [Enabled]
5V : [Enabled]
5V Standby : [Enabled]
+12V : [Enabled]
-12V : [Enabled]
Lithium battery : [Enabled]
Select "Enabled" to allow loging of CPU core event.
F1 Help ↑ ↓ Select Item – / + Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

CPU core　CPU コア電圧に関するイベントログの採取について、設定します。

- ■ **Enabled**　イベントログを採取します。
- □ **Disabled**　イベントログを採取しません。

1.25V　1.25V 電圧に関するイベントログの採取について、設定します。

- ■ **Enabled**　イベントログを採取します。
- □ **Disabled**　イベントログを採取しません。

1.5V　1.5V 電圧に関するイベントログの採取について、設定します。

- ■ **Enabled**　イベントログを採取します。
- □ **Disabled**　イベントログを採取しません。

1.5V Standby　1.5V スタンバイ電圧に関するイベントログの採取について、設定します。

- ■ **Enabled**　イベントログを採取します。
- □ **Disabled**　イベントログを採取しません。

1.8V　1.8V 電圧に関するイベントログの採取について、設定します。

- ■ **Enabled**　イベントログを採取します。
- □ **Disabled**　イベントログを採取しません。

2.5V　2.5V 電圧に関するイベントログの採取について、設定します。

- ■ **Enabled**　イベントログを採取します。
- □ **Disabled**　イベントログを採取しません。

3.3V 3.3V 電圧に関するイベントログの採取について、設定します。

■ **Enabled** イベントログを採取します。

□ **Disabled** イベントログを採取しません。

3.3V Standby 3.3V スタンバイ電圧に関するイベントログの採取について、設定します。

■ **Enabled** イベントログを採取します。

□ **Disabled** イベントログを採取しません。

5V 5V 電圧に関するイベントログの採取について、設定します。

■ **Enabled** イベントログを採取します。

□ **Disabled** イベントログを採取しません。

5V Standby 5V スタンバイ電圧に関するイベントログの採取について、設定します。

■ **Enabled** イベントログを採取します。

□ **Disabled** イベントログを採取しません。

+12V +12V 電圧に関するイベントログの採取について、設定します。

■ **Enabled** イベントログを採取します。

□ **Disabled** イベントログを採取しません。

-12V -12V 電圧に関するイベントログの採取について、設定します。

■ **Enabled** イベントログを採取します。

□ **Disabled** イベントログを採取しません。

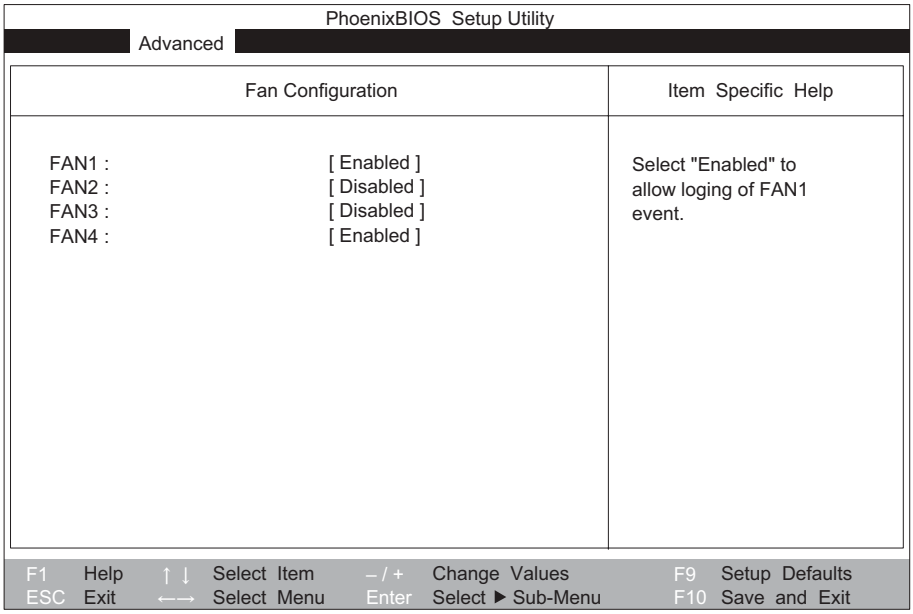
Lithium battery リチウムバッテリの電圧に関するイベントログの採取について、設定します。

■ **Enabled** イベントログを採取します。

□ **Disabled** イベントログを採取しません。

● Fan Configuration

ファンに関するイベントログの設定をします。


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
Fan Configuration
Item Specific Help
FAN1 : [Enabled]
FAN2 : [Disabled]
FAN3 : [Disabled]
FAN4 : [Enabled]
Select "Enabled" to allow loging of FAN1 event.
F1 Help ↑ ↓ Select Item – / + Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

FAN1　FAN1 に関するイベントログの採取について、設定します。

- **■ Enabled**　イベントログを採取します。
- **□ Disabled**　イベントログを採取しません。

FAN2　FAN2 に関するイベントログの採取について、設定します。

- **□ Enabled**　イベントログを採取します。
- **■ Disabled**　イベントログを採取しません。

FAN3　FAN3 に関するイベントログの採取について、設定します。

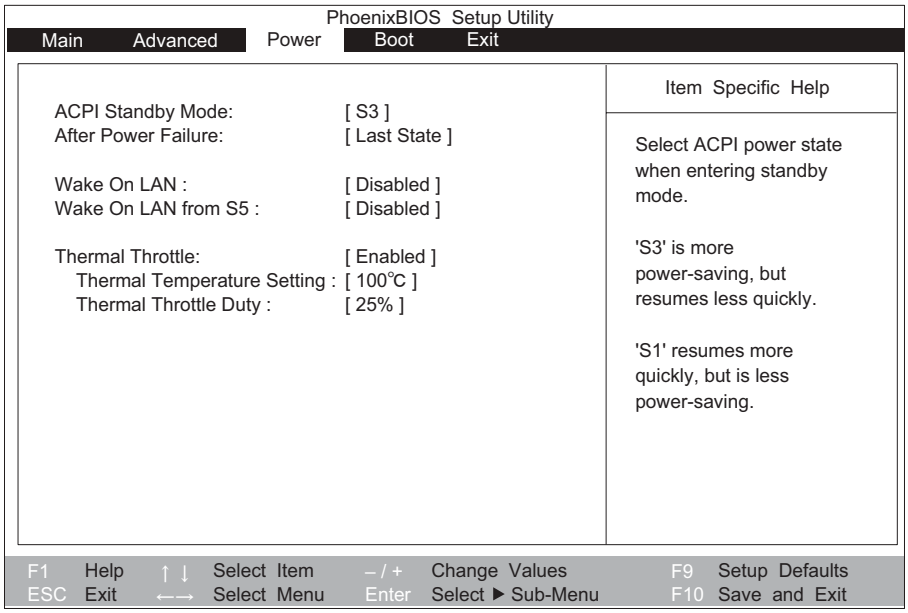
- **□ Enabled**　イベントログを採取します。
- **■ Disabled**　イベントログを採取しません。

FAN4　FAN4 に関するイベントログの採取について、設定します。

- **■ Enabled**　イベントログを採取します。
- **□ Disabled**　イベントログを採取しません。

（5） Power メニュー

Power メニューでは、電源のオン／オフに関する詳細な設定を行います。


PhoenixBIOS Setup Utility
Main Advanced Power Boot Exit
ACPI Standby Mode: [S3]
After Power Failure: [Last State]
Wake On LAN : [Disabled]
Wake On LAN from S5 : [Disabled]
Thermal Throttle: [Enabled]
Thermal Temperature Setting : [100℃]
Thermal Throttle Duty : [25%]
Item Specific Help
Select ACPI power state when entering standby mode.
'S3' is more power-saving, but resumes less quickly.
'S1' resumes more quickly, but is less power-saving.
F1 Help ↑ ↓ Select Item – / + Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

ACPI Standby Mode

ACPI でスタンバイモードに移行するときのモードを指定します。

- ■ **S3**　消費電力は低く抑えられますが、復帰に比較的時間のかかるモードです。
- □ **S1**　すばやく復帰できますが、比較的消費電力が高いモードです。

After Power Failure

停電後、通電が再開したときの動作を指定します。

- □ **Stay Off**　停電前の電源状態にかかわらず、電源は入りません。
- ■ **Last State**　停電前の電源状態に復帰します。
- □ **Power On**　停電前の電源状態にかかわらず、電源が入ります。

Wake On LAN

APM OS での Wake On LAN の使用について、設定します。

- □ **Enabled**　Wake On LAN を使用します。
- ■ **Disabled**　Wake On LAN を使用しません。

Wake On LAN from S5

Windows® 2000 や Windows® XP などの ACPI OS で、ソフトオフ状態から、オンボード LAN での Wake On LAN のサポートについて、設定（S5）します。

- □ **Enabled**　S5 からの Wake On LAN を使用します。
- ■ **Disabled**　S5 からの Wake On LAN を使用しません。

Thermal Throttle

CPU の熱暴走を防止するための Thermal Throttle の使用について、設定します。

■ **Enabled** Thermal Throttle を使用します。

□ **Disabled** Thermal Throttle を使用しません。

Thermal Temperature Setting

Thermal Throttle の温度を、次の 4 種類から選択します。

□ **70 ℃**、□ **80 ℃**、□ **90 ℃**、■ **100 ℃**

Thermal Throttle Duty

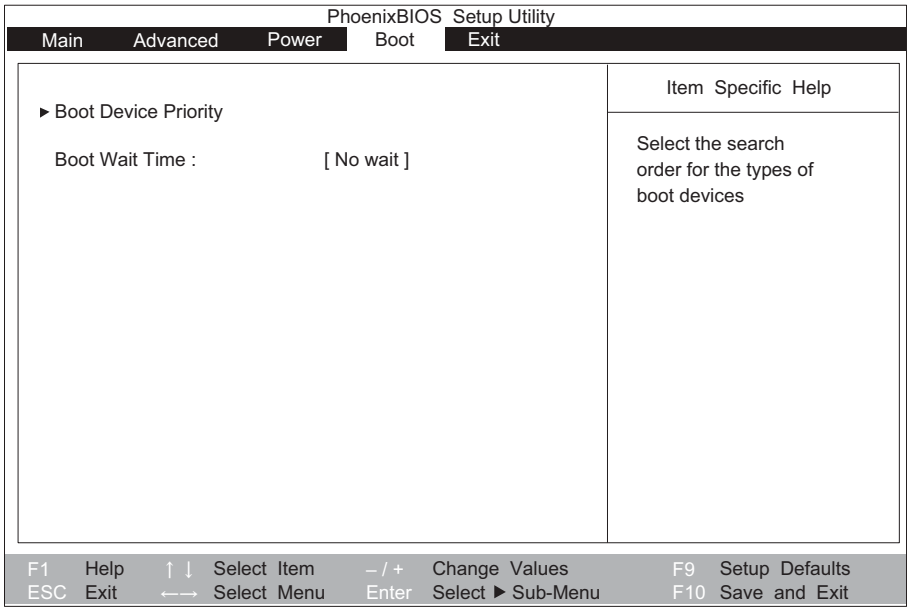
Thermal Throttle の Duty 比を、次の 3 種類から選択します。

■ **25%**、□ **50%**、□ **75%**

（6） Boot メニュー

Boot メニューでは、システムの起動に関する設定を行います。

< ↑ > ／ < ↓ > キーで項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを開きます。


PhoenixBIOS Setup Utility
Main Advanced Power Boot Exit
▶ Boot Device Priority
Boot Wait Time : [No wait]
Item Specific Help
Select the search order for the types of boot devices
F1 Help ↑ ↓ Select Item –/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Boot Device Priority　起動ドライブの優先順位の設定を行います。

参照 「(7) Boot メニューのサブメニュー」の「● Boot Device Priority」（→ P.74）

Boot Wait Time　システム起動時のウェイト時間（秒）を、以下から選択します。

■ No wait、□ 30s、□ 60s、□ 90s、□ 120s、□ 150s、□ 180s

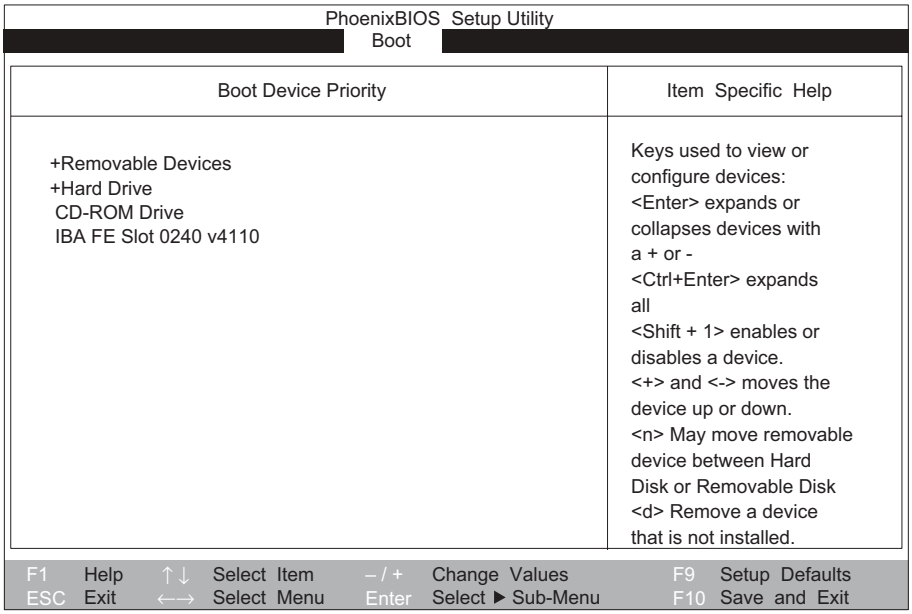
（7） Boot メニューのサブメニュー

ここでは、Boot メニューのサブメニューについて説明します。

● Boot Device Priority

起動ドライブの優先順位の設定を行います。
次のキー入力を行うことによって、優先順位の変更およびそのドライブからの起動を、有効にするか無効にするかを設定できます。

使用するキー	意味
< ＋ >	カーソルのあるエントリを上位の優先順位にします。
< － >	カーソルのあるエントリを下位の優先順位にします。
<Shift> + <1>	そのドライブから起動を有効にするか無効にするかを切り替えます。
<Enter>	各エントリの前に「+」がある場合は、詳細情報を表示します。 各エントリの前に「-」がある場合は、詳細情報を非表示にします。



Removable Device

リムーバブルドライブからの起動を行います。
リムーバブルドライブとは、ドライブレターが A となるドライブのことです。フロッピーディスクドライブや LS-120 などがこれにあたります。対象となるドライブについては、詳細情報を表示することによって確認することができます。

Hard Drive ハードディスクからの起動を行います。
IDE ハードディスク、SCSI ハードディスク、IDE インタフェースに準拠したデバイスなどがこれにあたります。対象となるドライブについては、詳細情報を表示することによって確認することができます。

CD-ROM Drive ATAPI インタフェース準拠の CD-ROM からの起動を行います。

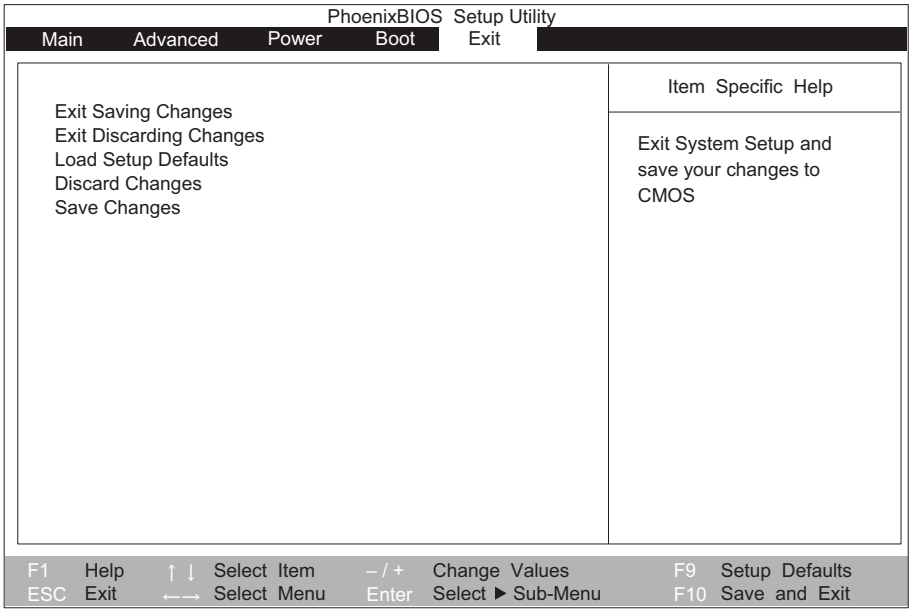
重要 上記のドライブを IDE インタフェースのプライマリスレーブに接続する場合は、「(1) Main メニュー」(→ P.47) の「Primary Slave」の設定を「Auto」に変更したあとシステムを再起動し、再度 BIOS セットアップを起動してください。

IBA FE Slot 0240 v4110 オンボード LAN コントローラを使用して、ネットワークからのブートを行います。

重要 この項目は、「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● Integrated Device Control」(→ P.63) の「PXE Oprom」が「Enabled」の状態で起動した場合にのみ、表示されます。

（8） Exit メニュー

Exit メニューでは、設定を保存したり工場出荷時の設定に戻したりしてから、BIOS セットアップを終了します。



Exit Saving Changes 設定内容を CMOS RAM に保存して、BIOS セットアップを終了します。

Exit Discarding Changes 設定内容を保存しないで、BIOS セットアップを終了します。

Load Setup Defaults 設定内容を、工場出荷時の設定内容に戻します。

Discard Changes CMOS RAM に保存されている設定を読み出して、前回の設定内容に戻します。
（<F7> キーを使用した場合と同じ動作となります。）

Save Changes 現在の設定内容を、CMOS RAM に保存します。

4.4 BIOS セットアップのメニュー（モデル 210）

BIOS セットアップのメニューは、次の 6 つに分かれています。さらに、Main メニュー、Advanced メニュー、Power メニューおよび Boot メニューには、より詳細な設定を行うためのサブメニューが用意されています。

メニュー名	内　容	参照ページ
Main	日時やドライブの設定など、基本的なシステムコンフィグレーションに関する設定を行います。	78
Advanced	内蔵機器のポートアドレスやチップセットに関連した、高度な設定を行います。	81
Security	BIOS セットアップを起動する際のパスワード認証に関する設定を行います。	93
Power	省電力モードに関する設定を行います。	94
Boot	起動に関する設定を行います。	97
Exit	BIOS セットアップの終了、設定値の変更および保存を行います。	101

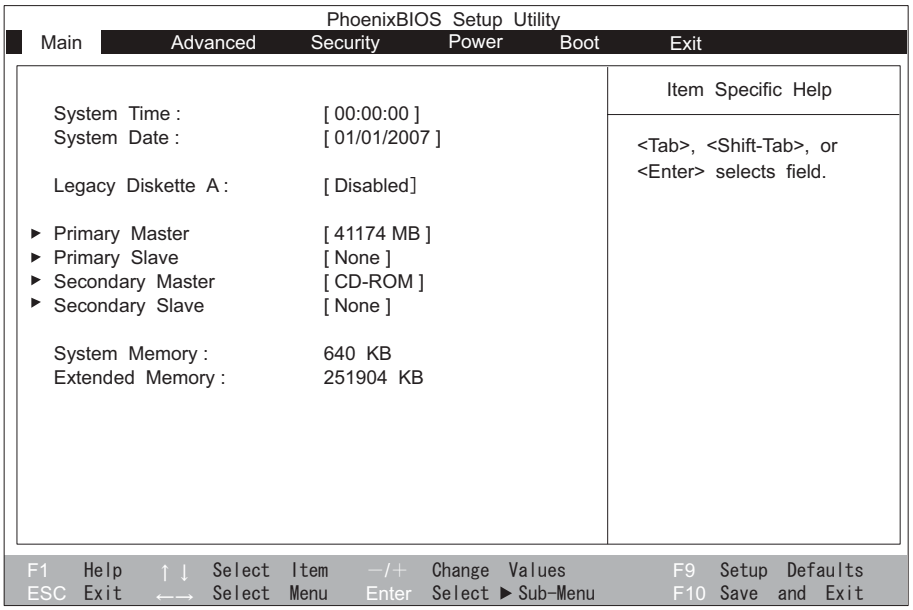
以降、各メニューの項目の詳細について説明します。

参照 操作方法については、「4.2 BIOS セットアップの操作」の「●モデル 210 の場合」（→ P.42）を参照してください。

（1） Main メニュー

Main メニューでは、基本的なシステム構成について設定／表示を行います。

< ↑ > ／ < ↓ > キーで項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを設定します。


PhoenixBIOS Setup Utility
Main
Advanced
Security
Power
Boot
Exit
Item Specific Help
System Time : [00:00:00]
System Date : [01/01/2007]
Legacy Diskette A : [Disabled]
► Primary Master [41174 MB]
► Primary Slave [None]
► Secondary Master [CD-ROM]
► Secondary Slave [None]
System Memory : 640 KB
Extended Memory : 251904 KB
<Tab>, <Shift-Tab>, or
<Enter> selects field.
F1 Help ↑ ↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

System Time
時：分：秒を設定します。<Tab> キーまたは <Enter> キーで次のフィールドにカーソルを移動して、数値を入力します。

System Date
月／日／年（西暦）を設定します。<Tab> キーまたは <Enter> キーで次のフィールドにカーソルを移動して、数値を入力します。

Legacy Diskette A
フロッピーディスクドライブ A の使用について、設定します。使用可能なフロッピーディスクドライブは、3.5 インチ 1.44MB のみです。

- **■ Disabled**　フロッピーディスクドライブを使用しません。
- **□ 1.44MB 3 1/2"**　3.5 インチ 1.44MB ドライブを使用します。

Primary Master
Primary Slave
Secondary Master
Secondary Slave
各 IDE ドライブのタイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。

参照 「(2) Main メニューのサブメニュー」（→ P.79）

System Memory
基本メモリ容量が表示されます。この項目の値は、POST 時に自動的に検出されます。変更はできません。

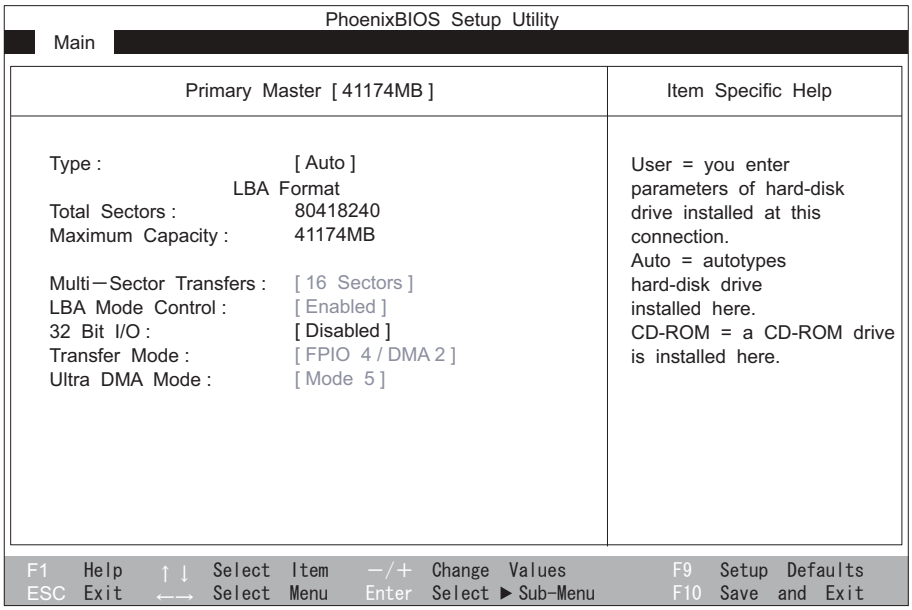
Extended Memory
拡張メモリ容量が表示されます。この項目の値は、POST 時に自動的に検出されます。変更はできません。

（2） Main メニューのサブメニュー

ここでは、Main メニューのサブメニューについて説明します。

● IDE ドライブ詳細設定

各ドライブ（プライマリマスター、プライマリスレーブ、セカンダリマスター、セカンダリスレーブ）のハードディスクタイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。



この画面では、BIOS で認識したハードディスクの LBA（論理ブロックアドレッシング）での総セクタ数とハードディスク容量を表示します。8.4GB 以下のハードディスクについては、シリンダ数、ヘッド数、およびセクタ数とハードディスク容量を、併せて表示します。「Primary Master」の例を次に示します。

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Type　IDE ドライブの接続の有無や、各パラメタを設定します。

- **■ Auto**　自動的にハードディスクの接続の有無やタイプを設定します。ハードディスクが接続されている場合、各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数など）は、ハードディスクの情報に従って自動的に設定されます。
- **□ None**　ハードディスクを未接続とします。
- **□ CD-ROM**　CD-ROM（IDE）ドライブを接続します。
- **□ ATAPI Removable**　ATAPI リムーバブルデバイスを接続します。
- **□ User**　各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数など）を直接指定します。

Multi-Sector Transfers

複数のセクタのデータを、一括して転送するかどうかを設定します。「Type」に「CD-ROM」、「ATAPI Removable」または「User」を指定した場合に設定可能です。

- ☐ **Disabled** 1 セクタずつ転送します。
- ☐ **2 Sectors ～ 16 Sectors**（■ **16 Sectors**） 一括して転送するセクタ数を選択します。数値が大きくなるほどデータの転送速度は上がりますが、一括転送の効果が現れるセクタ数は、ドライブのキャッシュ容量に左右されます。

LBA Mode Control

LBA（論理ブロックアドレッシング）モードの使用について、設定します。「Type」に「CD-ROM」、「ATAPI Removable」または「User」を指定した場合に設定可能です。

- ☐ **Disabled** LBA モードを使用しません。
- ■ **Enabled** LBA モードを使用します。「Enabled」に設定する場合は、LBA モードに対応したドライブが必要です。

32 Bit I/O

内蔵 IDE コントローラと CPU の間で 32 ビット転送を行うかどうかを設定します。「None」以外を指定した場合に設定可能です。

- ■ **Disabled** 32 ビット転送をしません。
- ☐ **Enabled** 32 ビット転送をします。

Transfer Mode

データの転送モードを設定します。「Type」に「CD-ROM」、「ATAPI Removable」または「User」を指定した場合に設定可能です。

各モードの設定では数値が大きくなるほど転送速度が上がりますが、設定した各モードに対応したドライブが必要です。

- ☐ **Standard** PIO Mode 0 に設定します。
- ☐ **Fast PIO 1 ～ Fast PIO 4** Fast PIO Mode 1 ～ Fast PIO Mode 4 のいずれかを選択します。
- ☐ **FPIO 3/DMA 1** Fast PIO Mode 3 または DMA Mode 1 を使用します。
- ■ **FPIO 4/DMA 2** Fast PIO Mode 4 または DMA Mode 2 を使用します。

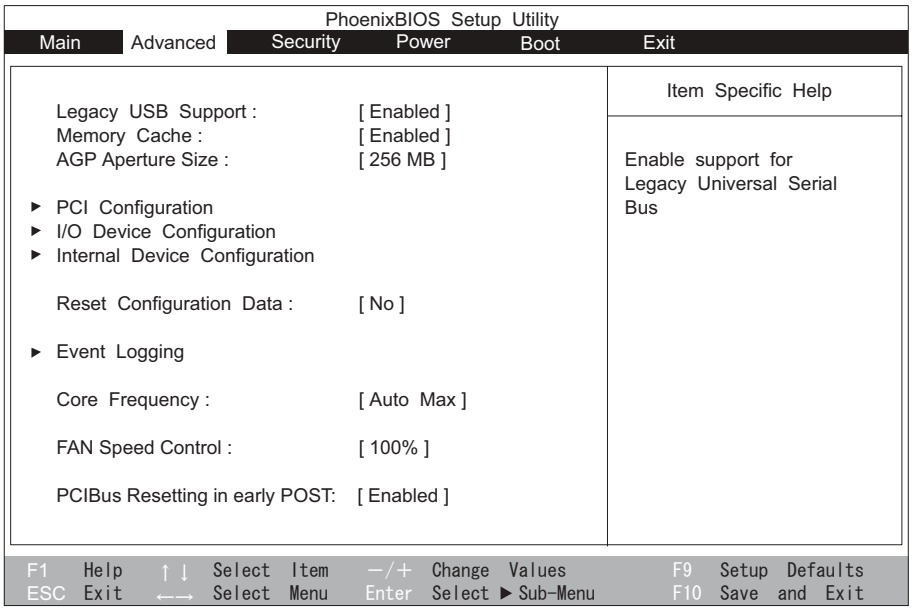
Ultra DMA Mode

Ultra DMA モードの使用について設定します。「Type」に「CD-ROM」、「ATAPI Removable」または「User」を指定した場合に設定可能です。

- ☐ **Disabled** Ultra DMA モードを使用しません。
- ☐ **Mode 0 ～ Mode 5**（■ **Mode 5**） Ultra DMA の転送モードを選択します。Ultra DMA モードを設定する場合は、Ultra DMA モードに対応したドライブが必要です。

（3） Advanced メニュー

Advanced メニューでは、本製品に搭載されたデバイスについて詳細な設定を行います。
＜↑＞／＜↓＞キーで項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを開きます。


PhoenixBIOS Setup Utility
Main
Advanced
Security
Power
Boot
Exit
Item Specific Help
Legacy USB Support : [Enabled]
Memory Cache : [Enabled]
AGP Aperture Size : [256 MB]
► PCI Configuration
► I/O Device Configuration
► Internal Device Configuration
Reset Configuration Data : [No]
► Event Logging
Core Frequency : [Auto Max]
FAN Speed Control : [100%]
PCIBus Resetting in early POST: [Enabled]
Enable support for Legacy Universal Serial Bus
F1 Help ↑↓ Select Item −/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Legacy USB Support　USB をサポートしていない OS での、USB キーボードや USB マウスの使用について設定します。

- ■ **Enabled**　レガシー USB サポートを有効にします。
- □ **Disabled**　レガシー USB サポートを無効にします。

重要　USB ストレージデバイス（USB フロッピーディスクドライブ、USB CD-ROM ドライブ）を起動ドライブの対象にする場合は、この設定を「Enabled」にする必要があります。

Memory Cache　2 次キャッシュ（L2 キャッシュ）の使用について、設定します。

- □ **Disabled**　L2 キャッシュを使用しません。
- ■ **Enabled**　L2 キャッシュを使用します。

AGP Aperture Size　AGP のビデオカードが使用するメモリ空間のサイズを設定します。

- ■ **256 MB**　256MB 分の空間を使用します。
- □ **128 MB**　128MB 分の空間を使用します。
- □ **64 MB**　64MB 分の空間を使用します。

PCI Configuration 外部 PCI スロットに対する資源の割り当ての設定を行います。

参照 「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● PCI Configuration」(→ P.84)

I/O Device Configuration 内蔵機器の、I/O ポートアドレスや IRQ の設定などを行います。

参照 「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● I/O Device Configuration」(→ P.86)

Internal Device Configuration 内蔵デバイスに関する設定を行います。

参照 「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● Internal Device Configuration」(→ P.88)

Reset Configuration Data ESCD (Extended System Configuration Data) 領域のデータ初期化を指定します。「Yes」に変更後、再起動すると、データが初期化されます。PCI カードなどのコンフリクトを原因とする起動エラー (Invalid System Configuration Data) が発生した場合、本機能により解決できる場合があります。

重要 本項目の設定値は、データ初期化を実行後、自動的に「No」へ戻ります。

Event Logging イベントログ機能の設定を行います。

参照 「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● Event Logging」(→ P.91)

Core Frequency メモリクロックおよびグラフィックコアの、動作クロックを指定します。

選択可能なクロックは次のとおりです。

- ■ **Auto Max** メモリの種類を自動的に判別し、最適なクロックを使用します。
- □ **200MHz/133MHz**
- □ **200MHz/200MHz**
- □ **266MHz/200MHz**
- □ **333MHz/250MHz**

FAN Speed Control

ファンの回転速度を設定します。FAN0 ～ FAN3 コネクタに接続されたすべてのファンの回転速度は、本項目の設定値に連動して変化します。

- ☐ **25%** Duty 比 25% でファンを回転させます。
- ☐ **50%** Duty 比 50% でファンを回転させます。
- ☐ **75%** Duty 比 75% でファンを回転させます。
- ■ **100%** フルスピードでファンを回転させます。

本製品はパルス幅変調（PWM）方式によりファンの回転速度を制御しています。本設定は、このパルス幅変調の Duty 比を指定するものであり、実際のファンの回転数比率を指定するものではありません。

PCIBus Resetting in early POST

POST 時の PCI バスのリセットについて設定します。

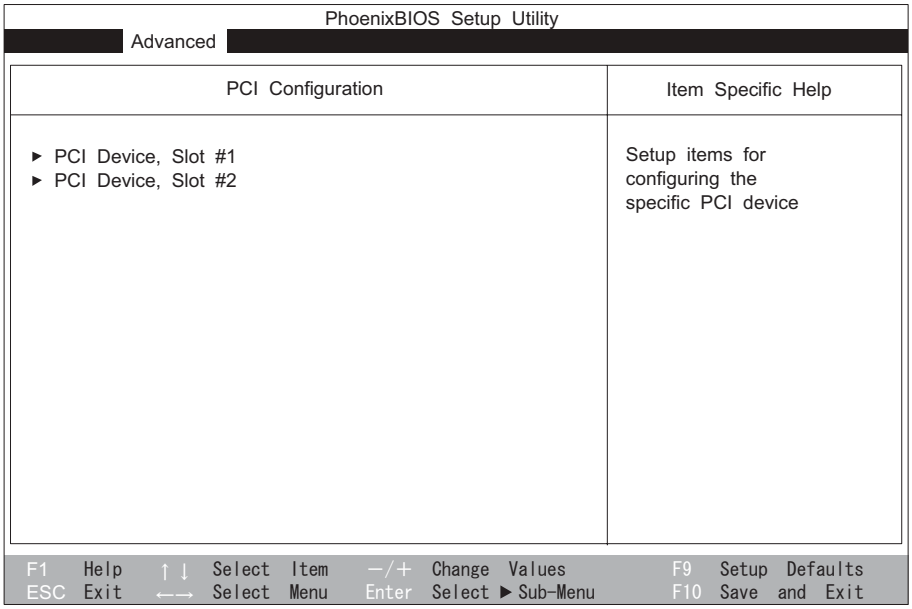
- ■ **Enabled** POST 時に PCI バスをリセットします。
- ☐ **Disabled** POST 時に PCI バスをリセットしません。

（4） Advanced メニューのサブメニュー

ここでは、Advanced メニューのサブメニューについて説明します。

● PCI Configuration

PCI スロットに関する設定を行います。


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
PCI Configuration
Item Specific Help
▶ PCI Device, Slot #1
▶ PCI Device, Slot #2
Setup items for configuring the specific PCI device
F1 Help ↑↓ Select Item −/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

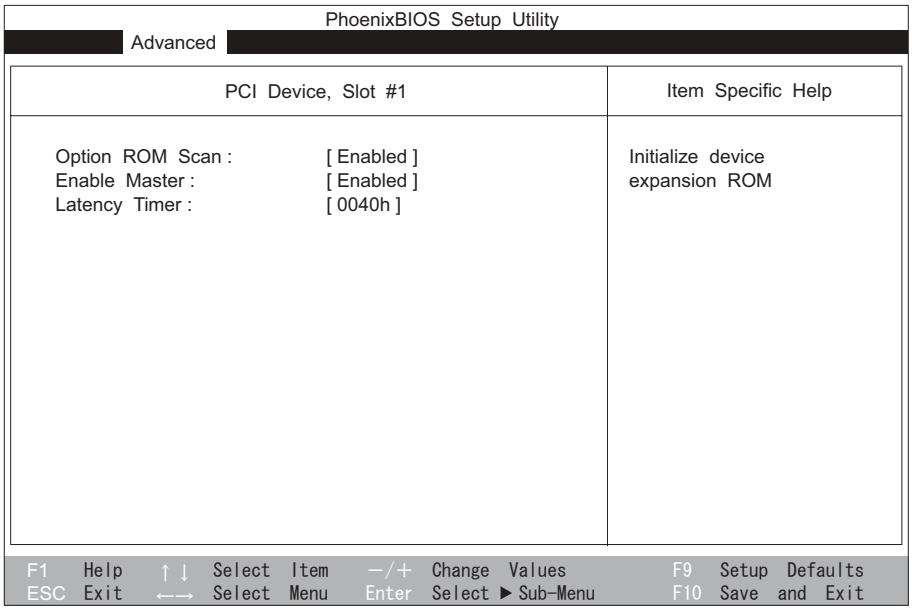
PCI Device, Slot #n　PCI デバイスまたは PCI スロット #1 ～ #2 のコンフィグレーションを行います。

参照「● PCI Configuration のサブメニュー」の「PCI Device, Slot #n」（→ P.85）

● PCI Configuration のサブメニュー

PCI Configuration のサブメニューについて説明します。

PCI Device, Slot #n


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
PCI Device, Slot #1
Item Specific Help
Option ROM Scan : [Enabled]
Enable Master : [Enabled]
Latency Timer : [0040h]
Initialize device expansion ROM
F1 Help ↑↓ Select Item −/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Option ROM Scan　PCI デバイスに搭載されているオプション ROM を、スキャンするかどうかを指定します。

- **■ Enabled**　スキャンします。
- **□ Disabled**　スキャンしません。

Enable Master　接続されているデバイスを、PCI バスマスターデバイスとして使用するかどうかを指定します。

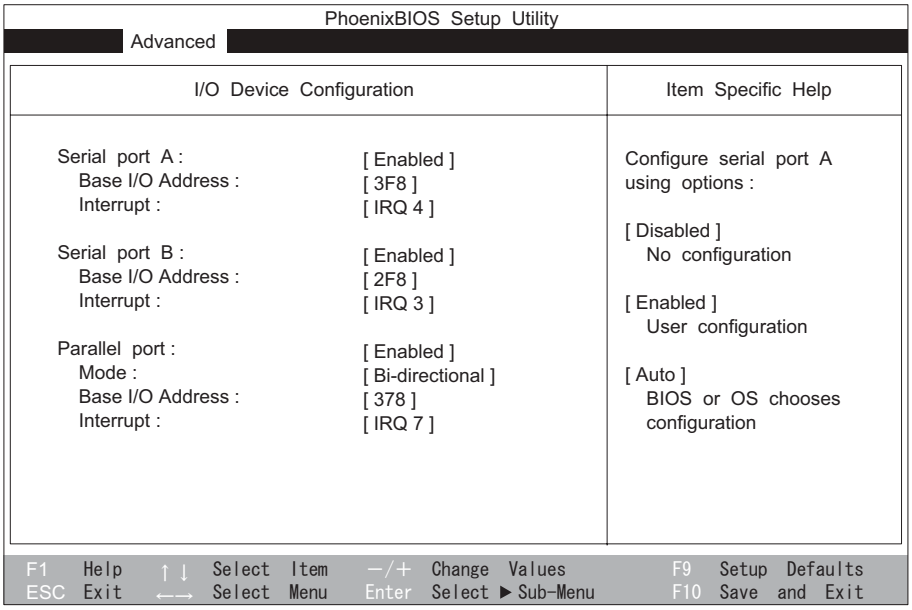
- **■ Enabled**　バスマスターデバイスとして使用します。
- **□ Disabled**　バスマスターデバイスとして使用しません。

Latency Timer　バスマスターデバイスとして使用する場合の、PCI バスの使用優先度を指定します。

- **□ Default**　標準の優先度とします。
- **□ 0020h ～ 00E0h**
  （■ 0040h）　優先度を PCI バスクロック数で指定します。高速なデバイスに対して大きな値を指定すると、高い性能が得られます。

● I/O Device Configuration

内蔵機器の I/O ポートアドレスや IRQ（割り込みレベル）の設定などを行います。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

Serial port A
Serial port B

内蔵シリアルポート A（または B）の I/O ポートアドレスおよび IRQ を指定します。

■ Enabled　シリアルポート A（または B）を使用します。本設定値を選択した場合は、次の詳細設定項目が表示されます。

Base I/O address　I/O ポートアドレスを次の 4 種類から選択します。

- **■ 3F8（Serial port A）**
- **■ 2F8（Serial port B）**
- **□ 3E8**
- **□ 2E8**

Interrupt　割り込みレベルを次の 2 種類から選択します。

- **■ IRQ 4（Serial port A）**
- **■ IRQ 3（Serial port B）**

□ Auto　シリアルポート A（または B）を使用します。
I/O ポートアドレスおよび IRQ は自動的 に設定されます。

□ Disabled　シリアルポート A（または B）を使用しません。

Parallel port 内蔵パラレルポートの動作モード、I/O ポートアドレスおよび IRQ を指定します。

■ **Enabled** パラレルポートを使用します。本設定値を選択した場合は、次の詳細設定項目が表示されます。

Mode パラレルポートの動作モードを指定します。

■ **Bi-directional**
双方向モードで動作します。

□ **ECP**
ECP モードで動作します。

□ **EPP**
EPP モードで動作します。

□ **Output only**
単方向モードで動作します。

Base I/O address I/O ポートアドレスを次の 2 種類から選択します。

□ **278**、■ **378**

Interrupt 割り込みレベルを次の 2 種類から選択します。

□ **IRQ 5**、■ **IRQ 7**

DMA channel DMA チャネルを指定します。動作モードに ECP を指定した場合にのみ設定可能です。

□ **DMA 1**
DMA チャネル 1 を使用します。

□ **DMA 3**
DMA チャネル 3 を使用します。

□ **Auto** パラレルポートを使用し、動作モードのみを選択します。I/O ポートアドレス、IRQ および DMA チャネルは自動的に設定されます。

Mode パラレルポートの動作モードを指定します。

□ **Bi-directional**
双方向モードで動作します。

□ **ECP**
ECP モードで動作します。

□ **EPP**
EPP モードで動作します。

□ **Output only**
単方向モードで動作します。

□ **Disabled** パラレルポートを使用しません。

重要

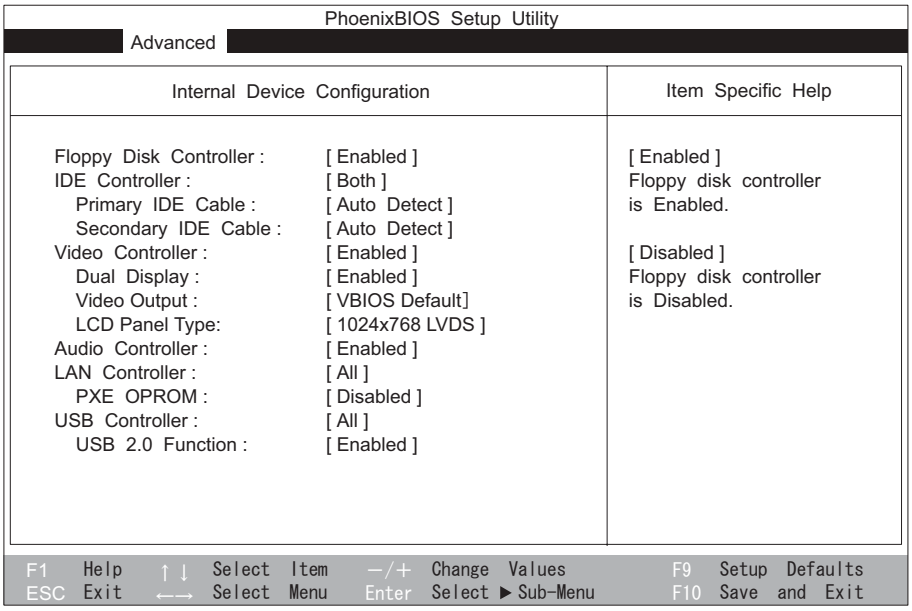
シリアルポートおよびパラレルポートの設定を「Auto」にして使用する場合、PCI デバイスに対する各リソース（I/O ポートアドレスや IRQ）の割り当てが優先されます。

その結果、シリアルポートやパラレルポートに割り当て可能なリソースが不足することにより、シリアルポートやパラレルポートが無効に設定される場合があります。

このため、シリアルポートやパラレルポートを優先して使用する場合は、「Auto」ではなく「Enabled」に設定してください。

● Internal Device Configuration

各コントローラについて設定を行います。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

Floppy Disk Controller　本製品内のフロッピーディスクコントローラの使用について、設定します。

- ■ **Enabled**　フロッピーディスクコントローラを使用します。
- □ **Disabled**　フロッピーディスクコントローラを使用しません。

IDE Controller　本製品内の IDE コントローラの使用について、設定します。

- ■ **Both**　プライマリおよびセカンダリの IDE コントローラを使用します。
- □ **Primary**　プライマリ IDE コントローラのみ使用します。
- □ **Secondary**　セカンダリ IDE コントローラのみ使用します。
- □ **Disabled**　IDE コントローラを使用しません。

Primary IDE Cable
Secondary IDE Cable

使用する IDE ケーブルタイプを指定します。

■ **Auto Detect** ケーブルタイプを自動判別します。

□ **80-Wire** Ultra ATA/100 まで対応可能な IDE 80 芯ケーブルを使用します。

□ **40-Wire** Ultra ATA/33 まで対応可能な IDE 40 芯ケーブルを使用します。

重要

- IDE デバイス側の仕様により、IDE 80 芯ケーブルを使用していてもそのケーブルの自動判別ができない場合があります。
- IDE ドライブ詳細設定（「(2) Main メニューのサブメニュー」(→ P.79)）内の「Type」が「Auto」であるときの「Ultra DMA Mode」が、そのデバイスで対応可能な最も高い転送モードであることを確認してください。
  最も高い転送モードになっていない場合、本メニューで「80-Wire」に変更後、再起動すると、転送モードが変更される場合があります。

Video Controller

本製品内のビデオコントローラの使用について、設定します。

■ **Enabled** ビデオコントローラを使用します。

□ **Disabled** ビデオコントローラを使用しません。

Dual Display

デュアルディスプレイ機能の使用について、設定します。

■ **Enabled** デュアルディスプレイ機能を使用します。

□ **Disabled** デュアルディスプレイ機能を使用しません。

Video Output

Video の出力先を指定します。なお、LCD （液晶ディスプレイ）表示時に使用可能な画面の解像度は、LCD の解像度に依存します。例えば、1024 × 768 の LCD を使用している場合は、640 × 480 や 800 × 600 の表示はできません。

□ **CRT & LCD** CRT と LCD を同時に表示します。

□ **CRT only** CRT のみ表示します。

□ **LCD only** LCD のみ表示します。

■ **VBIOS Default** ビデオ BIOS のデフォルト設定に従います。

重要

本設定は、Windows® XP および Windows® 2000 でディスプレイドライバを使用する場合には 、無効です。これらの OS では、ディスプレイドライバの設定で出力先を指定します。

LCD Panel Type

液晶ディスプレイパネルの形式を指定します。

■ **1024x768 LVDS**

Audio Controller

本製品内の AC'97 オーディオコントローラの使用について、設定します。

■ **Enabled** AC'97 オーディオコントローラを使用します。

□ **Disabled** AC'97 オーディオコントローラを使用しません。

LAN Controller

本製品内の LAN コントローラの使用について、設定します。

■ **All** すべての LAN コントローラを使用します。

□ **LAN#1** LAN ポート 1 のコントローラのみ使用します。

□ **LAN#2** LAN ポート 2 のコントローラのみ使用します。

□ **Disabled** LAN コントローラを使用しません。

PXE OPROM 本製品内の PXE オプション ROM 機能の使用について、設定します。

LAN1

- □ **Enabled** PXE オプション ROM 機能を使用します。
- ■ **Disabled** PXE オプション ROM 機能を使用しません。

LAN2

- □ **Enabled** PXE オプション ROM 機能を使用します。
- ■ **Disabled** PXE オプション ROM 機能を使用しません。

本設定は、使用できません。

USB Controller 本製品内の USB コントローラの使用について、設定します。

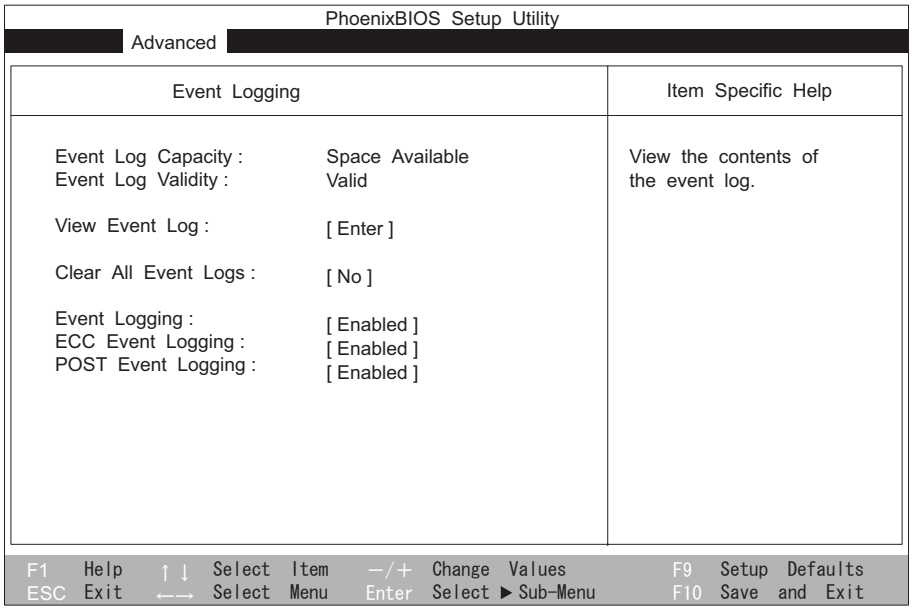
- ■ **All** すべての USB ポート（0 ～ 5）を使用します。
- □ **4 Port** USB ポート 0、1、2、3 のみ使用します。
- □ **2 Port** USB ポート 0、1 のみ使用します。
- □ **Disabled** すべての USB ポートを使用しません。

USB 2.0 Function USB 2.0 機能の使用について設定します。

- ■ **Enabled** USB 2.0 機能を使用します。
- □ **Disabled** USB 2.0 機能を使用しません。

● Event Logging

イベントログ機能に関する設定などを行います。


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
Event Logging
Item Specific Help
Event Log Capacity : Space Available
Event Log Validity : Valid
View Event Log : [Enter]
Clear All Event Logs : [No]
Event Logging : [Enabled]
ECC Event Logging : [Enabled]
POST Event Logging : [Enabled]
View the contents of the event log.
F1 Help ↑ ↓ Select Item −/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Event Log Capacity　現在のイベントログ領域の状態を表示します。本設定は選択できません。

- **■ Space Available**　イベントログ領域に保存可能です。
- **□ Full**　イベントログ領域に空きがないため、保存できません。

重要

イベントログ領域の全体サイズは固定であり、保存可能なログ情報の数は最大127 個です。

「Event Log Capacity」欄に 「Full」と表示された場合は、イベントログ領域に空きがないことを示しています。以後のイベントログを採取する場合は、本設定画面内の「Clear All Event Logs」の値を「Yes」に設定し、ログ情報を消去してください。

Event Log Validity　現在のイベントログ領域の内容が有効かどうかを表示します。本設定は選択できません。

- **■ Valid**　イベントログ領域の内容が有効です。
- **□ Not Valid**　イベントログ領域の内容が無効です。

View Event Log　ログ情報の内容を表示します。この欄に「Enter」と表示されている場合は、<Enter> キーを押すと、採取されているログ情報が画面に表示されます。

Clear All Event Logs ログ情報を消去する場合に使用します。

■ **No**	ログ情報の内容を保持します。
□ **Yes**	ログ情報を消去する場合に指定します。BIOS セット　アップ を終了して再起動するタイミングで、ログ情報　の消去が行われます。本設定の内容は、再起動後「No」に戻ります。

Event Logging イベントログ機能の使用について設定します。

■ **Enabled**	イベントログ機能を使用します。
□ **Disabled**	イベントログ機能を使用しません。この場合、本設定　画面には、「ECC Event Logging」および「POST Event Logging」は表示されません。

ECC Event Logging ECC エラーに関するログ情報を採取するかどうかを指定します。

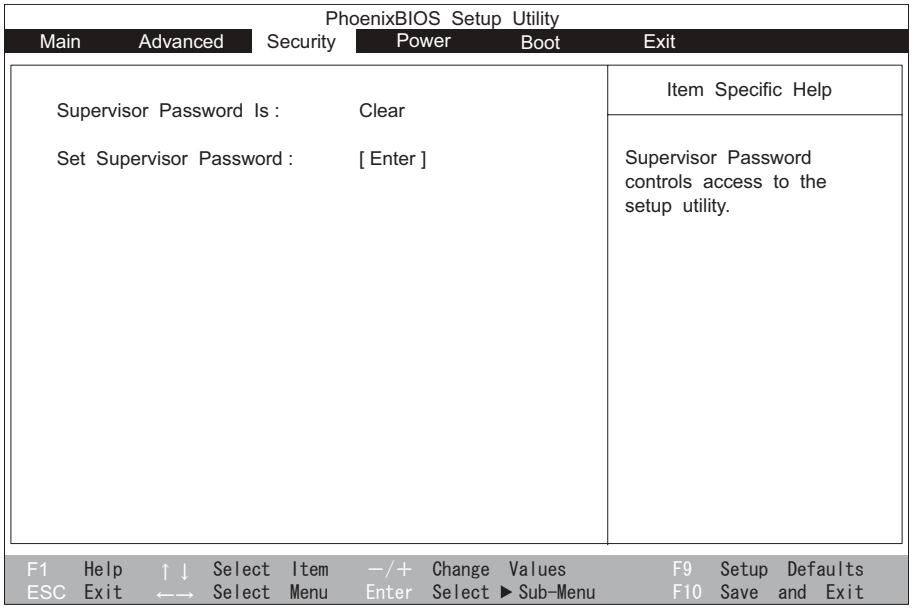
■ **Enabled**	ECC エラーのログ情報を採取します。
□ **Disabled**	ECC エラーのログ情報を採取しません。

POST Event Logging POST エラーに関するログ情報を採取するかどうかを指定します。

■ **Enabled**	POST エラーのログ情報を採取します。
□ **Disabled**	POST エラーのログ情報を採取しません。

（5） Security メニュー

Security メニューでは、システムのパスワードに関する設定を行います。



Supervisor Password Is　BIOS セットアップを起動するための管理者用パスワードの状態を表示します。

Set Supervisor Password　BIOS セットアップを起動するための管理者用パスワードを設定します。

重要

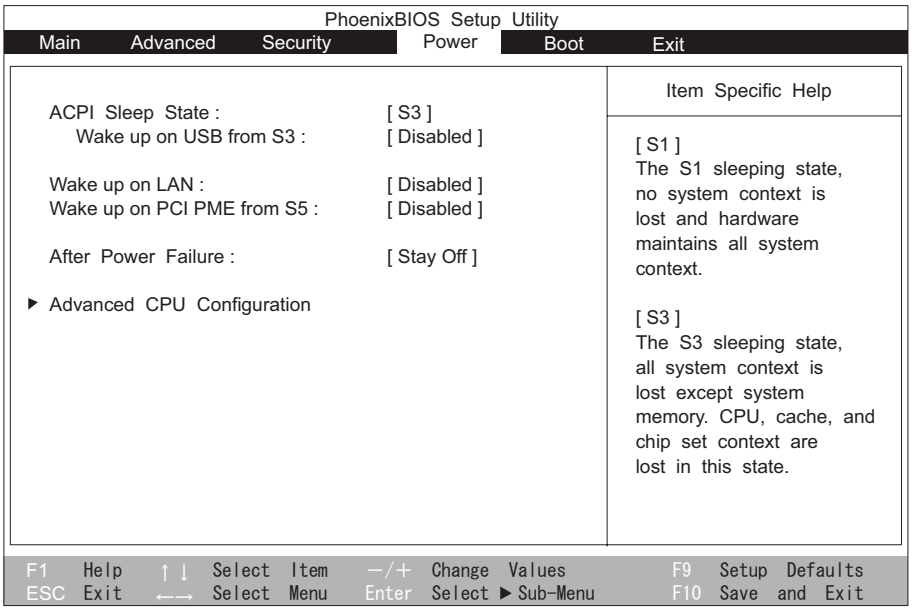
パスワードは、次のルールに従います。

- 文字数は、最小 1 文字、最大 8 文字です。
- 使用できる文字は、アルファベットと数字です。
- アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

（6） Power メニュー

Power メニューでは、電源のオン／オフに関する詳細な設定を行います。

< ↑ > ／ < ↓ > キーで項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを開きます。


PhoenixBIOS Setup Utility
Main Advanced Security Power Boot Exit
ACPI Sleep State : [S3]
Wake up on USB from S3 : [Disabled]
Wake up on LAN : [Disabled]
Wake up on PCI PME from S5 : [Disabled]
After Power Failure : [Stay Off]
▶ Advanced CPU Configuration
Item Specific Help
[S1]
The S1 sleeping state, no system context is lost and hardware maintains all system context.
[S3]
The S3 sleeping state, all system context is lost except system memory. CPU, cache, and chip set context are lost in this state.
F1 Help ↑ ↓ Select Item −/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

ACPI Sleep State

ACPI のスリープ状態として、「S1」または「S3」を指定します。

- **□ S1**　各デバイス（CPU、チップセットなど）の状態を保持したまま、スリープ状態となります。
- **■ S3**　各デバイスの状態をメモリに保存後、メモリ以外のデバイスの電源を切ります。

Wake up on USB from S3

ACPI のスリープ状態（S3）から、USB キーボードまたはマウスの操作により復帰するかどうかを指定します。

- **□ Enabled**　USB キーボード／マウス操作により復帰します。
- **■ Disabled**　USB キーボード／マウス操作では復帰しません。

Wake up on LAN

ネットワークから特別なパケットを受信したときに、ソフトオフ状態（S5）のシステムを起動するかどうかを指定します。

- **□ Enabled**　特別なパケット受信時にシステムを起動します。
- **■ Disabled**　特別なパケットを受信してもシステムを起動しません。

Wake up on PCI PME from S5

PCI バス経由で PME 信号を受信したときに、ソフトオフ状態（S5）のシステムを起動するかどうかを指定します。

- **□ Enabled**　PME 信号受信時にシステムを起動します。
- **■ Disabled**　PME 信号を受信してもシステムを起動しません。

After Power Failure　停電後に復電した場合に、システムを再起動するかどうかを指定します。

- ☐ **Power On**　復電後にシステムは再起動します。
- ■ **Stay Off**　復電後もシステムは停止した状態となります。この場合は、電源スイッチ（Power SW）を押すとシステムが起動します。

Advanced CPU Configuration　プロセッサの省電力機能の設定を行います。

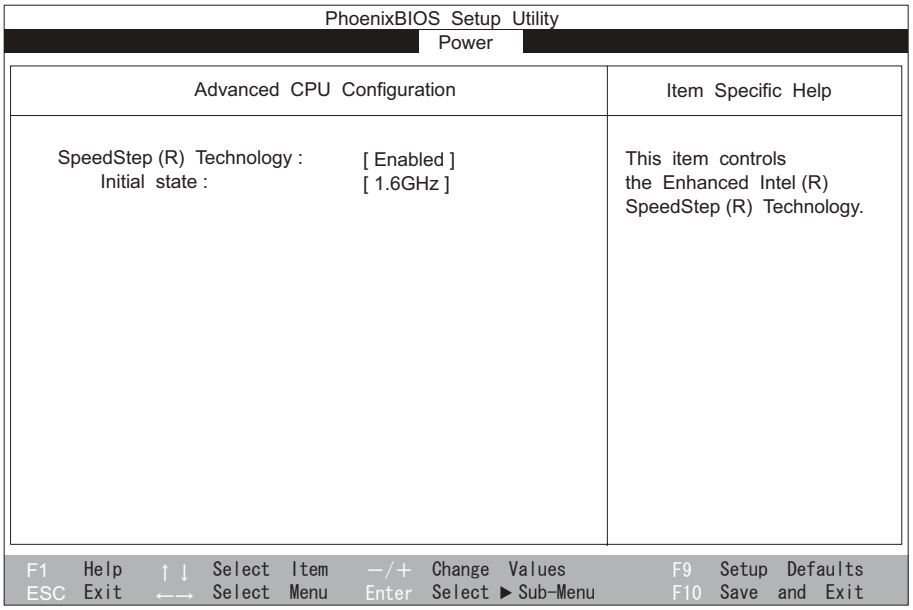
参照「(7) Power メニューのサブメニュー」(→ P.96)

（7） Power メニューのサブメニュー

ここでは、Power メニューのサブメニューについて説明します。

● Advanced CPU Configuration

CPU に関する詳細な設定を行います。


PhoenixBIOS Setup Utility
Power
Advanced CPU Configuration
Item Specific Help
SpeedStep (R) Technology : [Enabled]
Initial state : [1.6GHz]
This item controls the Enhanced Intel (R) SpeedStep (R) Technology.
F1 Help ↑ ↓ Select Item −/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

SpeedStep(R) Technology　拡張版 Intel® SpeedStep® テクノロジの使用について、設定します。

- **■ Enabled**　拡張版 Intel® SpeedStep® テクノロジを使用します。
- **□ Disabled**　拡張版 Intel® SpeedStep® テクノロジを使用しません。

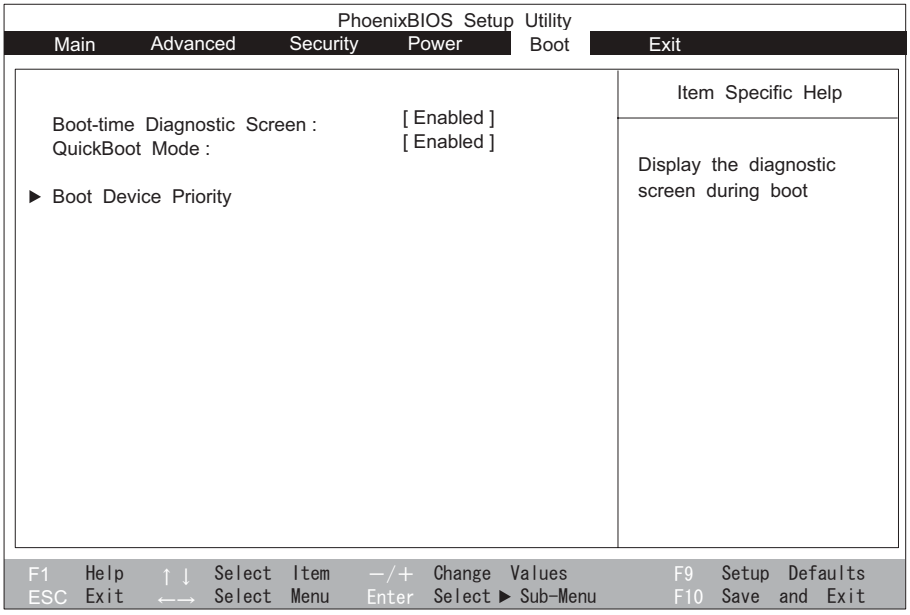
重要　本設定を「Disabled」に変更した場合、プロセッサは常に最も低い周波数（600MHz）で動作します。

Initial state　システム起動時のプロセッサの動作周波数を指定します。
搭載プロセッサの種類により、設定可能な動作周波数が異なります。
Intel® Pentium® M プロセッサ 1.6GHz を実装した場合は、次の周波数に設定できます。

■ 1.6GHz、□ 1.4GHz、□ 1.2GHz、
□ 1.0GHz、□ 800MHz、□ 600MHz

（8） Boot メニュー

Boot メニューでは、システムの起動に関する設定を行います。
＜↑＞／＜↓＞キーで項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを開きます。


PhoenixBIOS Setup Utility
Main Advanced Security Power Boot Exit
Item Specific Help
Boot-time Diagnostic Screen : [Enabled]
QuickBoot Mode : [Enabled]
▶ Boot Device Priority
Display the diagnostic screen during boot
F1 Help ↑ ↓ Select Item −/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Boot-time Diagnostic Screen

POST 時の診断画面やメッセージを表示するかどうかを指定します。

- ■ **Enabled**　POST の診断画面やメッセージを表示します。
- □ **Disabled**　POST の診断画面やメッセージを表示せずに、ロゴ（グラフィックイラスト）のみを表示します。

QuickBoot Mode

Quick ブートを行うかどうかを指定します。

- ■ **Enabled**　メモリチェックなどを簡素化し、POST 処理時間を短縮します。
- □ **Disabled**　通常の POST 処理を行います。

重要

- 起動時に CMOS チェックサムエラー（下記メッセージ）が発生した場合、Quick ブートは行われません。

```
----------------------------------------------------------------------------
System CMOS checksum bad - Default configuration used
----------------------------------------------------------------------------
```

- 起動時に CMOS チェックサムエラー以外の POST エラーが発生した場合、次回の起動時には Quick ブートは行われません。
- POST エラー発生後、一度正常に起動が完了すると、次回起動時から Quick ブートが有効になります。

Boot Device Priority　起動ドライブの優先順位の設定を行います。

参照「(9) Boot メニューのサブメニュー」(→ P.99)

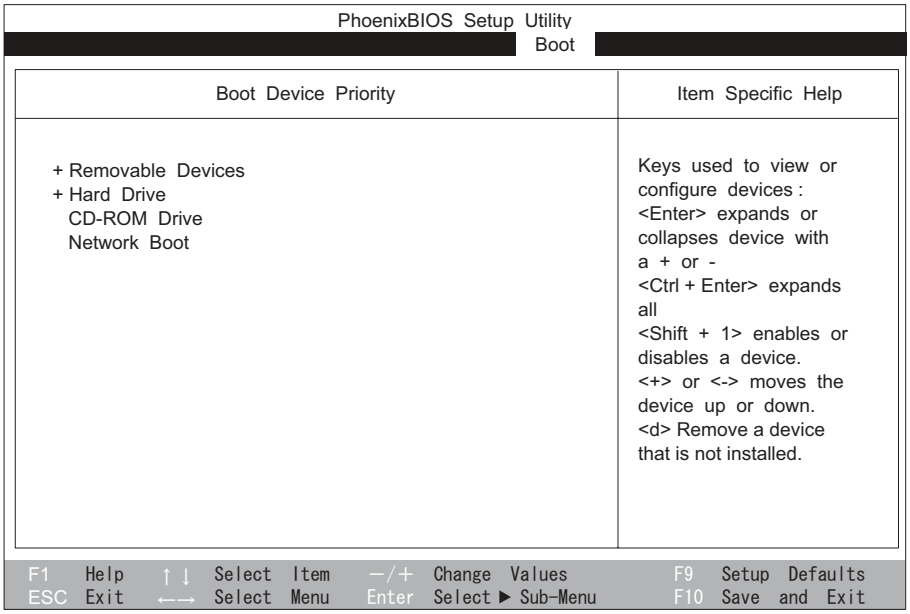
（9） Boot メニューのサブメニュー

ここでは、Boot メニューのサブメニューについて説明します。

● Boot Device Priority

起動ドライブの優先順位を設定します。次のキー入力を行うことによって、優先順位の変更およびそのドライブからのブートを有効にするか無効にするかを、設定できます。

使用するキー	意味
< ＋ >	カーソルのあるエントリを上位の優先順位にします。
< － >	カーソルのあるエントリを下位の優先順位にします。
<Shift> + <1>	そのドライブからのブートを有効にするか無効にするかを切り替えます。
<Enter>	各エントリの前に「+」がある場合は、詳細情報を表示します。 各エントリの前に「-」がある場合は、詳細情報を非表示にします。
<d>	接続されていない、ハードディスクやリムーバブルドライブを削除します。



Removable Devices

リムーバブルドライブからのブートを行います。

リムーバブルドライブとは、ドライブレターが A となるドライブのことです。フロッピーディスクや LS-120 などがこれにあたります。

対象となるドライブについては、詳細情報を表示することによって確認することができます。

Hard Drive　ハードディスクからのブートを行います。
IDE ハードディスク、SCSI ハードディスク、IDE インタフェースに準拠したデバイスなどがこれにあたります。
対象となるドライブについては、詳細情報を表示して確認することができます。

重要　ハードディスクや ATA/ATAPI インタフェース準拠のリムーバブルドライブの情報は、取り外したデバイスについても保持されます。取り外したデバイスの情報を削除する場合は、デバイスを選択の上、<d> キーを押してください。

CD-ROM Drive　ATAPI インタフェース準拠または USB 接続の CD-ROM ドライブからのブートを行います。

Network Boot　ブート機能を備えたネットワークカードを使用して、ネットワークからのブートを行います。

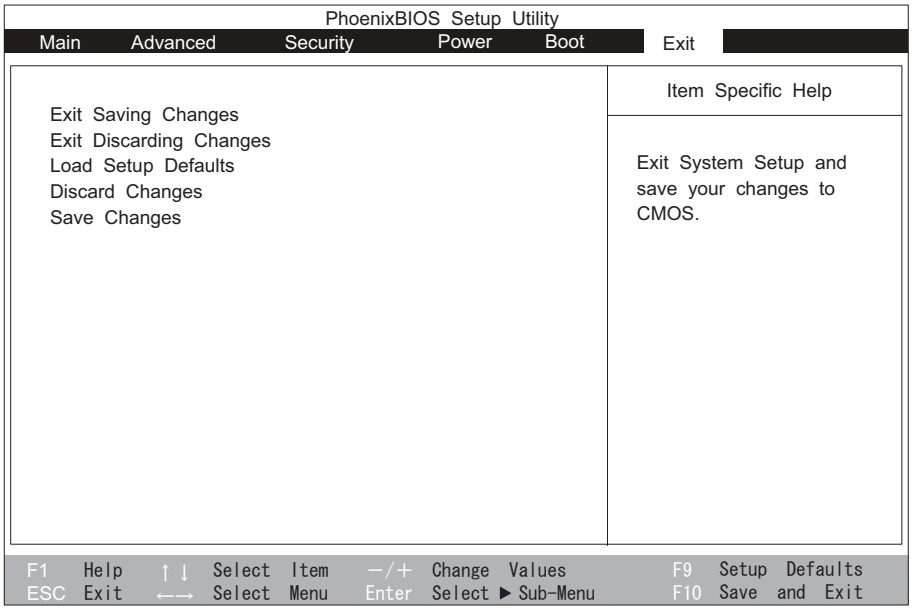
IBA FE Slot 0220 v4110　本製品に搭載された LAN コントローラ（ポート 1）を使用して、ネットワークからのブートを行います。

IBA FE Slot 0228 v4110　本製品に搭載された LAN コントローラ（ポート 2）を使用して、ネットワークからのブートを行います。

重要　上記 2 つの項目は、「● Internal Device Configuration」（→ P.88）の「LAN Controller」が「Disabled」ではなく、かつ「PXE OPROM」が「Enabled」の状態で起動した場合にのみ、表示されます。

（10） Exit メニュー

Exit メニューでは、設定を保存したり工場出荷時の設定に戻したりしてから、BIOS セットアップを終了します。



Exit Saving Changes 設定内容を CMOS RAM に保存して、BIOS セットアップを終了します。

Exit Discarding Changes 設定内容を保存せずに、BIOS セットアップを終了します。

Load Setup Defaults 設定内容を工場出荷時の設定に戻します。

Discard Changes 変更した内容を元に戻します。

Save Changes 現在の内容を CMOS RAM に保存します。

4.5 BIOS セットアップのメニュー（モデル 200E）

BIOS セットアップのメニューは、次の 6 つに分かれています。さらに、Main メニュー、Advanced メニュー、Power メニューおよび Boot メニューには、より詳細な設定を行うためのサブメニューが用意されています。

メニュー名	内　容	参照ページ
Main	日時やドライブの設定など、基本的なシステムコンフィグレーションに関する設定を行います。	103
Advanced	内蔵機器のポートアドレスやチップセットに関連した、高度な設定を行います。	109
Security	BIOS セットアップを起動する際のパスワード認証に関する設定を行います。	121
Power	省電力モードに関する設定を行います。	122
Boot	起動に関する設定を行います。	125
Exit	BIOS セットアップの終了、設定値の変更および保存を行います。	128

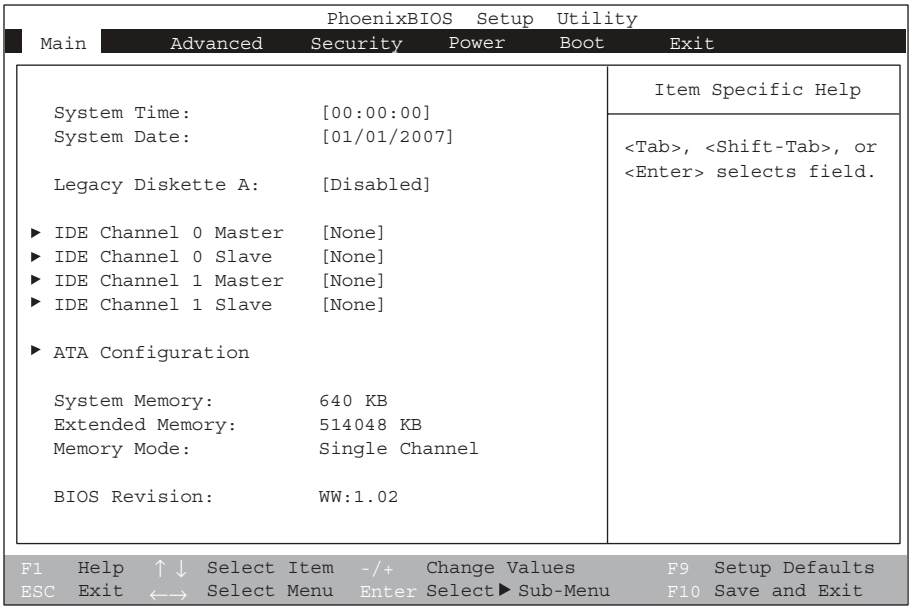
以降、各メニューの項目の詳細について説明します。

参照 操作方法については、「4.2 BIOS セットアップの操作」の「●モデル 200E の場合」（→ P.43）を参照してください。

（1） Main メニュー

Main メニューでは、基本的なシステム構成について設定／表示を行います。

＜↑＞／＜↓＞キーで項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを設定します。


PhoenixBIOS Setup Utility
Main
Advanced
Security
Power
Boot
Exit
Item Specific Help
System Time: [00:00:00]
System Date: [01/01/2007]
Legacy Diskette A: [Disabled]
▶ IDE Channel 0 Master [None]
▶ IDE Channel 0 Slave [None]
▶ IDE Channel 1 Master [None]
▶ IDE Channel 1 Slave [None]
▶ ATA Configuration
System Memory: 640 KB
Extended Memory: 514048 KB
Memory Mode: Single Channel
BIOS Revision: WW:1.02
<Tab>, <Shift-Tab>, or <Enter> selects field.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

System Time
時：分：秒を設定します。<Tab> キーまたは <Enter> キーで次のフィールドにカーソルを移動して、数値を入力します。

System Date
月／日／年（西暦）を設定します。<Tab> キーまたは <Enter> キーで次のフィールドにカーソルを移動して、数値を入力します。

Legacy Diskette A
フロッピーディスクドライブ A の使用について、設定します。使用可能なフロッピーディスクドライブは、3.5 インチ 1.44MB のみです。

- ■ **Disabled**　フロッピーディスクドライブを使用しません。
- □ **1.44MB 3 1/2"**　3.5 インチ 1.44MB ドライブを使用します。

IDE Channel 0 Master
IDE Channel 0 Slave
IDE Channel 1 Master
IDE Channel 1 Slave
IDE チャネルの設定をします。

ATA Configuration
シリアル ATA およびパラレル ATA の設定をします。

参照 「（2）Main メニューのサブメニュー」（→ P.105）

System Memory 基本メモリ容量が表示されます。この項目は、POST 時に自動的に検出されます。変更はできません。

Extended Memory 拡張メモリ容量が表示されます。この項目は、POST 時に自動的に検出されます。変更はできません。

Memory Mode メモリのアクセスモードが表示されます。変更はできません。

- **Dual Channel Interleaved** 同容量のメモリを 2 枚実装していることを示します。メモリのアクセス効率が最も優れているモードです。
- **Dual Channel Asymmetric** 異なる容量のメモリを 2 枚実装していることを示します。
- **Single Channel** メモリを 1 枚のみ実装していることを示します。

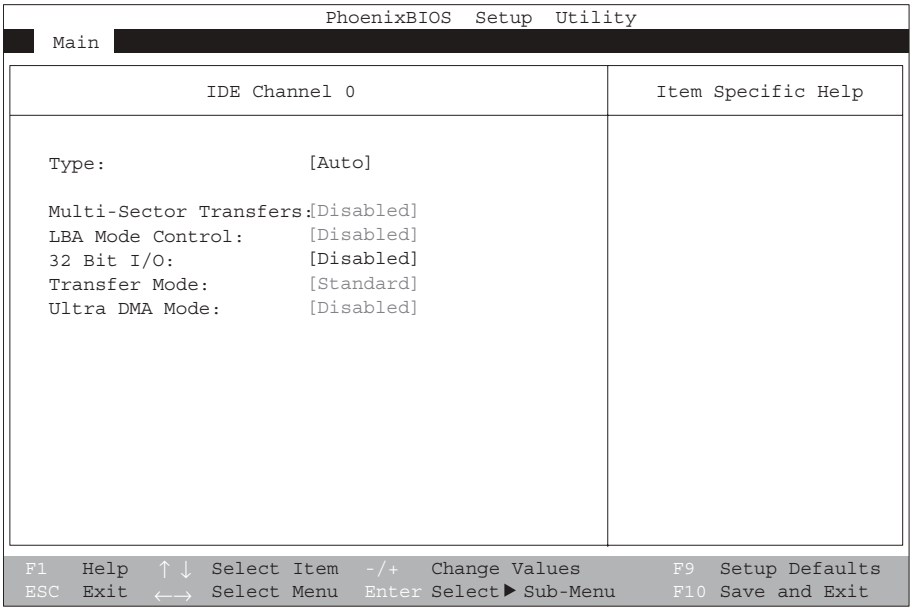
BIOS Revision BIOS の版数が表示されます。変更はできません。

（2） Main メニューのサブメニュー

ここでは、Main メニューのサブメニューについて説明します。

● IDE チャネル詳細設定

各ドライブ（チャネル 0 マスター、チャネル 0 スレーブ、チャネル 1 マスター、チャネル 1 スレーブ）のハードディスクタイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。



この画面では、BIOS で認識したハードディスクの LBA（論理ブロックアドレッシング）での総セクタ数とハードディスク容量を表示します。8.4GB 以下のハードディスクについては、シリンダ数、ヘッド数、およびセクタ数とハードディスク容量を、併せて表示します。

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Type　IDE ドライブの接続の有無や、各パラメタを設定します。

- **■ Auto**　自動的にハードディスクの接続の有無やタイプを設定します。ハードディスクが接続されている場合、各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数など）は、ハードディスクの情報に従って自動的に設定されます。
- **□ None**　ハードディスクを未接続とします。
- **□ CD-ROM**　CD-ROM（IDE）ドライブを接続します。
- **□ ATAPI Removable**　ATAPI リムーバブルデバイスを接続します。
- **□ User**　各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数など）を直接指定します。

重要 当該 IDE チャネルをシリアル ATA として使用する場合、「Type」に「Auto」と「None」以外は設定できません。

Multi-Sector Transfers 複数のセクタのデータを、一括して転送するかどうかを設定します。「Type」に「CD-ROM」、「ATAPI Removable」または「User」を指定した場合に設定できます。

- ☐ **Disabled** 1 セクタずつ転送します。
- ☐ **2 Sectors ～ 16 Sectors** 一括して転送するセクタ数を選択します。数値が大きくなるほどデータの転送速度は上がりますが、一括転送の効果が現れるセクタ数は、ドライブのキャッシュ容量に左右されます。

LBA Mode Control LBA（論理ブロックアドレッシング）モードの使用について、設定します。「Type」に「CD-ROM」、「ATAPI Removable」または「User」を指定した場合に設定できます。

- ☐ **Disabled** LBA モードを使用しません。
- ☐ **Enabled** LBA モードを使用します。「Enabled」に設定する場合は、LBA モードに対応したドライブが必要です。

32 Bit I/O 内蔵 IDE コントローラと CPU の間で 32 ビット転送を行うかどうかを設定します。「Type」に「Auto」、「CD-ROM」、「ATAPI Removable」または「User」を指定した場合に設定できます。

- ■ **Disabled** 32 ビット転送を行いません。
- ☐ **Enabled** 32 ビット転送を行います。

Transfer Mode データの転送モードを設定します。「Type」に「CD-ROM」、「ATAPI Removable」または「User」を指定した場合に設定できます。

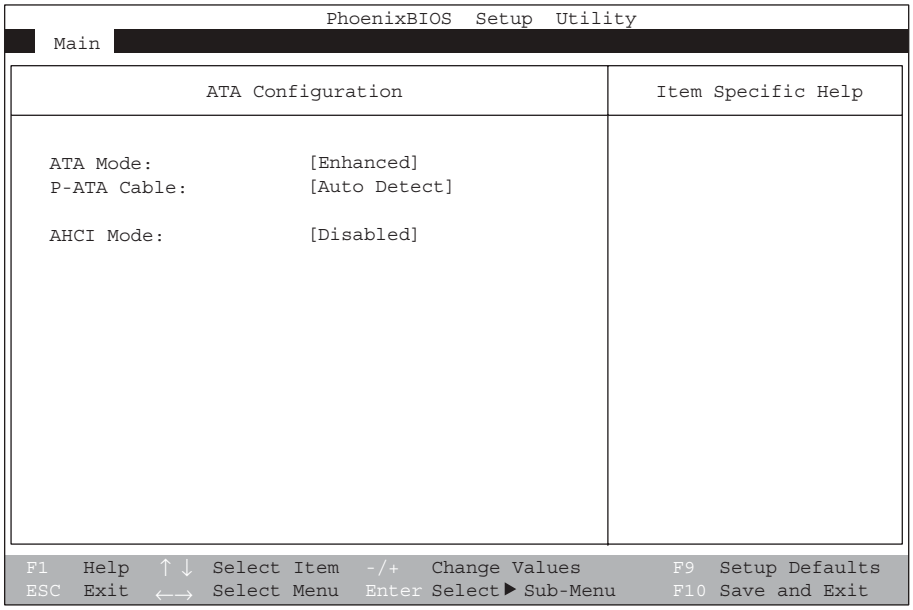
各モードの設定では数値が大きくなるほど転送速度が上がりますが、設定した各モードに対応したドライブが必要です。

- ☐ **Standard** PIO Mode 0 に設定します。
- ☐ **Fast PIO 1 ～ Fast PIO 4** Fast PIO Mode 1 ～ Fast PIO Mode 4 のいずれかを選択します。
- ☐ **FPIO 3/DMA 1** Fast PIO Mode 3 または DMA Mode 1 を使用します。
- ☐ **FPIO 4/DMA 2** Fast PIO Mode 4 または DMA Mode 2 を使用します。

Ultra DMA Mode Ultra DMA モードの使用について設定します。「Type」に「CD-ROM」、「ATAPI Removable」または「User」を指定した場合に設定できます。

- ☐ **Disabled** Ultra DMA モードを使用しません。
- ☐ **Mode 0 ～ Mode 5** Ultra DMA の転送モードを選択します。Ultra DMA モードを設定する場合は、Ultra DMA モードに対応したドライブが必要です。

● ATA Configuration


PhoenixBIOS Setup Utility
Main
ATA Configuration
Item Specific Help
ATA Mode: [Enhanced]
P-ATA Cable: [Auto Detect]
AHCI Mode: [Disabled]
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

シリアル ATA とパラレル ATA を設定します。

□：設定項目　**■**：工場出荷設定値

ATA Mode　シリアル ATA とパラレル ATA の動作モードを設定します。

- **□ Disabled**　ATA を使用しません。
- **□ P-ATA Only**　パラレル ATA のみ使用します。
- **□ S-ATA Only**　シリアル ATA のみ使用します。
- **□ Combined**　パラレル ATA とシリアル ATA を混在して使用します。
- **■ Enhanced**　パラレル ATA とシリアル ATA を混在して使用します。シリアル ATA は Native モードで動作します。

P-ATA Cable　パラレル ATA のケーブルの種類を設定します。

- **■ Auto Detect**　ケーブルの種類を自動判別します。
- **□ 80-Wire**　80 ピンのケーブルを使用します。
- **□ 40-Wire**　40 ピンのケーブルを使用します。

重要

- IDE デバイス側の仕様により、IDE80 芯ケーブルを使用していても、そのケーブルの自動判別ができない場合があります。
- IDE チャネル詳細設定（「(2) Main メニューのサブメニュー」(→ P.105)）内の Type が「Auto」であるときの Ultra DMA Mode が、そのデバイスで対応可能なもっとも高い転送モードであることを確認してください。
- もし、もっとも高い転送モードになっていない場合、本メニューで「80-Wire」に変更後、再起動すると転送モードが変更される場合があります。

S-ATA Mode ATA Mode が「S-ATA Only」である場合のシリアル ATA の動作モードを設定します。

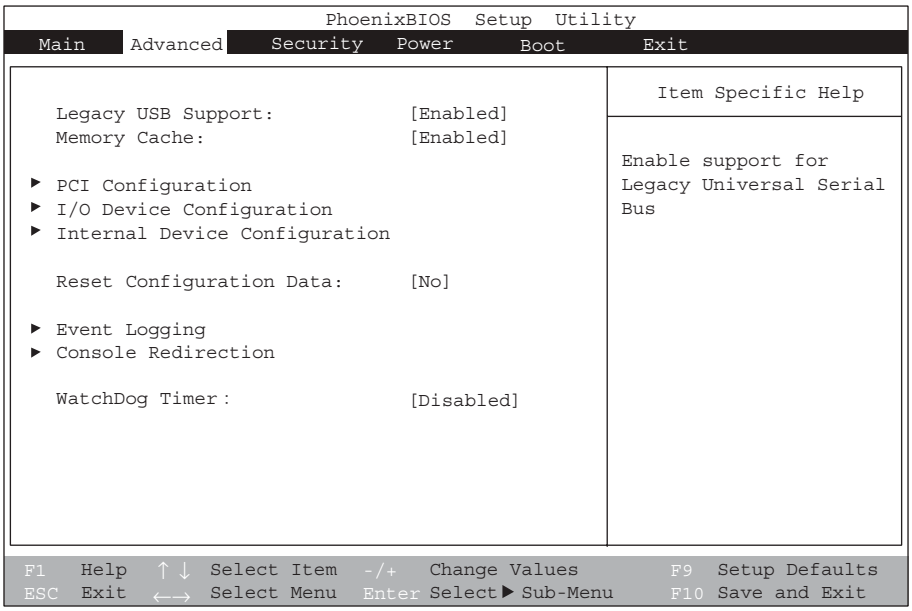
- □ **Legacy** Legacy モードで動作します。
- ■ **Native** Native モードで動作します。

AHCI Mode AHCI（Advanced Host Controller Interface）をサポートするかどうかを設定します。

- ■ **Disabled** AHCI を使用しません。
- □ **Enabled** AHCI を使用します。

（3） Advanced メニュー

Advanced メニューでは、本製品に搭載されたデバイスについて詳細な設定を行います。
＜↑＞／＜↓＞キーで項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを開きます。


PhoenixBIOS Setup Utility
Main Advanced Security Power Boot Exit
Item Specific Help
Legacy USB Support: [Enabled]
Memory Cache: [Enabled]
Enable support for Legacy Universal Serial Bus
▶ PCI Configuration
▶ I/O Device Configuration
▶ Internal Device Configuration
Reset Configuration Data: [No]
▶ Event Logging
▶ Console Redirection
WatchDog Timer : [Disabled]
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select▶Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　**■**：工場出荷設定値

Legacy USB Support　USB をサポートしていない OS での、USB キーボードや USB マウスの使用について設定します。

- **■ Enabled**　レガシー USB サポートを有効にします。
- **□ Disabled**　レガシー USB サポートを無効にします。

重要　USB ストレージデバイス（USB フロッピーディスクドライブ、USB CD-ROM ドライブ）を起動ドライブの対象にする場合は、この設定を 「Enabled」にする必要があります。

Memory Cache　2 次キャッシュ（L2 キャッシュ）の使用について、設定します。

- **□ Disabled**　L2 キャッシュを使用しません。
- **■ Enabled**　L2 キャッシュを使用します。

PCI Configuration　外部 PCI スロットに対する資源の割り当ての設定を行います。

参照　「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● PCI Configuration」（→ P.111）

I/O Device Configuration　内蔵機器の、I/O ポートアドレスや割り込みレベルの設定などを行います。

参照　「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● I/O Device Configuration」（→ P.113）

Internal Device Configuration 内蔵デバイスに関する設定を行います。

参照 「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● Internal Device Configuration」（→ P.115）

Reset Configuration Data ESCD（Extended System Configuration Data）領域のデータ初期化を指定します。「Yes」に変更後、再起動すると、データが初期化されます。PCI カードなどのコンフリクトを原因とする起動エラー（Invalid System Configuration Data）が発生した場合、本機能により解決できる場合があります。

重要 本項目の設定値は、データ初期化を実行後、自動的に「No」へ戻ります。

Event Logging イベントログ機能の設定を行います。

参照 「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● Event Logging」（→ P.118）

Console Redirection コンソールリダイレクションの設定を行います。

参照 「(4) Advanced メニューのサブメニュー」の「● Console Redirection」（→ P.119）

WatchDog Timer WatchDog Timer の動作について設定します。

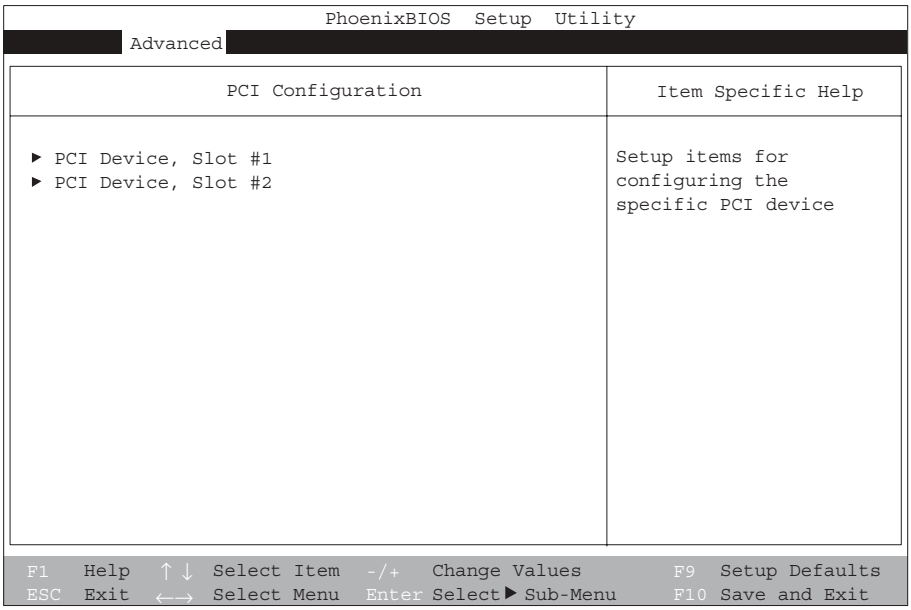
- ■ **Disabled** WatchDog Timer をスタートしません。
- □ **Enabled** 起動時に WatchDog Timer をスタートします。

（4） Advanced メニューのサブメニュー

ここでは、Advanced メニューのサブメニューについて説明します。

● PCI Configuration

PCI スロットに関する設定を行います。


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
PCI Configuration
Item Specific Help
▶ PCI Device, Slot #1
▶ PCI Device, Slot #2
Setup items for configuring the specific PCI device
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select▶Sub-Menu F10 Save and Exit

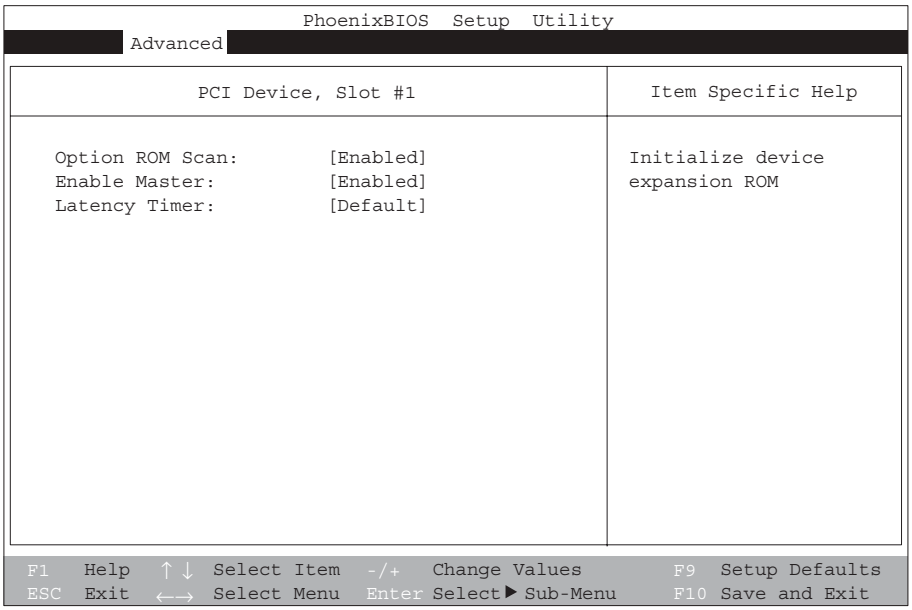
PCI Device, Slot #n　PCI デバイスまたは PCI スロット #1 ～ #2 のコンフィグレーションを行います。

参照 「● PCI Configuration のサブメニュー」の「PCI Device, Slot #n」（→ P.112）

● PCI Configuration のサブメニュー

PCI Configuration のサブメニューについて説明します。

PCI Device, Slot #n


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
PCI Device, Slot #1
Item Specific Help
Option ROM Scan: [Enabled]
Enable Master: [Enabled]
Latency Timer: [Default]
Initialize device expansion ROM
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Option ROM Scan　PCI デバイスに搭載されているオプション ROM をスキャンするかどうかを指定します。

- ■ **Enabled**　スキャンします。
- □ **Disabled**　スキャンしません。

Enable Master　接続されているデバイスを PCI バスマスターデバイスとして使用するかどうかを指定します。

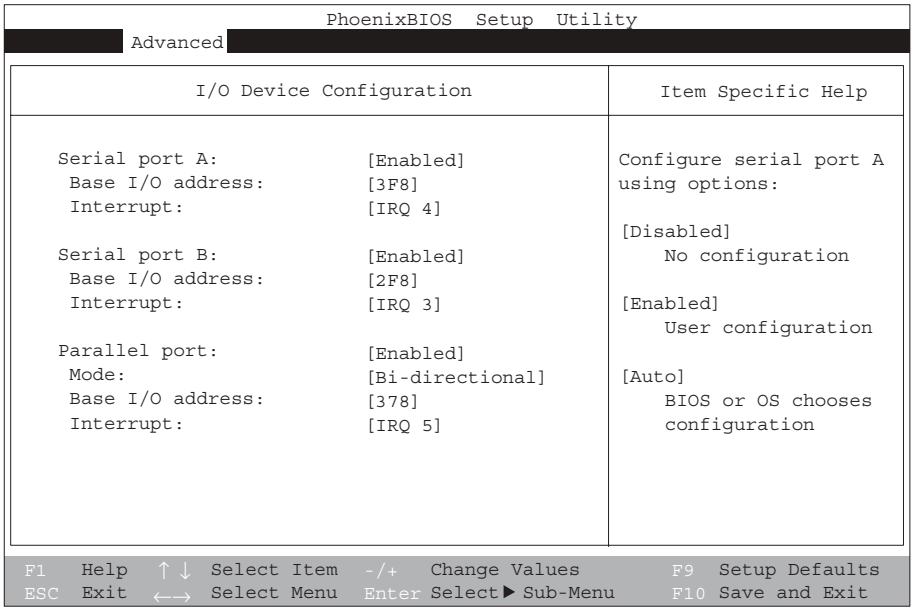
- ■ **Enabled**　バスマスターデバイスとして使用します。
- □ **Disabled**　バスマスターデバイスとして使用しません。

Latency Timer　バスマスターデバイスとして使用する場合の PCI バスの使用優先度を指定します。

- ■ **Default**　標準の優先度とします。
- □ **0020h ~ 00E0h**　優先度を PCI バスクロック数で指定します。高速なデバイスに対して大きな値を指定すると、高い性能が得られます。

● I/O Device Configuration

内蔵機器の I/O ポートアドレスや割り込みレベルの設定などを行います。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

Serial port A
Serial port B

内蔵シリアルポート A（または B）の I/O ポートアドレスおよび IRQ（割り込みレベル）を指定します。

■ Enabled シリアルポート A（または B）を使用します。本設定値を選択した場合は、次の詳細設定項目が表示されます。

Base I/O address I/O ポートアドレスを次の 4 種類から選択します。

- **■ 3F8（Sirial port A）**
- **■ 2F8（Sirial port B）**
- **□ 3E8**
- **□ 2E8**

Interrupt 割り込みレベルを次の 2 種類から選択します。

- **■ IRQ 4（Sirial port A）**
- **■ IRQ 3（Sirial port B）**

□ Auto シリアルポート A（または B）を使用します。
I/O ポートアドレスおよび割り込みレベルは自動的に設定されます。

□ Disabled シリアルポート A（または B）を使用しません。

Parallel port 内蔵パラレルポートの動作モード、I/O ポートアドレスおよび IRQ（割り込みレベル）を指定します。

■ **Enabled** パラレルポートを使用します。本設定値を選択した場合は、次の詳細設定項目が表示されます。

Mode パラレルポートの動作モードを指定します。

■ **Bi-directional**
双方向モードで動作します。

□ **ECP**
ECP モードで動作します。

□ **EPP**
EPP モードで動作します。

□ **Output only**
単方向モードで動作します。

Base I/O address I/O ポートアドレスを次の 2 種類から選択します。

□ **278**、■ **378**

Interrupt 割り込みレベルを次の 2 種類から選択します。

■ **IRQ 5**、□ **IRQ 7**

DMA channel DMA チャネルを指定します。動作モードに ECP を指定した場合にのみ設定できます。

□ **DMA 1**
DMA チャネル 1 を使用します。

□ **DMA 3**
DMA チャネル 3 を使用します。

□ **Auto** パラレルポートを使用し、動作モードのみを選択します。I/O ポートアドレス、割り込みレベルおよび DMA チャネルは自動的に設定されます。

Mode パラレルポートの動作モードを指定します。

□ **Bi-directional**
双方向モードで動作します。

□ **ECP**
ECP モードで動作します。

□ **EPP**
EPP モードで動作します。

□ **Output only**
単方向モードで動作します。

□ **Disabled** パラレルポートを使用しません。

重要

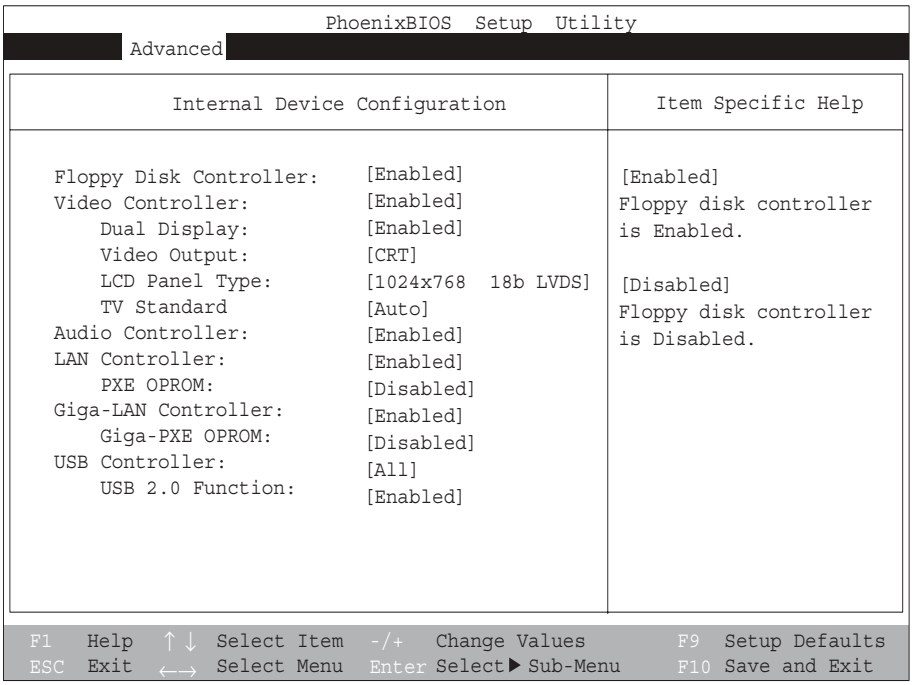
シリアルポートおよびパラレルポートの設定を「Auto」にして使用する場合、PCI デバイスに対する各リソース（I/O ポートアドレスや割り込みレベル）の割り当てが優先されます。

その結果、シリアルポートやパラレルポートに割り当て可能なリソースが不足することにより、シリアルポートやパラレルポートが無効に設定される場合があります。

このため、シリアルポートやパラレルポートを優先して使用する場合は、「Auto」ではなく「Enabled」に設定してください。

● Internal Device Configuration

各コントローラについて設定を行います。



□：設定項目　■：工場出荷設定値

Floppy Disk Controller

本製品内のフロッピーディスクコントローラの使用について、設定します。

- ■ **Enabled**　フロッピーディスクコントローラを使用します。
- □ **Disabled**　フロッピーディスクコントローラを使用しません。

Video Controller

本製品内のビデオコントローラの使用について、設定します。

- ■ **Enabled**　ビデオコントローラを使用します。
- □ **Disabled**　ビデオコントローラを使用しません。

重要

本項目の設定値が 「Disabled」の場合、次に説明する Dual Display、Video Output、LCD Panel Type、TV Standard、Minor Standard、Video Connector、および TV/HDTV Preferencers は、設定画面に表示されません。

Dual Display　デュアルディスプレイ機能の使用について、設定します。

■ **Enabled**　デュアルディスプレイ機能を使用します。

☐ **Disabled**　デュアルディスプレイ機能を使用しません。

Video Output　Video の出力先を指定します。

☐ **VBIOS Default**　ビデオ BIOS のデフォルト設定に従います。

■ **CRT**　CRT のみ表示します。

☐ **LVDS**　LVDS のみ表示します。

☐ **TV**　TV のみに表示します。

☐ **DVI**　DVI のみに表示します。

☐ **CRT + DVI**　CRT と DVI を同時に表示します。

重要　本設定は、Windows® XP 、および Windows® 2000 でディスプレイドライバを使用する場合には無効です。これらの OS では、ディスプレイドライバの設定で出力先を指定します。

LCD Panel Type　LVDS 接続の LCD パネルの種類を指定します。

☐ **VBIOS Default**	1024 × 768	18bit LVDS 方式
☐ **640x480 18b LVDS**	640 × 480	18bit LVDS 方式
☐ **800x600 18b LVDS**	800 × 600	18bit LVDS 方式
■ **1024x768 18b LVDS**	1024 × 768	18bit LVDS 方式

TV Standard　TV の出力形式を指定します。設定可能な値は、次の表を参照してください。

Minor Standard　各 TV 出力形式の詳細を指定します。設定可能な値は、次の表を参照してください。

TV Standard	Minor Standard
Auto	—
NTSC	NTSC_M, NTSC_M_J, NTSC_443
PAL	PAL_B, PAL_G, PAL_D, PAL_H, PAL_I, PAL_M, PAL_N, PAL_60
SECAM	SECAM_L, SECAM_L1, SECAM_B, SECAM_D, SECAM_G, SECAM_H, SECAM_K, SECAM_K1
SMPTE240M	1080i59, 1080i60
SMPTE260M	1080i59, 1080i60
SMPTE274M	1080i50, 1080i59, 1080i60, 1080p23, 1080p24, 1080p25, 1080p29, 1080p30, 1080p50, 1080p59, 1080p60
SMPTE295M	1080i50, 1080p50
SMPTE296M	720p59, 720p60, 720p50
SMPTE293M	480p59
SMPTE170M	480p59
ITURBT601	576i50, 576p50

重要　本項目の設定値が 「Auto」の場合、Minor Standard は、設定画面に表示されません。

備考 Minor Standard の設定値 「1080i59」などにおいて "i"、"p" はスキャン方式を表し、それぞれ 「インターレース方式」、「プログレッシブ方式」に該当します。"i"、"p" の前後の数値は「有効走査線数」と「フレーム周波数」です。

Audio Controller 本体内の Intel® ハイ・デフィニション・オーディオコントローラを使用するかどうかを指定します。

- ■ **Enabled** Intel® ハイ・デフィニション・オーディオコントローラを使用します。
- □ **Disabled** Intel® ハイ・デフィニション・オーディオコントローラを使用しません。

LAN Controller 本体内の LAN コントローラを使用するかどうかを指定します。

- ■ **Enabled** LAN コントローラを使用します。
- □ **Disabled** LAN コントローラを使用しません。

重要 本項目の設定値が 「Disabled」の場合、次に説明する PXE OPROM は、設定画面上に表示されません。

PXE OPROM 本体内の PXE オプション ROM 機能を使用するかどうかを指定します。

- □ **Enabled** PXE オプション ROM 機能を使用します。
- ■ **Disabled** PXE オプション ROM 機能を使用しません。

Giga-LAN Controller 本体内の Giga-LAN コントローラを使用するかどうかを指定します。

- ■ **Enabled** Giga-LAN コントローラを使用します。
- □ **Disabled** Giga-LAN コントローラをを使用しません。

重要 本項目の設定値が 「Disabled」の場合、次に説明する Giga-PXE OPROM は設定画面上に表示されません。

Giga-PXE OPROM 本体内の Giga-PXE オプション ROM 機能を使用するかどうかを指定します。

- □ **Enabled** Giga-PXE オプション ROM 機能を使用します。
- ■ **Disabled** Giga-PXE オプション ROM 機能を使用しません。

USB Controller 本体内の USB コントローラを使用するかどうかを指定します。

- ■ **All** すべての USB ポート（0 ～ 7）を使用します。
- □ **6 Port** USB ポート 0、1、2、3、4、5 のみ使用します。
- □ **4 Port** USB ポート 0、1、2、3 のみ使用します。
- □ **2 Port** USB ポート 0、1 のみ使用します。
- □ **Disabled** すべての USB ポートを使用しません。

重要 本項目の設定値が 「Disabled」の場合、次に説明する USB 2.0 Function は設定画面上に表示されません。

USB 2.0 Function

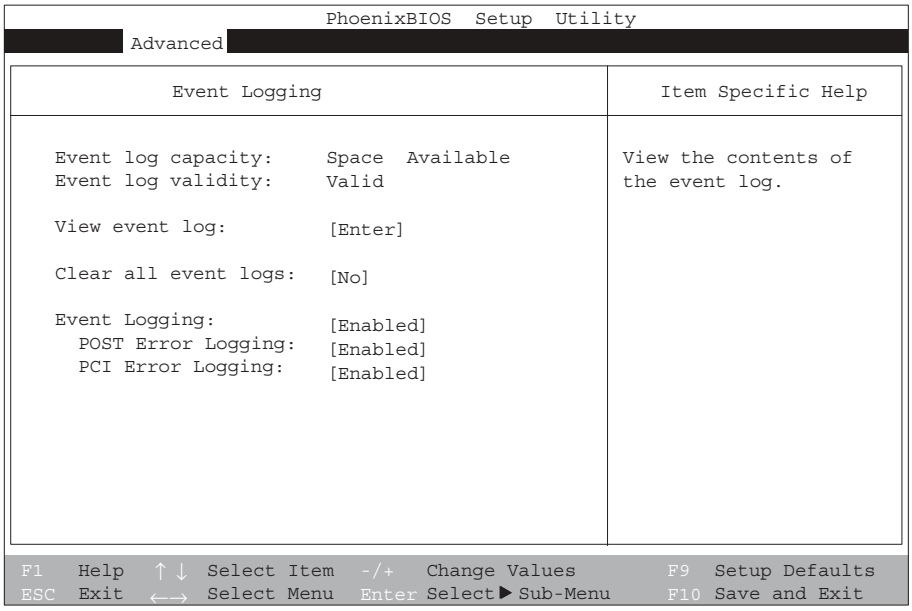
USB 2.0 機能を使用するかどうかを指定します。

■ **Enabled** USB 2.0 機能を使用します。

□ **Disabled** USB 2.0 機能を使用しません。

● Event Logging

イベントログ機能に関する設定などを行います。


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
Event Logging
Item Specific Help
Event log capacity: Space Available
Event log validity: Valid
View event log: [Enter]
Clear all event logs: [No]
Event Logging: [Enabled]
POST Error Logging: [Enabled]
PCI Error Logging: [Enabled]
View the contents of the event log.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select▶Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目 ■：工場出荷設定値

Event Log Capacity

現在のイベントログ領域の状態を表示します。本設定は選択できません。

■ **Space Available** イベントログ領域に保存できます。

□ **Full** イベントログ領域に空きがないため、保存できません。

重要

イベントログ領域の全体サイズは固定であり、保存可能なログ情報の数は最大127 個です。

Event Log Capacity 欄に 「Full」と表示された場合は、イベントログ領域に空きがないことを示しています。以後のイベントログを採取する場合は、本設定画面内の Clear All Event Logs の値を「Yes」に設定し、ログ情報を消去してください。

Event Log Validity

現在のイベントログ領域の内容が有効かどうかを表示します。本設定は選択できません。

■ **Valid** イベントログ領域の内容が有効です。

□ **Not Valid** イベントログ領域の内容が無効です。

View Event Log

ログ情報の内容を表示します。<Enter> キーを押すと、採取されているログ情報が画面に表示されます。

Clear All Event Logs ログ情報を消去する場合に使用します。

- ■ **No** ログ情報の内容を保持します。
- ☐ **Yes** ログ情報を消去する場合に指定します。BIOS セットアップ を終了して再起動するタイミングで、ログ情報の消去が行われます。本設定の内容は、再起動後「No」に戻ります。

Event Logging イベントログ機能の使用について設定します。

- ■ **Enabled** イベントログ機能を使用します。
- ☐ **Disabled** イベントログ機能を使用しません。この場合、本設定画面には、POST Error Logging および PCI Error Logging の項目は表示されません。

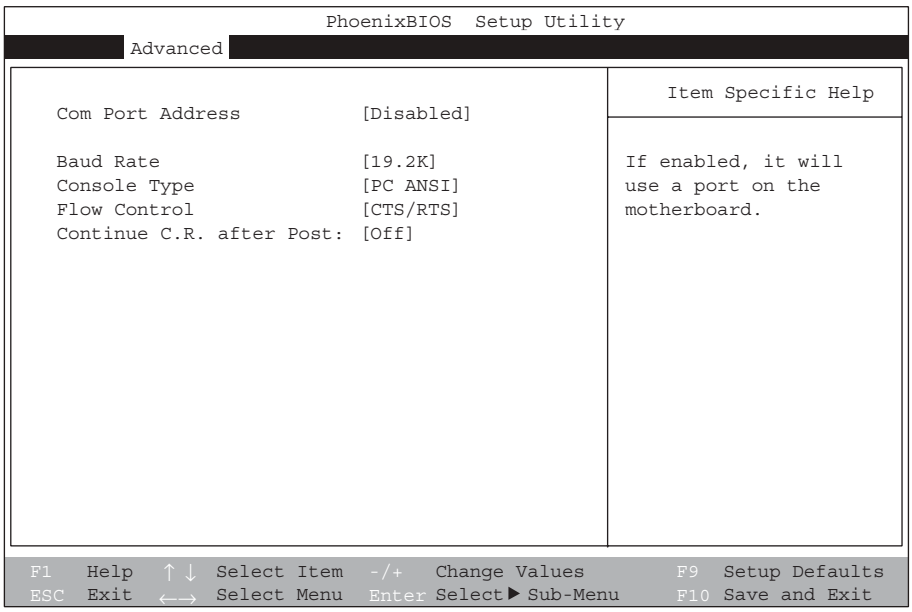
POST Error Logging POST 中に発生したエラーを記録するかどうかを指定します。

- ■ **Enabled** POST エラーのログ情報を採取します。
- ☐ **Disabled** POST エラーのログ情報を採取しません。

PCI Error Logging PCI デバイスで発生したエラーを記録するかどうかを指定します。

- ■ **Enabled** PCI エラーのログ情報を採取します。
- ☐ **Disabled** PCI エラーのログ情報を採取しません。

● Console Redirection


PhoenixBIOS Setup Utility
Advanced
Item Specific Help
Com Port Address [Disabled]
Baud Rate [19.2K]
Console Type [PC ANSI]
Flow Control [CTS/RTS]
Continue C.R. after Post: [Off]
If enabled, it will use a port on the motherboard.
F1 Help ↑ ↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Com Port Address　コンソールリダイレクションを使用するかどうかを設定します。使用する場合は、使用するシリアルポートを設定します。

- ■ **Disabled**　コンソールリダイレクションを使用しません。
- □ **COM Port A**　シリアルポート A でコンソールリダイレクションを使用します。
- □ **COM Port B**　シリアルポート B でコンソールリダイレクションを使用します。

重要　コンソールリダイレクションを使用する場合、ロゴスクリーンは表示されません。

Baud Rate　コンソールリダイレクションで使用するボーレートを、300bps から 115.2Kbps の間で設定します。

Console Type　使用するクライアントソフトウェアのコンソールの種類を設定します。

- ■ **PC ANSI**　PC ANSI を使用します。
- □ **VT100**　VT100 を使用します。

Flow Control　シリアルポートで使用する Flow control を設定します。

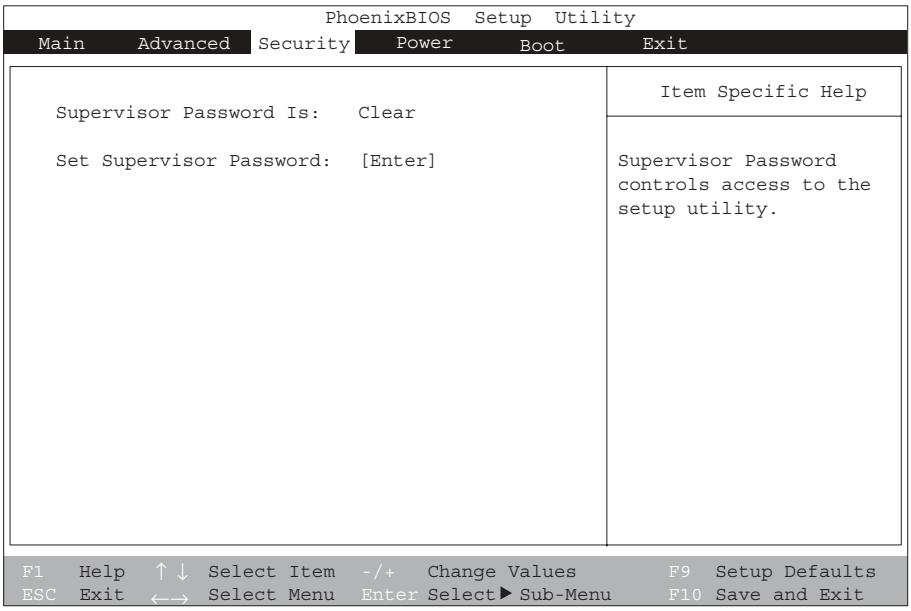
- □ **None**　Flow control を使用しません。
- □ **XON/XOFF**　ソフトウェアで Flow control を制御します。
- ■ **CTS/RTS**　ハードウェアで Flow control を制御します。

Continue C.R. after Post　POST 完了後にコンソールリダイレクションを使用するかどうかを設定します。

- ■ **Off**　POST 完了後はコンソールリダイレクションを使用しません。
- □ **On**　POST 完了後もコンソールリダイレクションを使用します。

（5） Security メニュー

Security メニューでは、システムのパスワードに関する設定を行います。


PhoenixBIOS Setup Utility
Main Advanced Security Power Boot Exit
Supervisor Password Is: Clear
Set Supervisor Password: [Enter]
Item Specific Help
Supervisor Password controls access to the setup utility.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

Supervisor Password Is BIOS セットアップを起動するための管理者用パスワードの状態を表示します。

Set Supervisor Password BIOS セットアップを起動するための管理者用パスワードを設定します。

重要

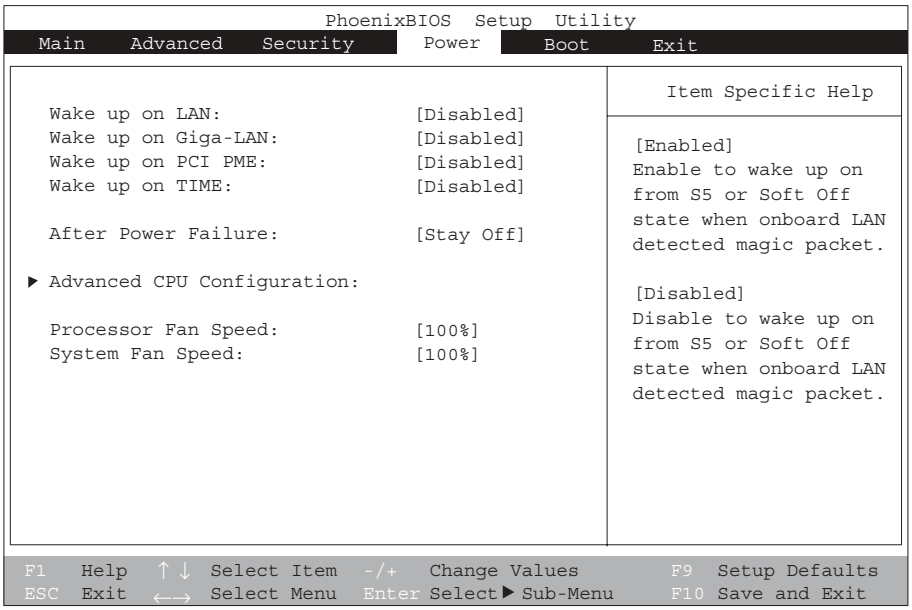
パスワードは次のルールに従います。

- 文字数は、最小 1 文字、最大 8 文字です。
- 使用できる文字は、アルファベットと数字です。
- アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

（6） Power メニュー

Power メニューでは、電源のオン／オフに関する詳細な設定を行います。

< ↑ > ／ < ↓ > キーで項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを開きます。



□：設定項目　**■**：工場出荷設定値

Wake up on LAN

ネットワークから特別なパケットを受信したときに、ACPI の S5 状態またはソフトオフ状態のシステムを起動するかどうかを指定します。

- **□ Enabled**　特別なパケット受信時にシステムを起動します。
- **■ Disabled**　特別なパケットを受信してもシステムを起動しません。

Wake up on Giga-LAN

ネットワーク（Giga-LAN）から特別なパケットを受信したときに、ACPI の S5 状態またはソフトオフ状態のシステムを起動するかどうかを指定します。

- **□ Enabled**　特別なパケット受信時にシステムを起動します。
- **■ Disabled**　特別なパケットを受信してもシステムを起動しません。

Wake up on PCI PME

PCI バス経由で PME 信号を受信したときに、ACPI の S5 状態またはソフトオフ状態のシステムを起動するかどうかを指定します。

- **□ Enabled**　PME 信号受信時にシステムを起動します。
- **■ Disabled**　PME 信号を受信してもシステムを起動しません。

Wake up on Time

指定時刻に ACPI の S5 状態またはソフトオフ状態のシステムを起動するかどうかを指定します。

- **□ Enabled**　指定時刻にシステムを起動します。
- **■ Disabled**　指定時刻にシステムを起動しません。

重要 本項目の設定値が 「Disabled」の場合、次に説明する Wake up Time は設定画面上に表示されません。

Wake up Time システム起動時刻を設定します。<Tab> キーまたは <Enter> キーで次のフィールドにカーソルを移動して、数値を入力します。

After Power Failure 停電後に復電した場合に、システムを再起動するかどうかを指定します。

- ☐ **Power On** 復電後にシステムは再起動します。
- ■ **Stay Off** 復電後もシステムは停止した状態となります。この場合は、パワースイッチ（Power SW）を押すとシステムが起動します。
- ☐ **Last State** 停電前の状態に戻ります。

Advanced CPU Configuration プロセッサの省電力機能の設定を行います。

参照 「(7) Power メニューのサブメニュー」(→ P.124)

Processor Fan Speed FAN0 コネクタに接続されたプロセッサ・ファンの回転速度を選択します。

- ☐ **25%** Duty 比 25% でファンを回転させます。
- ☐ **50%** Duty 比 50% でファンを回転させます。
- ☐ **75%** Duty 比 75% でファンを回転させます。
- ■ **100%** フルスピードでファンを回転させます。

System Fan Speed FAN1 ～ FAN3 コネクタに接続されたシステム・ファンの回転速度を選択します。

- ☐ **25%** Duty 比 25% でファンを回転させます。
- ☐ **50%** Duty 比 50% でファンを回転させます。
- ☐ **75%** Duty 比 75% でファンを回転させます。
- ■ **100%** フルスピードでファンを回転させます。

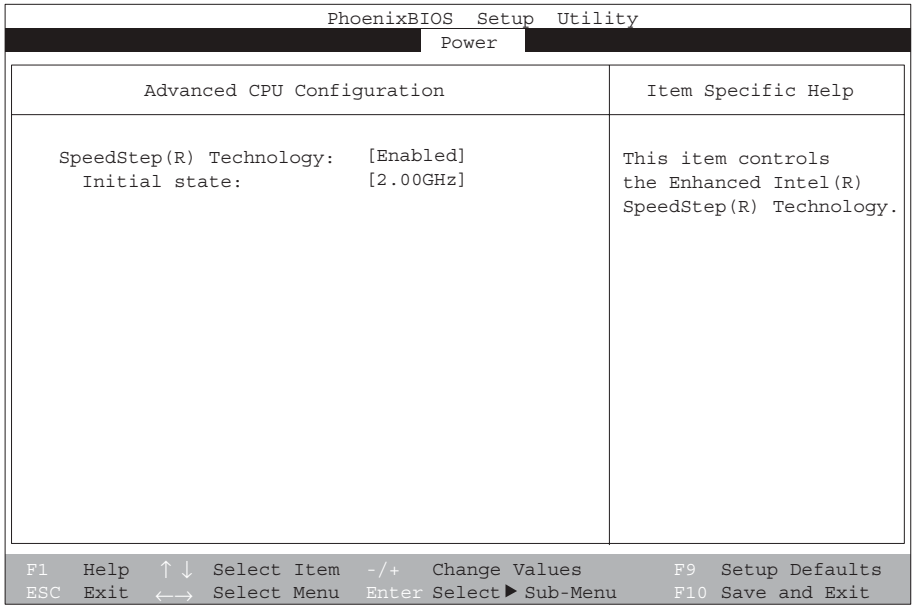
重要 本製品はパルス幅変調（PWM）方式によりファンの回転速度を制御しています。本設定は、このパルス幅変調の Duty 比を指定するものであり、実際のファンの回転数比率を指定するものではありません。

（7） Power メニューのサブメニュー

ここでは、Power メニューのサブメニューについて説明します。

● Advanced CPU Configuration

CPU に関する詳細な設定を行います。


PhoenixBIOS Setup Utility
Power
Advanced CPU Configuration
Item Specific Help
SpeedStep(R) Technology: [Enabled]
Initial state: [2.00GHz]
This item controls the Enhanced Intel(R) SpeedStep(R) Technology.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select▶Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

SpeedStep(R) Technology　拡張版 Intel® SpeedStep® テクノロジの使用について、設定します。

■ Enabled　拡張版 Intel® SpeedStep® テクノロジを使用します。

□ Disabled　拡張版 Intel® SpeedStep® テクノロジを使用しません。

重要

- 本設定を「Disabled」に変更した場合、プロセッサは常に最も低い周波数で動作します。例えば、Intel® Pentium® M プロセッサ 760 を取り付けた場合は、800MHz で動作します。
- Intel® Celeron® M プロセッサを取り付けた場合は、本設定は「Disabled」固定（変更不可）となり、その CPU がサポートする動作周波数で動作します。

Initial state　システム起動時のプロセッサの動作周波数を指定します。
搭載プロセッサの種類により、設定可能な動作周波数が異なります。
例えば、Intel® Pentium® M プロセッサ 760 を取り付けた場合は、次の周波数に設定できます。

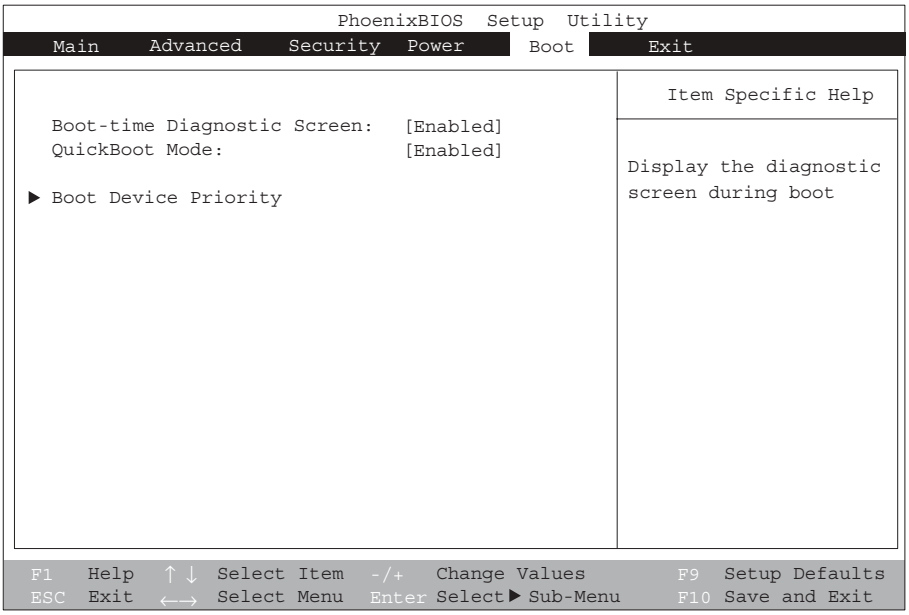
■ 2.00GHz、□ 1.60GHz、□ 1.33GHz、□ 1.06GHz、□ 800MHz

重要　Intel® Celeron® M プロセッサを取り付けた場合は、本設定項目は表示されません。

（8） Boot メニュー

Boot メニューでは、システムの起動に関する設定を行います。

< ↑ > ／ < ↓ > キーで項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを開きます。


PhoenixBIOS Setup Utility
Main Advanced Security Power Boot Exit
Item Specific Help
Boot-time Diagnostic Screen: [Enabled]
QuickBoot Mode: [Enabled]
▶ Boot Device Priority
Display the diagnostic screen during boot
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

□：設定項目　■：工場出荷設定値

Boot-time Diagnostic Screen

POST 時の診断画面やメッセージを表示するかどうかを指定します。

- ■ **Enabled**　POST の診断画面やメッセージを表示します。
- □ **Disabled**　POST の診断画面やメッセージを表示せずに、ロゴ（グラフィックイラスト）のみを表示します。

QuickBoot Mode

Quick ブートを行うかどうかを指定します。

- ■ **Enabled**　メモリチェックなどを簡素化し、POST 処理時間を短縮します。
- □ **Disabled**　通常の POST 処理を行います。

重要

- 起動時に CMOS チェックサムエラー（下記メッセージ）が発生した場合、Quick ブートは行われません。

```
----------------------------------------------------------------------------
System CMOS checksum bad - Default configuration used
----------------------------------------------------------------------------
```

- 起動時に CMOS チェックサムエラー以外の POST エラーが発生した場合、次回の起動時には Quick ブートは行われません。
- POST エラー発生後、一度正常に起動が完了すると、次回起動時から Quick ブートが有効になります。

Boot Device Priority

起動ドライブの優先順位の設定を行います。

参照

「（9）Boot メニューのサブメニュー」（→ P.126）

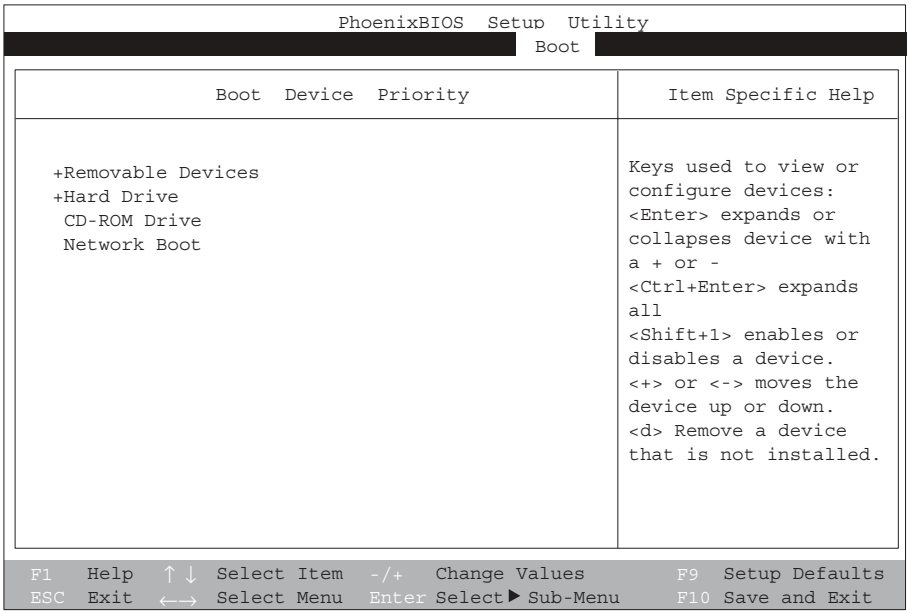
（9） Boot メニューのサブメニュー

ここでは、Boot メニューのサブメニューについて説明します。

● Boot Device Priority

起動ドライブの優先順位を設定します。次のキー入力を行うことによって、優先順位の変更およびそのドライブからのブートを有効にするか無効にするかを、設定できます。

使用するキー	意味
< ＋ >	カーソルのあるエントリを上位の優先順位にします。
< － >	カーソルのあるエントリを下位の優先順位にします。
<Shift> + <1>	そのドライブからのブートを有効にするか無効にするかを切り替えます。
<Enter>	各エントリの前に「+」がある場合は、詳細情報を表示します。 各エントリの前に「-」がある場合は、詳細情報を非表示にします。
<d>	接続されていない、ハードディスクやリムーバブルドライブを削除します。



Removable Devices

リムーバブルドライブからのブートを行います。

リムーバブルドライブとは、ドライブレターが A となるドライブのことです。フロッピーディスクや LS-120 などがこれにあたります。

対象となるドライブについては、詳細情報を表示することによって確認することができます。

Hard Drive ハードディスクからのブートを行います。
IDE ハードディスク、SCSI ハードディスク、IDE インタフェースに準拠したデバイスなどがこれにあたります。
対象となるドライブについては、詳細情報を表示して確認することができます。

重要

- ハードディスクや ATA/ATAPI インタフェース準拠のリムーバブルドライブの情報は、取り外したデバイスについても保持されます。取り外したデバイスの情報を削除する場合は、デバイスを選択の上、<d> キーを押してください。
- ATA Configuration 設定の ATA Mode を変更した場合、ドライブのチャネル割り当てが変更されるため、Hard Drive の優先順位は初期化されます。

CD-ROM Drive ATAPI インタフェース準拠または USB 接続の CD-ROM ドライブからのブートを行います。

Network Boot ブート機能を備えたネットワークカードを使用して、ネットワークからのブートを行います。

IBA FE Slot 0640 v4116 本製品に搭載された LAN コントローラを使用して、ネットワークからのブートを行います。

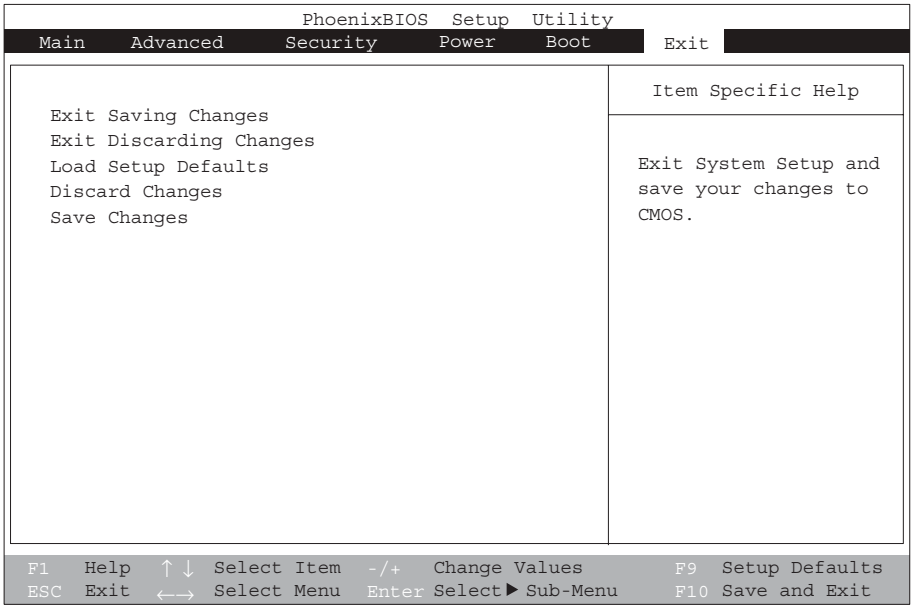
重要 この項目は、「● Internal Device Configuration」（→ P.115）の PXE OPROM が「Enabled」の状態で起動した場合にのみ表示されます。

IBA GE Slot 0630 v1226 本製品に搭載された Giga-LAN コントローラを使用して、ネットワークからのブートを行います。

重要 この項目は、「● Internal Device Configuration」（→ P.115）の Giga-PXE OPROM が「Enabled」の状態で起動した場合にのみ表示されます。

（10） Exit メニュー

Exit メニューでは、設定を保存したり工場出荷時の設定に戻したりしてから、BIOS セットアップを終了します。


PhoenixBIOS Setup Utility
Main Advanced Security Power Boot Exit
Exit Saving Changes
Exit Discarding Changes
Load Setup Defaults
Discard Changes
Save Changes
Item Specific Help
Exit System Setup and save your changes to CMOS.
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
ESC Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

Exit Saving Changes 設定内容を CMOS RAM に保存して、BIOS セットアップを終了します。

Exit Discarding Changes 設定内容を保存せずに、BIOS セットアップを終了します。

Load Setup Defaults 設定内容を工場出荷時の設定に戻します。

Discard Changes 変更した内容を元に戻します。

Save Changes 現在の内容を CMOS RAM に保存します。

第 5 章 困ったときには

この章では、本製品を使用していてトラブルが発生した場合の対処方法について、説明します。
原因の特定ができない場合や現象が解消されない場合は、担当営業員に連絡してください。以下に、発生すると考えられる代表的なトラブルについて説明します。状況整理時の参考にしてください。

5.1 起動時の動作に関するトラブル

本製品の起動時には、以下のようなトラブルが発生する場合があります。

（1） 電源が入らない

【現象】電源スイッチを押しても電源が入らない。
【原因】以下のどれかの原因が考えられます。

- ケーブルが抜けている、または断線している。
  →ケーブルが正しく接続されているかを確認してください。
  断線している場合は、ケーブルの交換が必要です。担当営業員に連絡してください。
- UPS 装置を使用しているが UPS 装置の電源が入っていない、またはバッテリの残量がない。
  → UPS 装置の電源を入れる、またはバッテリの残量を確認してください。
  UPS 装置のバッテリ残量が少ない場合、バッテリの交換が必要になる場合があります。UPS 装置の購入元に連絡してください。なお、UPS 装置の起動状態およびバッテリ残量の確認方法については、UPS 装置の取扱説明書を参照してください。
- UPS 装置と接続しているときに、UPS 装置のオフボタンを押した。
  → UPS 装置のオン／テストボタンを押して、UPS 装置の電源を入れてください。
- 本体装置の故障などのハードウェア障害が発生した。
  →担当営業員に連絡してください。

（2） 起動時にメッセージが表示される

【現象】POST 時に BIOS メッセージが表示されて OS が起動しない。
【対処】「付録 B　BIOS メッセージ」（→ P.135）を参照してください。

5.2 営業員に連絡するときは

どうしても故障の原因がわからないときは、担当営業員に連絡してください。
なお、OS またはアプリケーションに関するトラブルについては、お客様にて対処をお願いいたします。

（1） 確認事項

事前に次のことを確認して、営業員に伝えられるようにしておいてください。

- 本製品の型名
- 本製品に取り付けているオプションの種類
- BIOS セットアップでの工場出荷設定値からの変更箇所
- ご使用の OS
- 現象（何をしているときに何が起きたか、画面に表示されたメッセージなど）
- 本製品の設置環境
- 各種ランプの状態
- BIOS Event Log
- Ultra POST の実行結果（モデル 200E 除く）
- System Monitor 実行時には、以下の情報
    - System Monitor Log
    - BIOS Event Log
    - 温度監視情報
    - 電圧値監視情報
    - ファン回転数監視情報
    - 通報メッセージ

（2） 修理対象期間

修理対象期間は納品日（顧客検収時）から起算し 5 年間です。

納品日が分からない場合は、本装置の製造年月（装置銘板で確認が可能です）から起算し 5 年間とします。

本製品を修理依頼する場合は、お客様で搭載したユニットなどは取り外して故障の再現確認を実施後、修理依頼を行ってください。
なお、ハードディスクなど格納されているデータについては保証できませんので、お客様自身でバックアップをとるなどの処置を行ってください。

付録 A 仕様

A.1 製品仕様

本製品の仕様は以下のとおりです。

モデル 200/210（RoHS 未対応）

項目		概要	
品名		エンベデッドコンピュータ AR8200 シリーズ	
タイプ		モデル 200（RoHS 未対応）	モデル 210（RoHS 未対応）
型名		PD-AR8HP4S	PD-AR8HPMS
CPU （必須オプション）		インテル® Celeron® プロセッサ 2.0GHz / 128KB ／ インテル® Pentium® 4 プロセッサ 2.4GHz / 512KB ／ インテル® Pentium® 4 プロセッサ 2.8GHz / 512KB	インテル® Celeron® M プロセッサ 320（1.3GHz / 512KB）／ インテル® Pentium M プロセッサ 1.6GHz / 1MB ／ インテル® Pentium M プロセッサ 745（1.8GHz / 2MB）
チップセット		インテル® 845E チップセット	インテル® 855GME チップセット
FSB		533MHz/400MHz	400MHz
メモリ （必須オプション）		DDR DIMM Unbuffered ECC 機能あり／なし 標準：256MB/512MB 最大：1GB（512MB × 2）	
表示制御	グラフィック コントローラー	—	Built in Chipset （VRAM はメインメモリ使用）
	CRT 最大解像度及び表示色	—	1,600 × 1,200 ドット /1,677 万色
ハードディスク （必須オプション）		3.5 インチ IDE ハードディスク（ATA100） 40GB/80GB から選択（最大 2 台搭載可）	
光学ドライブ		薄型 24 倍速 CD-ROM（標準搭載）	
フロッピーディスクドライブ		薄型フロッピーディスクドライブ（オプション）	

項目		概要	
インターフェース	LAN	10/100BASE-TX × 1	10/100BASE-TX × 2
	シリアル	RS-232C（D-SUB 9 ピン）× 1	
	パラレル	IEEE1284（D-SUB 25 ピン）× 1	
	キーボード／マウス	PS2（DIN 6 ピン）×各 1	
	USB	USB2.0 × 6（前面× 2、背面× 4）	
	VGA	—	D-SUB 15 ピン× 1
	CF	—（*1）	
	オーディオ	ラインイン× 1、ラインアウト× 1、マイクイン× 1	
拡張インターフェース	AGP スロット	1 スロット ※ロープロファイルカードのみ	
	PCI スロット	2 スロット（32bit/33MHz） うち 1 スロットはロングカード搭載可（FDD なし、HDD × 1 の場合）	
設置環境温度		5 ～ 40 ℃	
外形寸法 （横幅×奥行き×高さ）		100 × 348 × 342（mm）（台足含まず）	
質量		8.5kg	
電源		AC100-240V（50/60Hz）	
消費電力		1.80A	1.17A
RAS 機能		CPU 温度監視、ファン監視、電圧監視、HDD 監視（S.M.A.R.T.） （専用ソフトウェアによる状態表示、異常通知）	
対応 OS		Microsoft® Windows® XP Professional operating system	Microsoft® Windows® XP Professional operating system （オプション搭載可）
		Microsoft® Windows® XP Embedded operating system Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system Red Hat® Enterprise Linux® V3 / V4（*2）	

*1）カスタマイズ対応で搭載可能

*2）Linux を使用される際には、一度弊社営業までご連絡ください。

モデル 210/200E（RoHS 対応）

項目		概要	
品名		エンベデッドコンピュータ AR8200 シリーズ	
タイプ		モデル 210（RoHS 対応）	モデル 200E（RoHS 対応）
型名		PD-AR8HPMSR	PD-AR8HPMSP
CPU （必須オプション）		インテル® Celeron® M プロセッサ 320（1.3GHz / 512KB）／インテル® Pentium® M プロセッサ 1.6GHz / 1MB ／インテル® Pentium® M プロセッサ 745（1.8GHz / 2MB）	インテル® Celeron® M プロセッサ 370（1.5GHz / 1MB）／インテル® Pentium® M プロセッサ 760（2.0GHz / 2MB）
チップセット		インテル® 855GME チップセット	インテル® 915GM チップセット
FSB		400MHz	533MHz/400MHz
メモリ （必須オプション）		DDR DIMM Unbuffered ECC 機能あり／なし 標準：256MB / 512MB/1GB 最大：2GB（1GB × 2）	DDR2 DIMM Unbuffered ECC 機能なし 標準：512MB/1GB 最大：2GB（1GB × 2）
表示制御	グラフィック コントローラー	Built in Chipset （VRAM はメインメモリ使用）	
	CRT 最大解像度及び表示色	1,600 × 1,200 ドット /1,677 万色	
ハードディスク （必須オプション）		（標準構成）3.5 インチ IDE ハードディスク（ATA100） 80GB / 160GB から選択 （最大 2 台搭載可）	（標準構成）3.5 インチ SATA ハードディスク 80GB / 160GB から選択 （最大 2 台搭載可）
		（RAID 構成） 3.5 インチ SATA ハードディスク 80GB / 160GB から選択 （SATA RAID カードを使用して RAID1 を構築）	
光学ドライブ		薄型 24 倍速 CD-ROM（標準搭載） 薄型 CD-RW/DVD-ROM（オプション）	
フロッピーディスク ドライブ		薄型（オプション）	

項目		概要	
インターフェース	LAN	10/100BASE-TX × 2（標準） LAN カードオプション搭載により、10/100/1000BASE-T を最大 2 個まで増設可能	10/100BASE-TX × 1、10/100/1000BASE-T × 1（標準） 10/100/1000BASE-T × 2（オプション）LAN カードオプション搭載により、10/100/1000BASE-T を最大 3 個まで増設可能
	シリアル	RS-232C（D-SUB 9 ピン）× 1 RS-232C ブラケットオプション搭載により、1 個増設可能（*2）	
	パラレル	IEEE1284（D-SUB 25 ピン）× 1	
	キーボード／マウス	PS2（DIN 6 ピン）×各 1	
	USB	USB2.0 × 6（前面× 2、背面× 4）	
	VGA	D-SUB 15 ピン× 1	
	CF	―（*1）	
	オーディオ	ラインイン× 1、ラインアウト× 1、マイクイン× 1	
拡張インターフェース	AGP スロット	1 スロット ※ロープロファイルカードのみ	―
	PCI スロット	2 スロット（32bit/33MHz） うち 1 スロットはロングカード搭載可（FDD なし、HDD × 1 の場合）	
設置環境温度		5 ～ 40 ℃	
外形寸法 （横幅×奥行き×高さ）		100 × 348 × 342（mm）（台足含まず）	
質量		8.5kg	
電源		AC100-240V（50/60Hz）	
消費電力		1.17A	1.30A
RAS 機能		CPU 温度監視、ファン監視、電圧監視、HDD 監視（S.M.A.R.T.） （専用ソフトウェアによる状態表示、異常通知）	
対応 OS		Microsoft® Windows® XP Professional operating system（オプション搭載可） Microsoft® Windows® XP Embedded operating system Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system Red Hat® Enterprise Linux® V3 / V4（*3）	

*1）カスタマイズ対応で搭載可能

*2）モデル 200E に RS-232C ブラケットオプションを搭載する場合、HDD を増設することはできません。

*3）Linux を使用される際には、一度弊社営業までご連絡ください。

付録 B BIOS メッセージ

POST 時に表示される BIOS メッセージとその意味について示します。

メッセージ	意味
0200: Failure Fixed Disk	ハードディスクが不良です。
0210: Stuck Key	キーボードの操作エラー（Stuck Key）です。
0211: Keyboard error	キーボードのエラーです。
0212: Keyboard Controller Failed	キーボードコントローラのエラーです。
0213: Keyboard locked - Unlock key switch	キーボードがロック状態です。キースイッチのロックを解除してください。
0220: Monitor type does not match CMOS - Run SETUP	モニタのタイプが CMOS と一致しません。BIOS セットアップをやり直してください。
0230: System RAM Failed at offset: nnnn	システム RAM のメモリエラーです。
0231: Shadow Ram Failed at offset: nnnn	シャドウ RAM のメモリエラーです。
0232: Extended RAM Failed at address line: nnnn	拡張 RAM のメモリエラーです。
0250: System battery is dead - Replace and run SETUP	バックアップバッテリの消耗です。弊社の担当営業員までご連絡ください。
0251: System CMOS checksum bad - Default configuration used	CMOS RAM の内容が異常です。一部デフォルトの設定で起動します。
0260: System timer error	システムタイマのエラーです。
0270: Real time clock error	RTC のエラーです。
0271: Check date and time settings	日付と時刻の設定を確認してください。
0280: Previous boot incomplete - Default configuration used	前回、正常に起動できなかったので、一部デフォルトの設定で起動します。
0281: Memory Size found by POST differed from EISA CMOS	POST で検出されたメモリサイズが EISA CMOS の内容と一致しませんでした。
02B0: Diskette drive A error	フロッピーディスク（A ドライブ）のエラーです。
02B1: Diskette drive B error	フロッピーディスク（B ドライブ）のエラーです。
02B2: Incorrect Drive A type - run SETUP	フロッピーディスク（A ドライブ）の種別が正しくありません。BIOS セットアップをやり直してください。
02B3: Incorrect Drive B type - run SETUP	フロッピーディスク（B ドライブ）の種別が正しくありません。BIOS セットアップをやり直してください。
02D0: System cache error - Cache disabled	システムキャッシュのエラーです。キャッシュは使用できません。
xxxx Address Conflict	複数の I/O のアドレスがコンフリクトしています。
Allocation Error for xxxx	xxxx に表示されたデバイスによって、リソースのアロケーションエラーが発生しました。
CD ROM Drive	CD-ROM ドライブが識別されました。
Entering SETUP ...	SETUP を起動中です。
Failing Bits: xxxx	xxxx で示したアドレスでメモリテスト fail が発生しました。

メッセージ	意味
Fixed Disk n	n 番目（0 ～ 3）のディスクが検出されました。
Invalid System Configuration Data	システム設定値が正しくありません。
I/O device IRQ conflict	複数の I/O の IRQ がコンフリクトしています。
Keyboard Detected	キーボードが検出されました。
Mouse initialized	マウスが初期化されました。
nnnn M Extended RAM Passed	拡張 RAM のテストが終了しました。
nnnn Cache SRAM Passed	キャッシュ SRAM のテストが終了しました。
nnnn KB Shadow RAM Passed	シャドウ RAM のテストが終了しました。
nnnn KB System RAM Passed	システム RAM のテストが終了しました。
Operating system not found	OS が格納されているデバイスが見つかりません。ドライブが正しく設定されているか確認してください。
Parity Check 1 nnnn	nnnn で示されるシステムバス上でパリティエラーが発生しました。
Parity Check 2 nnnn	nnnn で示される I/O バス上でパリティエラーが発生しました。
Press <F1> to resume, <F2> to Setup, <F3> for previous	POST 時にエラーが発生すると表示されます。<F1> キーを押すと OS、<F2> キーを押すと BIOS セットアップ、<F3> キーを押すと拡張 BIOS 上の Setup Utility が起動されます。
Press <F1> to resume, <F2> to Setup	POST 時にエラーが発生すると表示されます。<F1> キーを押すと OS、<F2> キーを押すと BIOS セットアップが起動されます。
Press <F1> to resume, <F3> for previous	POST 時にエラーが発生すると表示されます。<F1> キーを押すと OS、<F3> キーを押すと拡張 BIOS 上の Setup Utility が起動されます。
Press <F1> to resume	<F1> キーを押すと OS が起動されます。
Press <F2> to enter Setup	<F2> キーを押すと BIOS セットアップが起動されます。
System BIOS shadowed	システム BIOS をシャドウしました。
Video BIOS shadowed	ビデオ BIOS をシャドウしました。
Single-bit ECC error occurred.	メモリ ECC エラー（シングルビット）が発生しました。
Multiple-bit ECC error occurred.	メモリ ECC エラー（マルチビット）が発生しました。

付録 C BIOS 設定シート

C.1 モデル 200

以下に、BIOS セットアップの各項目と設定値の一覧を示します。

各メニューのマークは、次を意味します。

□：設定項目　■：工場出荷設定値

重要 CMOS のバックアップバッテリが切れた場合、BIOS SETUP の設定が工場出荷設定値に戻ります。

Main メニュー

項目	設定値
System Time	時：分：秒を設定
System Date	月／日／年（西暦）を設定
Legacy Diskette A	■ Disabled　□ 1.44MB 3 1/2"
Primary Master	
Type	■ Auto　□ None　□ CD-ROM　□ Other ATAPI　□ User
Multi-Sector Transfers	□ Disabled　■ 16 Sectors　□ 8 Sectors　□ 4 Sectors　□ 2 Sectors
LBA Mode Control	□ Disabled　■ Enabled
32 Bit I/O	■ Disabled　□ Enabled
Transfer Mode	□ Standard　□ Fast PIO 1　□ Fast PIO 2　□ Fast PIO 3 □ Fast PIO 4　□ FPIO 3/DMA 1　■ FPIO 4/DMA 2
Ultra DMA Mode	□ Disabled　□ Mode 0　□ Mode 1　□ Mode 2　□ Mode 3 □ Mode 4　■ Mode 5
Primary Slave	
Type	■ Auto　□ None　□ CD-ROM　□ Other ATAPI　□ User
Multi_Sector Transfers	■ Disabled　□ 16 Sectors　□ 8 Sectors　□ 4 Sectors　□ 2 Sectors
LBA Mode Control	■ Disabled　□ Enabled
32Bit I/O	■ Disabled　□ Enabled
Transfer Mode	■ Standard　□ Fast PIO 1　□ Fast PIO 2　□ Fast PIO 3　□ Fast PIO 4 □ FPIO 3/DMA 1　□ FPIO 4/DMA 2
Ultra DMA Mode	■ Disabled　□ Mode 0　□ Mode 1　□ Mode 2　□ Mode 3　□ Mode 4　□ Mode 5
Secondary Master	
Type	■ Auto　□ None　□ CD-ROM　□ Other ATAPI　□ User
Multi_Sector Transfers	■ Disableds　□ 16 Sectors　□ 8 Sectors　□ 4 Sectors　□ 2 Sectors
LBA Mode Control	■ Disabled　□ Enabled
32Bit I/O	■ Disabled　□ Enabled

項目	設定値
Transfer Mode	☐ Standard ☐ Fast PIO 1 ☐ Fast PIO 2 ☐ Fast PIO 3 ■ Fast PIO 4 ☐ FPIO 3/DMA 1 ☐ FPIO 4/DMA 2
Ultra DMA Mode	☐ Disabled ☐ Mode 0 ☐ Mode 1 ■ Mode 2 ☐ Mode 3 ☐ Mode 4 ☐ Mode 5
Scondary Slave	
Type	■ Auto ☐ None ☐ CD-ROM ☐ Other ATAPI ☐ User
Multi_Sector Transfers	■ Disabled ☐ 16 Sectors ☐ 8 Sectors ☐ 4 Sectors ☐ 2 Sectors
LBA Mode Control	■ Disabled ☐ Enabled
32Bit I/O	■ Disabled ☐ Enabled
Transfer Mode	■ Standard ☐ Fast PIO 1 ☐ Fast PIO 2 ☐ Fast PIO 3 ☐ Fast PIO 4 ☐ FPIO 3/DMA 1 ☐ FPIO 4/DMA 2
Ultra DMA Mode	■ Disabled ☐ Mode 0 ☐ Mode 1 ☐ Mode 2 ☐ Mode 3 ☐ Mode 4 ☐ Mode 5
QuickBoot Mode	☐ Disabled ■ Enabled
System Memory	基本メモリ容量を表示
Extended Memory	拡張メモリ容量を表示
BIOS Revision	BIOS のバージョンを表示

Advanced メニュー

項目	規定値
Advanced Chipset Control	
Graphics Aperture	☐ 256MB ☐ 128MB ■ 64MB ☐ 32MB
Default Primary Video Adapter	☐ PCI ■ AGP
ECC Config	☐ Disabled ■ ECC
PCI Error Checking	☐ Disabled ■ Enabled
PCI Bus Resetting in early POST	☐ Disabled ■ Enabled
I/O Device Configuration	
Serial port A	■ Enabled ☐ Auto ☐ Disabled
Base I/O address	■ 3F8/IRQ4 ☐ 2F8/IRQ3 ☐ 3E8/IRQ4 ☐ 2E8/IRQ3
Serial port B	■ Enabled ☐ Auto ☐ Disabled
Base I/O address	☐ 3F8/IRQ4 ■ 2F8/IRQ3 ☐ 3E8/IRQ4 ☐ 2E8/IRQ3
Parallel port	■ Enabled ☐ Auto ☐ Disabled
Mode	☐ Output only ■ Bi-directional ☐ ECP ☐ EPP
Base I/O address	■ 378 ☐ 278
interrupt	☐ IRQ 5 ■ IRQ 7
DMA Channel	■ DMA1 ☐ DMA3
Integrated Device Control	
USB#0 Controller	☐ Disabled ■ Enabled
USB#1 Controller	☐ Disabled ■ Enabled
USB#2 Controller	☐ Disabled ■ Enabled

項目	規定値
USB2.0 Controller	☐ Disabled ■ Enabled
AC97 Audio Controller	☐ Disabled ■ Enabled
LAN Controller	☐ Disabled ■ Enabled
PXE Oprom	■ Disabled ☐ Enabled
Event Logging	
Event log validity	■ Valid ☐ Not valid
Event log capacity	■ Space Available ☐ Full
View event log	イベントログを表示
Event Logging	☐ Disabled ■ Enabled
ECC Event Logging	☐ Disabled ■ Enabled
Env. Event Logging	☐ Disabled ■ Enabled
Temperature Configuration	
Motherbord Temperature	☐ Disabled ■ Enabled
CPU Temperature	☐ Disabled ■ Enabled
Voltage Configuration	
CPU core	☐ Disabled ■ Enabled
1.25V	☐ Disabled ■ Enabled
1.5V	☐ Disabled ■ Enabled
1.5V Standby	☐ Disabled ■ Enabled
1.8V	☐ Disabled ■ Enabled
2.5V	☐ Disabled ■ Enabled
3.3V	☐ Disabled ■ Enabled
3.3V Standby	☐ Disabled ■ Enabled
5V	☐ Disabled ■ Enabled
5V Standby	☐ Disabled ■ Enabled
+12V	☐ Disabled ■ Enabled
-12V	☐ Disabled ■ Enabled
Lithium battery	☐ Disabled ■ Enabled
Fan Configuration	
FAN1	☐ Disabled ■ Enabled
FAN2	■ Disabled ☐ Enabled
FAN3	■ Disabled ☐ Enabled
FAN4	☐ Disabled ■ Enabled
Mark events as read	未読のイベントログを既読にする
Clear all event logs	☐ Yes ■ No
Enable ACPI	■ Yes ☐ No
Installes O/S	■ Win2000 ☐ Other
Reset Configuration Data	☐ Yes ■ No

項目	規定値
Boot-time Diagnostic Screen	☐ Disabled ■ Enabled
Summary screen	■ Disabled ☐ Enabled
Local Bus IDE adapter	☐ Disabled ☐ Primary ☐ Secondary ■ Both
Legacy USB Support	☐ Disabled ■ Enabled
Large Disk Access Mode	☐ Other ■ DOS
Primary IDE Cable	■ Auto Detect ☐ 80-Wire ☐ 40-Wire
Secondary IDE Cable	■ Auto Detect ☐ 80-Wire ☐ 40-Wire

Power メニュー

項目	規定値
ACPI Standby Mode	■ S3 ☐ S1
After Power Failure	☐ Stay Off ■ Last State ☐ Power On
Wake On LAN	■ Disabled ☐ Enabled
Wake On LAN S5	■ Disabled ☐ Enabled
Thermal Throttle	☐ Disabled ■ Enabled
Thermal Temperature Setting	☐ 70 ℃ ☐ 80 ℃ ☐ 90 ℃ ■ 100 ℃
Thermal Throttle Duty	■ 25% ☐ 50% ☐ 75%

Boot メニュー

項目	規定値
Boot Device Priority	ブート順を設定 ☐ Removable Device ☐ Hard Drive ☐ CD-ROM Drive ☐ IBA FE Slot 0240 v4110
Boot Wait Time	■ No wait ☐ 30s ☐ 60s ☐ 90s ☐ 120s ☐ 150s ☐ 180s

C.2 モデル 210

Main メニュー

項目	設定値
System Time	時：分：秒を設定
System Date	月／日／年（西暦）を設定
Legacy Diskette A	■ Disabled ☐ 1.44MB 3 1/2"
Primary Master	
Type	■ Auto ☐ None ☐ CD-ROM ☐ ATAPI Removable ☐ User
Multi-Sector Transfers	☐ Disabled ■ 16 Sectors ☐ 8 Sectors ☐ 4 Sectors ☐ 2 Sectors
LBA Mode Control	☐ Disabled ■ Enabled
32Bit I/O	■ Disabled ☐ Enabled
Transfer Mode	☐ Standard ☐ Fast PIO 1 ☐ Fast PIO 2 ☐ Fast PIO 3 ☐ Fast PIO 4 ☐ FPIO 3/DMA 1 ■ FPIO 4/DMA 2
Ultra DMA Mode	☐ Disabled ☐ Mode 0 ☐ Mode 1 ☐ Mode 2 ☐ Mode 3 ☐ Mode 4 ■ Mode 5
Primary Slave	
Type	■ Auto ☐ None ☐ CD-ROM ☐ ATAPI Removable ☐ User
Multi-Sector Transfers	■ Disableds ☐ 16 Sectors ☐ 8 Sectors ☐ 4 Sectors ☐ 2 Sectors
LBA Mode Control	■ Disabled ☐ Enabled
32Bit I/O	■ Disabled ☐ Enabled
Transfer Mode	■ Standard ☐ Fast PIO 1 ☐ Fast PIO 2 ☐ Fast PIO 3 ☐ Fast PIO 4 ☐ FPIO 3/DMA 1 ☐ FPIO 4/DMA 2
Ultra DMA Mode	■ Disabled ☐ Mode 0 ☐ Mode 1 ☐ Mode 2 ☐ Mode 3 ☐ Mode 4 ☐ Mode 5
Secondary Master	
Type	■ Auto ☐ None ☐ CD-ROM ☐ ATAPI Removable ☐ User
Multi-Sector Transfers	■ Disableds ☐ 16 Sectors ☐ 8 Sectors ☐ 4 Sectors ☐ 2 Sectors
LBA Mode Control	■ Disabled ☐ Enabled
32Bit I/O	■ Disabled ☐ Enabled
Transfer Mode	☐ Standard ☐ Fast PIO 1 ☐ Fast PIO 2 ☐ Fast PIO 3 ■ Fast PIO 4 ☐ FPIO 3/DMA 1 ☐ FPIO 4/DMA 2
Ultra DMA Mode	☐ Disabled ☐ Mode 0 ☐ Mode 1 ■ Mode 2 ☐ Mode 3 ☐ Mode 4 ☐ Mode 5
Secondary Slave	
Type	■ Auto ☐ None ☐ CD-ROM ☐ ATAPI Removable ☐ User
Multi-Sector Transfers	■ Disableds ☐ 16 Sectors ☐ 8 Sectors ☐ 4 Sectors ☐ 2 Sectors
LBA Mode Control	■ Disabled ☐ Enabled
32Bit I/O	■ Disabled ☐ Enabled
Transfer Mode	■ Standard ☐ Fast PIO 1 ☐ Fast PIO 2 ☐ Fast PIO 3 ☐ Fast PIO 4 ☐ FPIO 3/DMA 1 ☐ FPIO 4/DMA 2
Ultra DMA Mode	■ Disabled ☐ Mode 0 ☐ Mode 1 ☐ Mode 2 ☐ Mode 3 ☐ Mode 4 ☐ Mode 5

項目	設定値
System Memory	基本メモリ容量を表示
Extended Memory	拡張メモリ容量を表示

Advanced メニュー

項目	設定値
Legacy USB Support	☐ Disabled ■ Enabled
Memory Cache	☐ Disabled ■ Enabled
AGP Aperture Size	■ 256MB ☐ 128MB ☐ 64MB
PCI Configuration	
PCI Device, Slot #1	
Option ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
Enable Master	☐ Disabled ■ Enabled
Latency Timer	☐ Default ☐ 0020h ■ 0040h ☐ 0060h ☐ 0080h ☐ 00A0h ☐ 00C0h ☐ 00E0h
PCI Device, Slot #2	
Option ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
Enable Master	☐ Disabled ■ Enabled
Latency Timer	☐ Default ☐ 0020h ■ 0040h ☐ 0060h ☐ 0080h ☐ 00A0h ☐ 00C0h ☐ 00E0h
I/O Device Configuration	
Serial port A	☐ Disabled ■ Enabled ☐ Auto
Base I/O address	■ 3F8 ☐ 2F8 ☐ 3E8 ☐ 2E8
Interrupt	■ IRQ4 ☐ IRQ3
Serial port B	☐ Disabled ■ Enabled ☐ Auto
Base I/O address	☐ 3F8 ■ 2F8 ☐ 3E8 ☐ 2E8
Interrupt	☐ IRQ4 ■ IRQ3
Parallel port	☐ Disabled ■ Enabled ☐ Auto
Mode	■ Bi-directional ☐ ECP ☐ EPP ☐ Output only
Bace I/O address	☐ 278 ■ 378
Interrupt	☐ IRQ5 ■ IRQ7
Internal Device Configuration	
Floppy Disk Controller	☐ Disabled ■ Enabled
IDE Controller	■ Both ☐ Primary ☐ Secondary ☐ Disabled
Primary IDE Cable	■ Auto Detect ☐ 80-Wire ☐ 40-Wire
Secondary IDE Cable	■ Auto Detect ☐ 80-Wire ☐ 40-Wire
Video Controller	☐ Disabled ■ Enabled
Dual Display	☐ Disabled ■ Enabled
Video Output	☐ CRT & LCD ☐ CRT only ☐ LCD only ■ VBIOS Default
LCD Panel Type	■ 1024 × 768 LVDS
Audio Controller	☐ Disabled ■ Enabled

項目		設定値
	LAN Controller	■ All ☐ LAN#1 ☐ LAN#2 ☐ Disabled
	PXE OPROM	■ Disabled ☐ Enabled
	USB Controller	■ All ☐ 4 Port ☐ 2 Port ☐ Disabled
	USB 2.0 Function	☐ Disabled ■ Enabled
Reset Configuration Data		ESCD 領域のデータ初期化を指定
Event Logging		
	Event Log Capacity	■ Space Available ☐ Full
	Event Log Validity	■ Valid ☐ Not Valid
	View Event Log	イベントログを表示
	Clear All Event Logs	☐ Yes ■ No
	Event Logging	☐ Disabled ■ Enabled
	ECC Event Logging	☐ Disabled ■ Enabled
	POST Event Logging	☐ Disabled ■ Enabled
Core Frequency		■ Auto Max ☐ 200MHz/133MHz ☐ 200MHz/200MHz ☐ 266MHz/200MHz ☐ 333MHz/250MHz
FAN Speed Control		☐ 25% ☐ 50% ☐ 75% ■ 100%
PCIBus Resetting in early POST		☐ Disabled ■ Enabled

Power メニュー

項目		設定値
ACPI Sleep State		☐ S1 ■ S3
Wake up on USB from S3		■ Disabled ☐ Enabled
Wake up on LAN		■ Disabled ☐ Enabled
Wake up on PCI PME from S5		■ Disabled ☐ Enabled
After Power Failure		☐ Power On ■ Stay Off
Advanced CPU configuration		
	SpeedStep(R) Technology	☐ Disabled ■ Enabled
	Initial state	■ 1.6GHz ☐ 1.4GHz ☐ 1.2GHz ☐ 1.0GHz ☐ 800MHz ☐ 600MHz

Boot メニュー

項目	設定値
Boot-time Diagnostic Screen	☐ Disabled ■ Enabled
Quick Boot Mode	☐ Disabled ■ Enabled
Boot Device Priority	ブート順を設定 ☐ Removable Devices ☐ Hard Drive ☐ CD-ROM Drive ☐ Net Work Boot ☐ IBA FE Slot 0220 v4110 ☐ IBA FE Slot 0228 v4110

C.3 モデル 200E

Main メニュー

項目	設定値
System Time	時：分：秒を設定
System Date	月／日／年（西暦）を設定
Legacy Diskette A	■ Disabled ☐ 1.44MB 3 1/2"
IDE Channel 0 Master	
Type	■ Auto ☐ None ☐ CD-ROM ☐ ATAPI Removable ☐ User
Multi-Sector Transfers	☐ Disabled ☐ 16 Sectors ☐ 8 Sectors ☐ 4 Sectors ☐ 2 Sectors
LBA Mode Control	☐ Disabled ☐ Enabled
32Bit I/O	■ Disabled ☐ Enabled
Transfer Mode	☐ Standard ☐ Fast PIO 1 ☐ Fast PIO 2 ☐ Fast PIO 3 ☐ Fast PIO 4 ☐ FPIO 3/DMA 1 ☐ FPIO 4/DMA 2
Ultra DMA Mode	☐ Disabled ☐ Mode 0 ☐ Mode 1 ☐ Mode 2 ☐ Mode 3 ☐ Mode 4 ☐ Mode 5
IDE Channel 0 Slave	
Type	■ Auto ☐ None ☐ CD-ROM ☐ ATAPI Removable ☐ User
Multi-Sector Transfers	☐ Disabled ☐ 16 Sectors ☐ 8 Sectors ☐ 4 Sectors ☐ 2 Sectors
LBA Mode Control	☐ Disabled ☐ Enabled
32Bit I/O	■ Disabled ☐ Enabled
Transfer Mode	☐ Standard ☐ Fast PIO 1 ☐ Fast PIO 2 ☐ Fast PIO 3 ☐ Fast PIO 4 ☐ FPIO 3/DMA 1 ☐ FPIO 4/DMA 2
Ultra DMA Mode	☐ Disabled ☐ Mode 0 ☐ Mode 1 ☐ Mode 2 ☐ Mode 3 ☐ Mode 4 ☐ Mode 5
IDE Channel 1 Master	
Type	■ Auto ☐ None ☐ CD-ROM ☐ ATAPI Removable ☐ User
Multi-Sector Transfers	☐ Disabled ☐ 16 Sectors ☐ 8 Sectors ☐ 4 Sectors ☐ 2 Sectors
LBA Mode Control	☐ Disabled ☐ Enabled
32Bit I/O	■ Disabled ☐ Enabled
Transfer Mode	☐ Standard ☐ Fast PIO 1 ☐ Fast PIO 2 ☐ Fast PIO 3 ☐ Fast PIO 4 ☐ FPIO 3/DMA 1 ☐ FPIO 4/DMA 2
Ultra DMA Mode	☐ Disabled ☐ Mode 0 ☐ Mode 1 ☐ Mode 2 ☐ Mode 3 ☐ Mode 4 ☐ Mode 5
IDE Channel 1 Slave	
Type	■ Auto ☐ None ☐ CD-ROM ☐ ATAPI Removable ☐ User
Multi-Sector Transfers	☐ Disabled ☐ 16 Sectors ☐ 8 Sectors ☐ 4 Sectors ☐ 2 Sectors
LBA Mode Control	☐ Disabled ☐ Enabled
32Bit I/O	■ Disabled ☐ Enabled
Transfer Mode	☐ Standard ☐ Fast PIO 1 ☐ Fast PIO 2 ☐ Fast PIO 3 ☐ Fast PIO 4 ☐ FPIO 3/DMA 1 ☐ FPIO 4/DMA 2

項目	設定値
Ultra DMA Mode	☐ Disabled ☐ Mode 0 ☐ Mode 1 ☐ Mode 2 ☐ Mode 3 ☐ Mode 4 ☐ Mode 5
ATA Configuration	
ATA Mode	☐ Disabled ☐ P-ATA Only ☐ S-ATA Only ☐ Combined ■ Enhanced
P-ATA Cable	■ Auto Detect ☐ 80-Wire ☐ 40-Wire
S-ATA Mode	☐ Legacy ■ Native
AHCI Mode	■ Disabled ☐ Enabled
System Memory	基本メモリ容量を表示
Extended Memory	拡張メモリ容量を表示
Memory Mode	メモリのアクセスモードを表示
BIOS Revision	BIOS の版数を表示

Advanced メニュー

項目	設定値
Legacy USB Support	☐ Disabled ■ Enabled
Memory Cache	☐ Disabled ■ Enabled
PCI Configuration	
PCI Device, Slot #1	
Option ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
Enable Master	☐ Disabled ■ Enabled
Latency Timer	■ Default ☐ 0020h ☐ 0040h ☐ 0060h ☐ 0080h ☐ 00A0h ☐ 00C0h ☐ 00E0h
PCI Device, Slot #2	
Option ROM Scan	☐ Disabled ■ Enabled
Enable Master	☐ Disabled ■ Enabled
Latency Timer	■ Default ☐ 0020h ☐ 0040h ☐ 0060h ☐ 0080h ☐ 00A0h ☐ 00C0h ☐ 00E0h
I/O Device Configuration	
Serial port A	☐ Disabled ■ Enabled ☐ Auto
Base I/O address	■ 3F8 ☐ 2F8 ☐ 3E8 ☐ 2E8
Interrupt	■ IRQ4 ☐ IRQ3
Serial port B	☐ Disabled ■ Enabled ☐ Auto
Base I/O address	☐ 3F8 ■ 2F8 ☐ 3E8 ☐ 2E8
Interrupt	☐ IRQ4 ■ IRQ3
Parallel port	☐ Disabled ■ Enabled ☐ Auto
Mode	■ Bi-directional ☐ ECP ☐ EPP ☐ Output only
Bace I/O address	☐ 278 ■ 378
Interrupt	■ IRQ5 ☐ IRQ7
DMA channel	☐ DMA 1 ☐ DMA 3
Internal Device Configuration	
Floppy Disk Controller	☐ Disabled ■ Enabled
Video Controller	☐ Disabled ■ Enabled

項目	設定値
Dual Display	☐ Disabled ■ Enabled
Video Output	☐ VBIOS Default ■ CRT ☐ LVDS ☐ TV ☐ DVI ☐ CRT + DVI
LCD Panel Type	☐ VBIOS Default ☐ 640x480 18b LVDS ☐ 800x600 18b LVDS ■ 1024x768 18b LVDS
TV Standard	Minor Standard
Audio Controller	☐ Disabled ■ Enabled
LAN Controller	☐ Disabled ■ Enabled
PXE OPROM	■ Disabled ☐ Enabled
Giga-LAN Controller	☐ Disabled ■ Enabled
Giga-PXE OPROM	■ Disabled ☐ Enabled
USB Controller	■ All ☐ 6 Port ☐ 4 Port ☐ 2 Port ☐ Disabled
USB 2.0 Function	☐ Disabled ■ Enabled
Reset Configuration Data	ESCD 領域のデータ初期化を指定
Event Logging	
Event Log Capacity	■ Space Available ☐ Full
Event Log Validity	■ Valid ☐ Not Valid
View Event Log	イベントログを表示
Clear All Event Logs	☐ Yes ■ No
Event Logging	☐ Disabled ■ Enabled
POST Error Logging	☐ Disabled ■ Enabled
PCI Error Logging	☐ Disabled ■ Enabled
Console Redirection	
Com Port Address	■ Disabled ☐ COM Port A ☐ COM Port B
Baud Rate	コンソールリダイレクションで使用するボーレートを設定
Console Type	■ PC ANSI ☐ VT100
Flow Control	☐ None ☐ XON/XOFF ■ CTS/RTS
Continue C.R. after Post	■ Off ☐ On
WatchDog Timer	■ Disabled ☐ Enabled

Security メニュー

項目	設定値
Supervisor Password Is	BIOS セットアップを起動するための管理者用パスワードの状態を表示
Set Supervisor Password	BIOS セットアップを起動するための管理者用パスワードを設定

Power メニュー

項目	設定値
Wake up on LAN	■ Disabled ☐ Enabled
Wake up on Giga-LAN	■ Disabled ☐ Enabled
Wake up on PCI PME	■ Disabled ☐ Enabled
Wake up on Time	■ Disabled ☐ Enabled
Wake up Time	システムの起動時刻を設定
After Power Failure	☐ Power On ■ Stay Off ☐ Last State
Advanced CPU configuration	
SpeedStep(R) Technology	☐ Disabled ■ Enabled
Initial state	■ 2.00GHz ☐ 1.60GHz ☐ 1.33GHz ☐ 1.06GHz ☐ 800MHz
Processor Fan Speed	☐ 25% ☐ 50% ☐ 75% ■ 100%
System Fan Speed	☐ 25% ☐ 50% ☐ 75% ■ 100%

Boot メニュー

項目	設定値
Boot-time Diagnostic Screen	☐ Disabled ■ Enabled
Quick Boot Mode	☐ Disabled ■ Enabled
Boot Device Priority	ブート順を設定 ☐ Removable Devices ☐ Hard Drive ☐ CD-ROM Drive ☐ Net Work Boot ☐ IBA GE Slot 0630 v1226 ☐ IBA FE Slot 0640 v4116

付録 D アラーム LED の仕様について

POST 動作中にエラーを検出した場合に、BIOS でアラーム LED を点灯させます。
アラーム LED の点灯／消灯条件は、以下のとおりです。

D.1 アラーム LED 点灯条件

以下の POST エラー発生時に、アラーム LED を点灯させます。

- System timer error
- System battery is dead
- System CMOS checksum bad
- Keyboard
- System cache error
- Diskette drive A error
- Incorrect Drive A type
- Check date and time settings

重要 RAID オプション搭載時、RAID に障害が発生してもアラーム LED は点灯しません。

D.2 アラーム LED 消灯条件

システムリセット、S4、および電源を切断したときに、アラーム LED を消灯させます。

重要 サスペンド（S1/S3）を行った場合、アラーム LED は消灯しません（モデル 200/210 のみ）。

付録 E Ultra POST について（モデル 200/210）

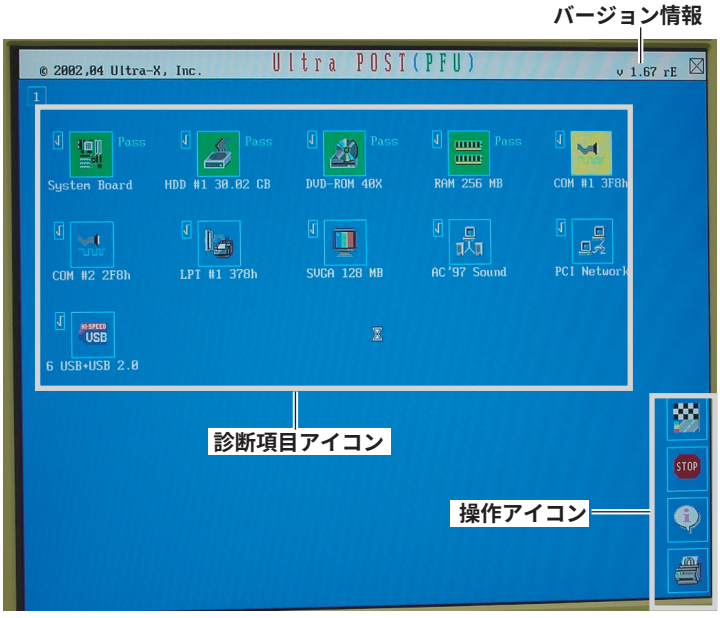
E.1 Ultra POST とは

Ultra POST とは、BIOS 組込み型のハードウェア診断機能です。ベースボード上に搭載されるチップセット、I/O コントローラなどを診断対象としています。本機能は、不具合発生時の被疑箇所（ソフトウェア／ハードウェア）切り分け用ツールとして使用します。なお、被疑箇所の切り分けを目的としているため、エラー詳細については表示されません。

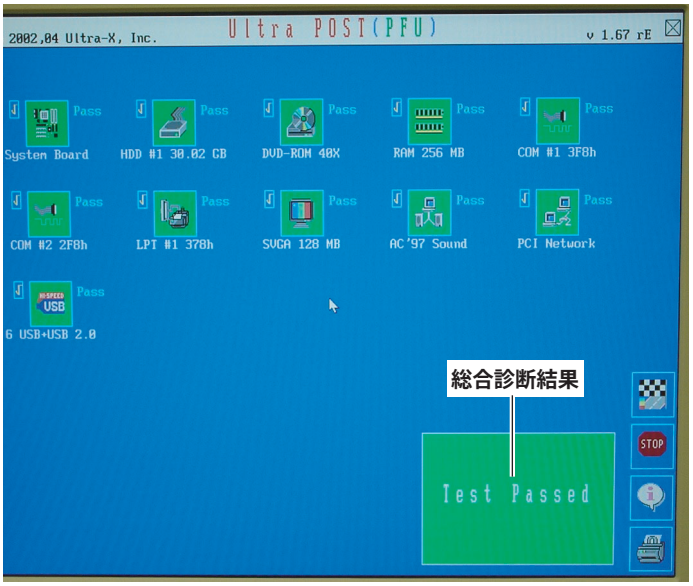
E.2 診断手順

以下に、Ultra POST でハードウェア診断を行う手順について説明します。

1 電源を入れたあと、「Press <Ctrl><T> to run Ultra POST 」と表示されている間に <Ctrl>+<T> キーを押します。
以下の画面が起動し、自動的に診断が始まります。



2 以下のように総合診断結果のウィンドウが表示されたら、☒をクリックするか、<F10> キーを押します。
システムがリセットされ、システムが再起動します。



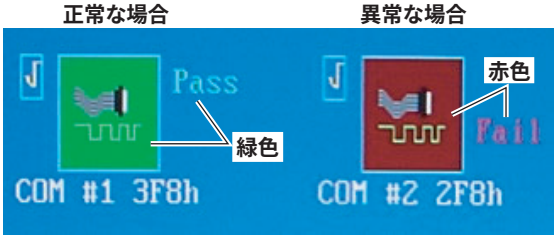
E.3 画面の詳細説明

Ultra POST の画面について、詳細を説明します。

(1) 診断項目

アイコン内には、「Floppy」(フロッピーディスクドライブ)や「HDD」(ハードディスク)などの診断項目のグラフィックが表示されます。また、アイコンの下には診断項目の名称が表示されます。

- 診断結果が正常な場合
  アイコン内は緑色になり、アイコンの右側上部に緑色の文字で「Pass」と表示されます。
- 診断結果が異常な場合
  アイコン内は赤色になり、アイコンの右側中央付近に赤色の文字で「Fail」と表示されます。



（2） 総合診断結果

選択された診断項目のすべての診断が終了すると、総合診断結果のウィンドウが表示されます。すべての項目が正常と診断されると、緑色のウィンドウで、「Test Passed」と表示されます。1 つでも異常な項目があると診断されると、赤色のウィンドウで、「Test Failed」と表示されます。

すべての項目が正常な場合

ウィンドウ色：緑

異常な項目がある場合

ウィンドウ色：赤

（3） 操作アイコン

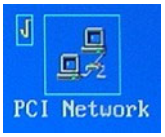
各アイコンの説明をします。

項目	アイコン	詳細
診断開始		選択された診断項目の診断を開始します。診断を行っていない状態（診断終了後、または診断中止後）のみ使用できます。
診断中断		進行中の診断を強制中断します。診断を行っている状態のみ有効です。
情報		Ultra POST の操作に関する情報が表示されます。
印刷		本機能は未サポートです。
Ultra POST 終了		クリックをすると、システムをリセットし、再起動します。

E.4　診断項目の詳細説明

診断項目の詳細は以下のとおりです。

項目	アイコン	詳細
System Board		以下の診断を行います。 ・DMA：DMA チャネル診断 ・INT：PIC 診断 ・TIMER：システムタイマ診断 ・RTC：RTC 診断 ・CMOS：CMOS 診断
Floppy		フロッピーディスクドライブの検出診断を行います。
HDD		ハードディスクの検出診断を行います。
CD		CD-ROM ドライブの検出診断を行います。
Memory		各種アルゴリズムによるメモリ診断を行います。
Serial		シリアルポート・コントローラの内部レジスタ診断を行います。
LPT		パラレルポート・コントローラの内部レジスタ診断を行います。
VGA		VGA、VESA モードの診断、およびビデオメモリの診断を行います。
Audio		オーディオコントローラの検出診断を行います。

項目	アイコン	詳細
LAN		LAN コントローラの検出診断を行います。
USB + USB 2.0		USB コントローラの検出診断を行います。

なお、接続されているデバイス、または使用できる機能に応じて、診断項目は自動的に選択されます。

例

- ハードディスクが 2 台接続されているとき、ハードディスクの診断項目は以下のように「HDD #1」、「HDD #2」と表示されます。

- BIOS セットアップで COM 1 を「Disabled」に設定したとき、COM 1 の診断項目は表示されません。

付録 F 他社製周辺機器をご利用の際の注意事項

他社製の周辺機器をご利用の場合には、以下の点を確認してください。

- 本製品が、ご利用になる周辺機器のハードウェア条件を満たしていること
- ご利用の OS が、周辺機器の対応 OS に含まれていること
- ご利用の周辺機器がデバイスドライバを必要とする場合、そのドライバが最新版であること
- ご利用の周辺機器が、パワーマネジメント（サスペンド・レジューム）機能をサポートしていること

  備考 パワーマネジメント機能をサポートしていない周辺機器を接続した状態でサスペンドモードに移行すると、問題が発生する場合があります。

- その他、周辺機器の使用条件を満たしていること

  単独では正常に動作する周辺機器であっても、他の周辺機器との組み合わせによって、不具合が発生する可能性があります。

付録 G ハードディスクの連続長時間運用に関する注意事項

オプションの PD-AR8D80R / PD-AR8D802（80GB ハードディスク）と PD-AR8D160 / PD-AR8D1602（160GB ハードディスク）は、1 日 8 時間、月 200 時間動作で 5 年の使用を目安に設計しています。これは、使用環境温度が 25 ℃で、湿度範囲 20 ～ 80%（RH）の条件下で、本書の設置環境に記載した適切な設置条件を想定しています。
長時間連続で使用した場合には、1 年以内であっても故障が多発する場合があります。
24 時間運用など長時間連続運用される場合には、必ず弊社にご相談ください。

G.1 故障と運用時の注意事項

HDD の故障は劣化要因以外にも偶発的に起こる場合があります。重要なデータを消失しないためには、他の記憶装置（HDD ／ MO ／テープなど）にバックアップする以外に確実な方法はありません。連続運用時間に関わらず、バックアップをとることをお薦めします。
また、未使用時は極力、装置の電源切断や省電力モードによるハードディスクの電源切断を行ってください。

G.2 修理について

上記ハードディスクを 24 時間運用など長時間連続で使用した場合、無償保証期間内の故障であっても、無償修理にはなりませんのでご注意ください。

付録 H カリフォルニア州法（過塩素酸塩の取り扱いに関する規制）について

カリフォルニア州で「過塩素酸塩の取り扱いに関する規制」が制定されています。

H.1 規制対象

本製品の時計バックアップ用のリチウム一次電池は、過塩素酸塩含有量が 6ppb 以上であり、規制の対象です。

H.2 適用範囲

カリフォルニア州で過塩素酸塩物質を管理（製造、輸送、使用など）する全ての取扱者に適用されます。

H.3 過塩素酸塩物質の管理実践要求事項の表示

カリフォルニア州で過塩素酸塩物質を製造、流通、販売、使用、廃棄される場合、およびカリフォルニア州に輸出される場合は、個装箱、輸送箱（出荷梱包用）などに下記表示が義務化されています。

Perchlorate Material - special handling may apply.
See www.dtsc.ca.gov/hazardouswaste/perchlorate

H.4 必要な対応

お客様において本製品、または本製品を組み込んだお客様製品をカリフォルニア州へ輸出される場合は、この州法への対応を実施してください。

このページは空白です。

索引

あ行

インレット 6, 7, 9

か行

外形寸法の詳細 13
拡張カード
　拡張カードスロットの仕様 32
　搭載場所 31
カバー
　取り付け 33
　取り外し 33
キーボードコネクタ 6, 7, 9
コネクタの接続 19

さ行

シリアルポート 6, 7, 8, 9, 10
シリアルポート A 61, 86, 113
シリアルポート B 61, 86, 113

た行

ディスプレイコネクタ 7, 9
電源スイッチ 5
電源の入れ方／切り方 21
電源ランプ 5
転送モード 80, 106

は行

ハードディスクアクセスランプ 5
パラレルポート 6, 7, 9, 87, 114
フロッピーディスク
　セット 23
　取り扱い上の注意 23
　取り出し 23
防塵フィルタ 28

ま行

マイクインコネクタ 6, 7, 9
マウスコネクタ 6, 7, 9

ら行

ラインアウトコネクタ 6, 7, 9
ラインインコネクタ 6, 7, 9
ラベル 11
リセットスイッチ 5

A

AGP カード
　取り付け 36
　取り外し 40
AGP スロット 6, 8
AGP リテナー 40

B

BIOS セットアップ
　終了 45
　使用するキー 44
　すべての設定内容を一度に標準設定に戻すには 44
　すべての設定内容を一度に変更前の内容に戻すには 44
　設定変更 44
　変更した設定内容を保存して終了するとき 45
　変更した設定内容を保存しないで終了するとき 45
　設定した内容をいったん CMOS RAM に保存するには 45
BIOS セットアップ（モデル 200E）
　起動 43
　Advanced CPU Configuration 123
　Advanced メニュー 109
　After Power Failure 123
　AHCI Mode 108
　ATA Configuration 103
　ATA Mode 107
　Audio Controller 117
　Baud Rate 120
　BIOS Revision 104

Boot メニュー 125
Boot Device Priority 125
Boot-time Diagnostic Screen 125
CD-ROM Drive 127
Clear All Event Logs 119
Com Port Address 120
Console Type 120
Console Redirection 110
Continue C.R. after Post 120
d キー 126
Discard Changes 128
Dual Display 116
Enable Master 112
Enter キー 126
Event Log Capacity 118
Event Log Validity 118
Event Logging 110, 119
Exit Discarding Changes 128
Exit Saving Changes 128
Extended Memory 104
Floppy Disk Controller 115
Flow Control 120
Giga-LAN Controller 117
Giga-PXE OPROM 117
Hard Drive 127
IBA FE Slot 0640 v4116 127
IBA GE Slot 0630 v1226 127
IDE Channel 0 Master 103
IDE Channel 0 Slave 103
IDE Channel 1 Master 103
IDE Channel 1 Slave 103
Initial state 124
Internal Device Configuration 110
I/O Device Configuration 109
LAN Controller 117
Latency Timer 112
LBA Mode Control 106
LCD Panel Type 116
Legacy Diskette A 103
Legacy USB Support 109
Load Setup Defaults 128
Main メニュー 103
Memory Cache 109
Memory Mode 104
Multi-Sector Transfers 106
Network Boot 127
Option ROM Scan 112
Parallel port 114
PCI Configuration 109
PCI Device, Slot #n 111
PCI Error Logging 119
POST Error Logging 119
Power メニュー 122
Processor Fan Speed 123
PXE OPROM 117
P-ATA Cable 107
QuickBoot Mode 125
Removable Devices 126
Reset Configuration Data 110
Save Changes 128
Security メニュー 121
Serial port A 113
Serial port B 113
Set Supervisor Password 121
Shift+1 キー 126
SpeedStep(R) Technology 124
Supervisor Password Is 121
System Date 103
System Fan Speed 123
System Memory 104
System Time 103
S-ATA Mode 108
Transfer Mode 106
TV Standard 116
Type 105
Ultra DMA Mode 106
USB Controller 117
USB 2.0 Function 118
Video Controller 115
Video Output 116
View Event Log 118
Wake up on Giga-LAN 122
Wake up on LAN 122
Wake up on PCI PME 122
Wake up on Time 122
Wake up Time 123
WatchDog Timer 110
32 Bit I/O 106
＋キー 126
－キー 126
BIOS セットアップ（モデル 200）
起動 42
セットアップメニュー 46
ACPI Standby Mode 71

AC97 Audio Controller 64
Advanced Chipset Control 57
Advanced メニュー 57
After Power Failure 71
Base I/O address 61, 62
BIOS Revision 48
Boot Device Priority 73
Boot Wait Time 73
Boot メニュー 73
Boot-time Diagnostic Screen 58
CD-ROM Drive 75
Clear all event Logs 66
CPU core 68
CPU Temperature 67
Default Primary Video Adapter 60
Discard Changes 76
DMA Channel 62
ECC Config 60
ECC Event Logging 66
Enable ACPI 58
Enter キー 74
Env. Event Logging 66
Event Log Capacity 65
Event Log Validity 65
Event Logging 58, 65
Exit Discarding Changes 76
Exit Saving Changes 76
Exit メニュー 76
Extended Memory 48
Fan Configuration 66
FAN1 70
FAN2 70
FAN3 70
FAN4 70
Graphics Aperture 60
Hard Drive 75
IBA FE Slot 0240 v4110 75
Installed O/S 58
Integrated Device Control 57
Interrupt 62
I/O Device Configuration 57
LAN Controller 64
Large Disk Access Mode 59
LBA Mode Control 50, 52, 54, 56
Legacy Diskette A 47
Legacy USB Support 58
Lithium battery 69
Load Setup Defaults 76
Local Bus IDE adapter 58
Main メニュー 47
Mark events as read 66
Mode 62
Motherboad Temperature 67
Multi-Sector Transfers
..... 50, 51, 53, 55
Parallel port 62
PCI Error Checking 60
PCIBus Resetting in early POST
.....61
Power メニュー 71
Primary IDE Cable 59
Primary Master 47
Primary Slave 47
PXE Oprom 64
QuickBoot Mode 48
Removable Device 74
Reset Configuration Data 58
Save Changes 76
Secondary IDE Cable 59
Secondary Master 47
Secondary Slave 47
Serial port A 61
Serial port B 61
Shift + 1 キー 74
Summary screen 58
System Date 47
System Memory 48
System Time 47
Temperature Configuration 66
Thermal Temperature Setting 72
Thermal Throttle 72
Thermal Throttle Duty 72
Transfer Mode 50, 52, 54, 56
Type 49, 51, 53, 55
Ultra DMA Mode 50, 52, 54, 56
USB2.0 Controller 64
USB#0 Controller 63
USB#1 Controller 63
USB#2 Controller 63
View Event Log 65
Voltage Configuration 66
Wake On LAN 71
Wake On LAN from S5 71
1.25V 68

1.5V 68
1.5V Standby 68
1.8V 68
2.5V 68
32 Bit I/O 50, 52, 54, 56
3.3V 69
3.3V Standby 69
5V 69
5V Standby 69
+12V 69
-12V 69
＋キー 74
－キー 74
BIOS セットアップ（モデル 210）
起動 42
セットアップメニュー 77
ACPI Sleep State 94
Advanced CPU Configuration 95
Advanced メニュー 81
After Power Failure 95
AGP Aperture Size 81
Audio Controller 89
Boot Device Priority 98
Boot メニュー 97
Boot-time Diagnostic Screen 97
CD-ROM Drive 100
Clear All Event Logs 92
Core Frequency 82
d キー 99
Discard Changes 101
Dual Display 89
ECC Event Logging 92
Enable Master 85
Enter キー 99
Event Log Capacity 91
Event Log Validity 91
Event Logging 82, 92
Exit Discarding Changes 101
Exit Saving Changes 101
Exit メニュー 101
Extended Memory 78
FAN Speed Control 83
Floppy Disk Controller 88
Hard Drive 100
IBA FE Slot 0220 v4110 100
IBA FE Slot 0228 v4110 100
IDE Controller 88
Initial state 96
Internal Device Configuration 82
I/O Device Configuration 82
LAN Controller 89
Latency Timer 85
LBA Mode Control 80
LCD Panel Type 89
Legacy Diskette A 78
Legacy USB Support 81
Load Setup Defaults 101
Main メニュー 78
Memory Cache 81
Multi-Sector Transfers 80
Network Boot 100
Option ROM Scan 85
Parallel port 87
PCI Configuration 82
PCI Device, Slot #n 84
PCIBus Resetting in early POST 83
POST Event Logging 92
Power メニュー 94
Primary IDE Cable 89
Primary Master 78
Primary Slave 78
PXE OPROM 90
QuickBoot Mode 97
Removable Devices 99
Reset Configuration Data 82
Save Changes 101
Secondary IDE Cable 89
Secondary Master 78
Secondary Slave 78
Serial port A 86
Serial port B 86
Set Supervisor Password 93
Shift + 1 キー 99
SpeedStep(R) Technology 96
Supervisor Password Is 93
System Date 78
System Memory 78
System Time 78
Transfer Mode 80
Ultra DMA Mode 80
USB Controller 90
USB 2.0 Function 90
Video Controller 89

Video Output 89
View Event Log 91
Wake up on LAN from S5 94
Wake up on PCI PME from S5 94
Wake up on USB from S3 94
32 Bit I/O 80
＋キー 99
－キー 99

C

CD-ROM
セット 26
取り扱い上の注意 24
取り出し 27

I

IRQ 86, 113
I/O ポートアドレス 86, 113

L

LAN コネクタ 6, 7, 8, 9, 10
LBA 80, 106

P

PCI カード
取り付け 34
取り外し 35
PCI スロット 6, 7, 9

U

Ultra POST 150
USB コネクタ 5, 6, 7, 9

このページは空白です。

エンベデッドコンピュータ AR8200 シリーズ

取扱説明書

P3XU-E261-04Z0

発 行 日　2007 年 4 月

発行責任　株式会社 PFU

●本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。

●本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、弊社はその責を負いません。

●無断転載を禁じます。